# Ⅱ. 授業科目の概要

※各科目の詳細、最新情報については、シラバス及び医歯学総合研究科 HP を参照してください。

# 1. 共通コア科目

1. 六四二/11日		All M. Mr. Sharant
授業科目名		講義等の概要
医歯学研究講義	授業形態	講義
	主担当教員	医歯学総合研究科教育委員会委員長/ PhD program coordinator
	テーマ	life science
	学習目標	医歯学研究の最先端を学ぶ。
		1. 最先端医歯学研究を理解するために必要な基礎知識を説明できる
	到達目標	2. 医歯学研究の最先端トピックを説明できる
		3. 最先端研究で使われる実験・研究手法を説明できる
医歯学倫理学	授業形態	講義
	主担当教員	医歯学総合研究科教育委員会委員長
	テーマ	医歯学倫理学(生命医療倫理学)
	, ,	  倫理の諸問題を通じて、医療関係者の人間性・社会性・倫理観等の涵養を行い、同時に臨床研究
	学習目標	一個性の間问題を通じて、医療関係者の人間性・社会性・個性観寺の個質を行い、同時に臨床切五  や動物実験における倫理の持つ意味を正しく理解する。さらに、遺伝子疾患、臓器移植や先端的
	十 日 日 1 伝	医療等における倫理の諸問題を深く理解し、実践できるようになることが学習目標である。
	2014年日福	位理上の諸問題について理解し、実践できるようになる。
D.1. 10.	到達目標	
Ethics and Science	授業形態	講義
Grobal Course	主担当教員	Sloan Robert Alan
	テーマ	Ethics and Science
	学習目標	Students will learn key ethical concepts related to responsible conduct of scientific research
		In this course we will explore the ethics of science and scientific research. This course will
		provide a foundation for thinking about and recognizing the ethical dimensions of a variety
		of issues. Topics will include: misconduct in research, conflicts of interest and scientific
	到達目標	objectivity, publication and peer review, intellectual property, and ethical decision making.
		Students will engage these issues with the help of philosophical tools, apply these tools to
		case studies, and be challenged to think broadly about the role of scientists in society as well
		as learn how to critically assess the ethical consequences of science for humankind.
科学倫理学基礎論	授業形態	講義
	主担当教員	信友 建志/NOBUTOMO Kenji
	テーマ	科学倫理学
	学習目標	生命倫理の展開と展望の理解に必要な思想的・社会的な歴史的経緯を理解する。
		1. 生命倫理研究において要求されるさまざまな知識の思想的、歴史的な背景と経緯を認識し、
	到達目標	倫理的配慮の必要性を述べることができる。
	=	2. 生命倫理研究と社会との相互関係や影響関係を理解し説明することができる。
医療者教育学入門	授業形態	講 義
	主担当教員	横尾 英孝/YOKOH Hidetaka
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	7 1 1 1 1 1	1. 医療者教育学の概要や基本的な理論、重要トピックについて説明することができる。
	到達目標	2. 修得した理論や知識、手法を用いて実際の教育現場で効果的な指導、評価、カリキュラム
	为足口标	開発、教育実践の改善を行うことができる。
生命科学英語 /Life	授業形態	講義
Science English	主担当教員	草野 秀一/ KUSANO Shuichi
[Grobal Course]		
Grobar Course,		英語で生命科学を理解する
	学習目標	生命科学研究を円滑に行うために必要な、生命科学の基礎及び生命科学英語を学ぶ。
	and take the first	1. 英語で書かれた参考書を理解することができる。
	到達目標	2. 英語で書かれた総説を理解することができる。
		3. 英語で書かれた実験書の手順及びその背景を理解し、再現することができる。
Immunobiology	授業形態	講義
	主担当教員	松口 徹也/ MATSUGUCHI Tetsuya
	テーマ	Basic Immunology Cource (in English)
	쓰죠 다 표	After finishing the course, the student should be able to explain basic cell types and
	学習目標	regulatory mechanisms of both innate and adaptive immunity.
		1. Explain basic characteristics and functions of immune cell types.
		2. Explain differences between innate immunity and adaptive immunity.
	到達目標	3. Explain how immune cells recognize infectious pathogens.
		4. Explain basic mechanisms of allergy.
		5. Explain how immune cells can recognize and combat cancer cells.
細胞増殖制御	授業形態	講義
	主担当教員	大西 智和/OHNISHI Tomokazu
	テーマ	細胞増殖と発がん
	学習目標	細胞増殖メカニズムがどのように癌発生に関わるかを理解する。
	丁日日1ボ	生体における細胞増殖因子の役割を説明できる。細胞周期とチェックポイントを理解する。細胞
	到達目標	生体における神紀
	月圧日保	電池四丁ング ) が   広庭候構の   樹光生における (大剤を 生解する。 光生や 間など の 調整 (大偶を 説明 C きる。
		[C.∞o

授業科目名		講義等の概要
皮膚分子・病態学	授業形態	講義
NO.	主担当教員	江川 形平/EGAWA Gyohei
	テーマ	皮膚疾患の病態を解析し、新しい治療法を研究する実験的手法
	学習目標	実験的手法を用いて、皮膚疾患の病態を解析し、新しい治療法を研究する方法を理解する。
	到達目標	皮膚疾患の原因となっている異常を、分子生物学的、生化学的および形態学的方法を駆使して解析し、治療法を研究するため基礎的方法を学習する。
先端医療学	授業形態	講義
	主担当教員	小戝 健一郎/KOSAI Kenichiro
	テーマ	再生医療や先端医療、移植医療について学ぶ。
	学習目標	再生医療や移植医療をはじめとした先端医療について理解し、その研究開発から臨床応用・実用 化にいたる総合的な知識と研究手法を習得する。
	到達目標	1. 幹細胞について説明でき、再生医療について理解し、現状や問題点を説明できる。 2. 遺伝子治療をはじめとする先端医療を理解し、説明できる。 3. 移植医療の現状と問題点について説明できる。
Introduction to	授業形態	講義
Scientific Writing	主担当教員	Sloan Robert Alan
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
ニューロサイエンス	授業形態	講義
	主担当教員	奥野 浩行/OKUNO Hiroyuki
	テーマ	ニューロサイエンスに関連する基礎から臨床までの領域概要を理解する
	学習目標	神経生物学、神経生理学および精神・神経疾患に関する知識を身につける。
	到達目標	1. 神経系を構成する細胞種と機能を説明できる。 2. 神経伝達機構とその調節について説明できる。 3. 脳の構造と領域ごとの機能について概要を理解する。 4. 神経系と各臓器及び免疫系との相互作用の概要を理解する。 5. 神経・精神疾患の概要について理解する。
ウイルス感染症の基礎	授業形態	講義
と臨床	主担当教員	中畑 新吾/NAKAHATA Shingo
	テ ー マ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定

## 2. 共通先端科目

授業科目名		講義等の概要
遺伝子操作法実習	授業形態	実 習
	主担当教員	岸田 昭世/KISHIDA Shosei
	テーマ	疾患に関わる遺伝子の機能を説明できる。
	学習目標	生体の細胞機能や疾患に関わる分子の機能を分子生物学や生化学の手法を用いて解析できるようになる事
	到達目標	1. 遺伝子導入実験を立案,実行できる。 2. シブナル伝達分子による細胞の反応を解析できる。
11. 41. 1. 1. Jol. 34. 12. 317	나라 제도 ㅠ/ 수요	3. 分子の細胞内局在や遺伝子発現を解析できる。
生体材料学実習	授業形態	その他
	主担当教員	菊地 聖史/KIKUCHI Masafumi
	テーマー学習目標	生体材料の機器分析の基礎  生体材料の構造を解析するための基本的な知識と技能を修得する。
	子自日保	1.物質構造の基本を理解し、説明できる。
		1. 初員併足の基本を採用し、説明できる。 2. 機器分析の種類と特徴を理解し、説明できる。 3. X線回折装置の原理を理解し、説明できる。
	到達目標	4. 赤外分光分析装置の原理を理解し、説明できる。
		5. 走査型電子顕微鏡の原理を理解し、説明できる。
		6. 生体材料の機器分析を実践できる。
データ解析演習	授業形態	演習
	主担当教員	郡山 千早/ KORIYAMA Chihaya
	テーマ	データ解析演習
	学習目標	基本的なデータ解析を行うことができる。
	到達目標	1. 連続量、二値データを目的変数にした解析を行うことができる。 2. 多変量解析を行うことができる。
臨床疫学	授業形態	3. 生存分析ができる。 講 義
<b>简</b> / / / 文子	主担当教員	郡山 千早/KORIYAMA Chihaya
	テーマ	疫学的手法を臨床研究、診断・治療に活かす
		科学的根拠に基づいた診断・治療を目的とした臨床研究を実践するために必要となる疫学の理
	学習目標	論とその方法論について学ぶ。
	到達目標	1. 疫学の研究デザインについて説明できる。 2. 疫学の理論と方法を説明できる。 3. 診断の評価について説明できる。 4. リスクの評価について説明できる。 5. 治療効果の評価について説明できる。 6. 臨床疫学研究をデザインできる。 7. 臨床疫学研究で用いる統計学的解析について説明できる。 8. 文献検索および論文の批判的吟味について理解できる。
医療情報・統計学	授業形態	講 義・演 習
(開講未定)	主担当教員	未定
	テーマ	医療情報・統計学演習
	学習目標	医療情報の適切な保護、取扱いができ、医療情報を統計的に処理し活用できる。
		1. 医療情報の特性と医療情報システムの現状を知る。
	到達目標	2. 医療情報の適切な保護、取扱いができる。
	1	3. 医療情報の標準化についての動向を知る。
咬合育成論 A	授業形態	4. 医療支援のためのデータ分析・評価ができる。   講 義
火口 月 灰 冊 八	主担当教員	宮脇 正一/MIYAWAKI Shouichi
	テーマ	咬合育成論・診断学
	学習目標	類口腔機能と顔面や咬合の形態との関連を理解する。
	7 1 1 1 1	1. 矯正歯科治療の目的・意義について理解し、説明できる。
	四十五 四十五	2. 顎顔面頭蓋と咬合の成長変化および不正咬合の分類が説明できる。
	到達目標	3. 矯正歯科治療に関連する診断に必要な診査、検査ができる。
		4. 矯正歯科治療の診断、治療方針が説明できる。
咬合育成論 B	授業形態	講義
	主担当教員	宮脇 正一/ MIYAWAKI Shouichi
	テーマ	咬合育成論・治療学
	学習目標	顎口腔機能と顔面や咬合の形態との関連を理解する。
		1. 矯正歯科治療の目的・意義について理解し、説明できる。
	701135 171 486	2. 咬合不正の要因と矯正治療が説明できる。
	到達目標	3. 矯正歯科治療の流れについて説明できる。

# 2. 共通先端科目

授業科目名		講義等の概要
先端分子細胞医科学	授業形態	講義
	主担当教員	原 博満/ HARA Hiromitsu
	テーマ	最先端医科学研究の分子細胞レベルでの理解
	学習目標	最先端の医科学研究の内容や手法を分子、細胞レベルで理解する。
		1. 癌発生の仕組みや癌細胞の性質を説明することができる。 2. 細胞内小器官の構成や役割を説明することができる。 3. 遺伝子の機能調節や発現に影響する因子を説明することができる。 4. 造血の仕組みや血液疾患について説明することができる。
	到達目標	5. 骨格系の発生の仕組みや疾患について説明することができる。 6. 脳神経系の発生や機能、その異常による疾患発症の仕組みについて説明することができる。 7. 免疫系の発生や機能、その異常による疾患発症の仕組みについて説明することができる。 8. 遺伝子治療や再生医療などの最先端医療技術について説明することができる。 9. 心と体の連関の仕組みや疾患発症について説明することができる。
歯科応用薬理学(1)	授業形態	講義
	主担当教員	佐藤 友昭/SATO Tomoaki
	テーマ	歯科領域において使用する薬物~使用法と注意すべき作用機序、相互作用、副作用~
	学習目標	歯科に於いて使用する薬物の受容体、情報伝達機構および有害作用、薬物相互作用の概略を理解する。
	到達目標	薬物の受容体と細胞内・細胞間の情報伝達機構を学習し、併せて、薬物相互作用、口腔領域に 現れる薬物の副作用・有害作用の起因を学習し、より優れた薬物の使用方法を習得する。
顎機能補綴学	授業形態	講義
	主担当教員	南 弘之/MINAMI Hiroyuki
	テーマ	歯科補綴学と全身との関係
	学習目標	咬合機能回復が全身に及ぼす影響を理解させる。
	到達目標	補綴物が顎口腔系の機能とその増進に以下に関与しているか、また機能的咬合系の役割と、機能の乱れが咀嚼に及ぼす影響を理解させると共に、審美性の心理的要素や全身に与える影響を理解させる。補綴における EBM の重要性とその活用方法を解説する。
		咬合に起因する顎関節症の検査項目とその活用方法を解説すると共に、その治療方法を理解させる。
顎口腔機能再建学(1)	授業形態	講義
	主担当教員	西 恭宏/ NISHI Yasuhiro
	テーマ	インプラントによる欠損補綴治療の考え方と実際
	学習目標	歯牙欠損に対する補綴治療を理解する。
	到達目標	1. 歯牙欠損症例に対して適切な補綴治療の立案ができる。 2. 欠損補綴治療におけるインプラント適用の利点を理解し、説明できる。
顎口腔機能再建学(2)	授業形態	3. インプラントの利点を生かした欠損補綴治療の立案ができる。 講 義
<b>朝口症候批刊建子(4)</b>	主担当教員	西 恭宏/ NISHI Yasuhiro
	土担ヨ教員 テーマ	歯科補綴装置による機能回復の評価と維持
	学習目標 到達目標	補綴治療における機能評価を理解する。  1. 補綴治療に必要な機能評価方法を理解し、説明できる。 2. 補綴装置の経時的変化を理解し、説明できる。
<b>蜀口腔機能再建学(3)</b>	授業形態	2. 僧教表直の程時的変化を理解し、説明できる。 講 義
	主担当教員	神 我 村上格/MURAKAMI Mamoru
	土担当教員 テーマ	利工 格/ MURAKAMI Mamoru 顎補綴治療の問題点と解決策
	学習目標	類性報信なり同題点と呼ばれ 類欠損症例に対する補綴治療を理解する。
	<b>丁日日</b> 惊	祝八損進列に対する柵板石がと生所する。   1. 顎欠損患者の特徴を説明できる。
		1. 頻久損患者の特徴を説明できる。   2. 顎補綴に必要な診査事項の根拠を理解し、説明できる。
	到達目標	3. 類補綴に必要な処置方針の根拠を理解し、説明できる。
		4. 顎補綴の治療成績評価を理解し、説明できる。
う蝕制御学	授業形態	講 義
	主担当教員	西谷 佳浩/ NISHITANI Yoshihiro
	テーマ	Minimal Intervention (MI) に基づく保存修復学
	学習目標	MI の概念に則った保存修復を理解する。
		保存修復における MI の概念を説明できる。
	到達目標	修復材の歯質接着機構を説明できる。
	2012日1示	修復材への抗菌性付与について説明できる。
The line of the Mr.	Let alle me date	MIに則ったう蝕処置が説明できる。
歯髄生物学	授業形態	講義
	主担当教員	西谷 佳浩/NISHITANI Yoshihiro
	テーマ	歯髄生物学
	学習目標	最新の歯髄研究の成果を学び、そこから自己の研究課題を再構築する。
	到達目標	結合組織としての歯髄の概念を学び、新たな治療法開発への展望を開く。

## 2. 共通先端科目

2. 共通先端科目		
授業科目名		講義等の概要
口腔疾患病態学	授業形態	その他
	主担当教員	奥井 達雄/OKUI Tatsuo
	テーマ	口腔疾患の診断と治療・全身疾患の管理法
	学習目標	口腔病変の診断法と治療法を理解する。また、治療に伴う全身疾患の管理・入院患者の管理について理解する。
	到達目標	口腔病変の診断法と治療法を理解する。また、治療に伴う全身疾患の管理・入院患者の管理に ついて理解する。臨床実地を行い実践する。
口腔顎顔面外科学(1)	授業形態	講義
	主担当教員	石畑 清秀 / ISHIHATA Kiyohide
	テーマ	顎顔面領域の三次元形態分析法の臨床応用の実際
	学習目標	臨床利用されている顎顔面形態の三次元分析法について理解する。
	到達目標	顎顔面領域の三次元形態分析法の変遷を学び、三次元計測応用の臨床の実際を学ぶ。
歯科麻酔学概論	授業形態	講義
Ed. I. Well 1 Aschun	主担当教員	杉村 光隆 / SUGIMURA Mitsutaka
-	テーマ	歯科領域における麻酔学
-		
	学習目標	歯科領域の局所麻酔学と全身麻酔学およびその合併症について理解する。 歯科治療時に使用する局所麻酔薬、血管収縮薬、口腔外科手術時における全身麻酔薬、全身麻
	到達目標	圏特石療時に使用する局所麻酔楽、皿官収釉楽、口腔外付予何時におりる宝牙麻酔楽、宝牙麻酔法、長期服用薬剤と歯科治療との関連性について理解すると共に、種々の障害を持つ小児や 高齢者、歯科外来における全身麻酔の特徴について学習する。
バイオインフォマティ	授業形態	講義・演習
クスと医学研究	主担当教員	山本 雅達/YAMAMOTO Masatatsu
	テーマ	バイオインフォマティクスの理解と応用
	学習目標	情報科学とデータベースの基礎を理解し、実験データや仮設に基づき適切なバイオインフォマ
	1 0 0 1/4	ティクス技術を選択できる。
	and take and tree	1. 情報科学の基礎について理解する。
	到達目標	2. 遺伝子、蛋白質、化学物質などの情報データベースの概要を理解し、情報を取り出せる。
	took after more date	3. 遺伝子、蛋白質、化学物質などの情報解析ソフトを検索し、独自に情報を解析できる。
分子腫瘍学(1)	授業形態	講義
	主担当教員	河原 康一/KAWAHARA Kohichi
	テーマ	悪性腫瘍の分子レベルでの生物学的特性
	学習目標	悪性腫瘍の分子的な特性を学習する。
		1. 発がんの機構について説明できる。
	70 NA DI 400	2. がん細胞の特性について説明できる。
	到達目標	3. 増殖因子、細胞周期、細胞死について、癌との関連を説明できる。
		4. 癌抑制遺伝子を説明できる。  5. 多段階発がんの機構を説明できる。
疫学入門	授業形態	
		14
	主担当教員	郡山千早/KORIYAMA Chihaya
	テーマ	安学の基本的理論、研究デザイン、データ収集、解析方法
	学習目標	疫学の基本的な考え方とその方法論について学ぶ。
		1. 疫学の理論と方法を説明できる。 2. 疫学研究デザインを説明できる。
	到達目標	2. 授学研究/リインを説明とさる。   3. 疫学研究で用いる基本的な統計学的解析について説明できる。
		4. データの解析結果を解釈できる。
ニューロサイエンス実習	授業形態	実 習
	主担当教員	田川 義晃/ TAGAWA Yoshiaki
	テーマ	ニューロサイエンスの基本実験法と先端技術の体得
-	-	神経分子生物学、神経生理学、神経薬理学で用いられる基本実験技術および先端技術を習得す
	学習目標	る。
		1. 灌流固定法により脳を固定し、脳薄切切片を作成できる
	到達目標	2. パッチクランプによる電位記録ができる 3. 動物行動実験を実施できる
	判廷日保	3.
		5. 光遺伝学により神経活動の記録・操作ができる
  ウイルス感染症の研究	授業形態	は、元夏四子により神性自動の此跡、採下がてきる
講義	主担当教員	中畑 新吾/NAKAHATA Shingo
	<u>エ担ヨ叙貝</u> テ ー マ	未定
	学習目標	未定
	判廷目憬	未定

3 一 1. 守门垒旋杆日		
授業科目名		講義等の概要
疾病発症機構と予防論	授業形態	講義
	主担当教員	堀内 正久/ HORIUCHI Masahisa
	テーマ	
		1. 病気の概念と病気を引き起こす主要な原因について理解する。
	学習目標	2. 主な疾患の発病機序と疾患に伴う形態的変化を理解する。
	7 11 11 11	3. 疾病の発症機構をベースにした予防について理解する。
	到達目標	or well your standing of the order to the standing of
   消化器病学・生活習慣	授業形態	講義・演習
病化益病子・生品音順   病学		
7四子	主担当教員	井戸 章雄 / IDO Akio
	テーマ	消化器疾患および生活習慣病の臨床と基礎
	学習目標	1. 消化器疾患の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。
	1 0 0 10	2. 生活習慣病の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。
		1. 消化器疾患および生活習慣病の病因を理解し、説明できる。
		2. 消化器疾患および生活習慣病の病態を理解し、説明できる。
	到達目標	3. 消化器疾患および生活習慣病の診断法を理解し、説明できる。
		4. 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。
		5. 消化器疾患および生活習慣病の予防研究の意義を述べることができる。
糖尿病・内分泌内科学	授業形態	講義
	主担当教員	西尾 善彦/NISHIO Yoshihiko
	テーマ	糖尿病・代謝・内分泌疾患の基礎と臨床
		糖尿病・代謝・内分泌疾患の病態生理を分子生物学的基盤から理解し、その成果を臨床へ応用
	学習目標	情が柄・孔跡・八万必失忠の柄忠生理を万十生初学的基盤がら理解し、その成果を臨床へ応用   する能力の開発をめざして学習する。
		1. 糖尿病学、栄養代謝学、内分泌学についての生化学的基礎を理解する。
	到達目標	2. 糖尿病学、栄養代謝学、内分泌学についての生理学的基礎を理解する。
		3. 糖尿病学、栄養代謝学、内分泌学についての病態を理解して説明できる。 4. 糖尿病学、栄養化謝学、内分泌学についての治療法を理解して説明できる。
<b>市</b>	極事工人也	4. 糖尿病学、栄養代謝学、内分泌学についての治療法を理解して説明できる。
疫学	授業形態	講義
	主担当教員	郡山 千早/ KORIYAMA Chihaya
	テーマ	疫学の理論と予防医学への応用
	<b>少羽日</b>	健康の増進と疾病の発生・予防に関わる自然環境、社会的・生物学的要因との相互作用を理解
	学習目標	するために疫学の理論とその方法論について学ぶ。
		1. 疫学の理論と方法を説明できる。
		2. 健康科学、医学分野の疫学研究をデザインできる。
	到達目標	3. 疫学研究で用いる統計学的解析ができる。
		4. 調査研究で得られたデータの解析結果を解釈できる。
		5. 疫学研究の論文の内容を吟味できる。
難治性血液免疫疾患	授業形態	講義
病態制御学	主担当教員	石塚 賢治/ISHITSUKA Kenji
	テーマ	造血器腫瘍の基礎と臨床
	学習目標	血液腫瘍の病態と治療について分子レベルから個体レベルまで包括的に理解する。
	子百日保	血液腫瘍の病患と石療についてガチレベルがら画体レベルまで包括的に理解する。  血液腫瘍(白血病や悪性リンパ腫など)における腫瘍化機構、増殖機構を、遺伝子および分子
	到達目標	レベルで解析し理解できる。
		上記の知識の上に、種々の抗腫瘍療法の理論と実際を分子レベルから個体レベルまで広くかつ
그는 다른 가는 하는 그만	Lott Allt- wet date	科学的に理解し、新たな治療法開発に向けて臨床研究を推進する。
法医学特講	授業形態	講義
	主担当教員	林 敬人/HAYASHI Takahito
	テーマ	法医病理学、法医画像診断学の概要
	<b>学羽口</b> 描	死体検案、法医解剖に必要な法医病理学的知識と、死後 CT を中心とした法医画像診断学的知
	学習目標	識を身につける。
	四十 日 福	1. 基本的な検案・解剖手技を説明できる。
	到達目標	2. 死因解析に必要な肉眼的・顕微鏡的所見を列挙できる。
精神医学概論特講	授業形態	講義
110 1 1 100 A BY WHITH LA DATA	主担当教員	中村 雅之/NAKAMURA Masavuki
	ナルヨ秋貝 テーマ	
		精神診断学
	学習目標	精神疾患の診断ができるようになるために、必要な診察法や検査法を身につける。
		1. 精神疾患の診断、検査、治療の概念が説明できる。
	到達目標	2. 分子精神医学や画像診断の現在までの成果と今後の展望を説明できる。
		3. 心理、精神機能検査の意味や実施方法を説明できる。
行動医学	授業形態	講義
	主担当教員	浅川 明弘/ ASAKAWA Akihiro
	テーマ	行動医学、環境心身相関
		1. 環境心身相関から人間を全人的に理解し、説明できる。
	学習目標	2. 行動医学の概念や理論を理解し、説明できる。
	, , , ,	3. 臨床における行動医学の役割を理解し、説明できる。
		1. 人間を心身、さらに社会・環境因子を含めた相関から全人的に理解し、説明できる。
		2. 行動医学の概念を理解し、説明できる。
	到達目標	2. 行動医子の概念を程序し、説明できる。   3. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。
	为定日际	4. 心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療における行動医学の役割を理解し、説明できる。
		5. 疾患予防、健康増進、抗加齢における行動医学の役割を理解し、説明できる。
	1	0・///心(1   7/1)

3-1. 専门基礎科日	()连脉竹子 ()块/	
授業科目名		講義等の概要
医療者教育学応用	授業形態	講義
	主担当教員	横尾 英孝/YOKOH Hidetaka
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
歯科医療行動科学	授業形態	講義
图作区原门到作于	主担当教員	田口 則宏/ TAGUCHI Norihiro
	テーマ	歯科医療における人間の態度・行動を科学的に理解する。
	学習目標	歯科医療における人間の態度・行動を科学的に理解する。
	于日日保	1
		1. 医療におりるコミューケーションの行政を説明できる。   2. 医療者のとるべき態度・行動を説明できる。
	到達目標	3. 望ましい患者・医療者関係を説明できる。
		4. 歯科医療を実践する上で必要な行動科学的要素を説明できる。
微生物学特講	授業形態	講義
1 14 h4	主担当教員	西順一郎/ NISHI Junichiro
	テーマ	新興・再興感染症と医療関連感染
	, ,	現代の医学・医療における感染症の問題点を認識するために、新興・再興感染症と医療関連感
	学習目標	染について学び、解決すべき課題と対策について考える。
		1. 新興・再興感染症・医療関連感染の種類を列挙できる。
		2. 新興・再興感染症・医療関連感染出現の歴史的・社会的背景を説明できる。
	701 NA 171 AM	3. 新興・再興感染症・医療関連感染を分類し、原因微生物の特徴を説明できる。
	到達目標	4. 各疾患について、微生物学的診断法を説明できる。
		5. 各疾患のかかえている医療上・社会上の問題点を説明できる。
		6. 各疾患の予防対策について説明できる。
免疫学特論	授業形態	講義
	主担当教員	原 博満/ HARA Hiromitsu
	テーマ	免疫系と病態の理解
	学習目標	免疫学の最新の研究や免疫系が関与する疾患を理解できる。
		1. 免疫応答の基本的な仕組みを説明できる。
	到達目標	2. 免疫学の最新の理論を説明できる。
	>1.2 II M.	3. 免疫学の最先端の論文の内容を説明できる。
上 1 1 2 中 上 当	↓☆ - 東- 〒/ 台に	4. 論文で得た知識を活用して、新たな研究テーマを創出できる。
抗ウイルス療法学 (開講未定)	授業形態	講 義
(州两不足)	主担当教員	前田 賢次/ MAEDA Kenji
	テーマ	ウイルス疾患に対する化学療法
		1. ウイルス疾患に対する化学療法の原理を理解するとともに、その研究法や実際の応用について学ぶ。
	学習目標	2. 抗ウイルス化学療法学の総論について学習する。
	子日口际	3. 個々のウイルスについて、抗ウイルス薬の標的分子、抗ウイルス薬の実際、そしてそれら
		の特徴などにつき各論的に学習する。
		1. 抗ウイルス化学療法の歴史を通じて、抗ウイルス薬の研究がどのように行われてきたか述
		べる事ができる。
	到達目標	2. 抗ウイルス化学療法の適応疾患にはどのようなものがあるか述べる事ができる。
		3. 抗ウイルス薬を同定しその作用機序を明らかにするにはどのような研究方法をとれば良い
and the later of t	ملداد فرمسر فاللا مسرة	か述べることができる。
ウイルス情報テクノロ	授業形態	講義
ジー	主担当教員	池田 正徳/ IKEDA Masanori
	テーマ	ウイルス情報テクノロジー
	学習目標	レプリコンとリバースジェネティクスの基礎を理解する。
		1. C型肝炎ウイルス (HCV) の基礎ウイルス学について理解する。   2. HCV および他のウイルスのレプリコンについて理解する。
	到達目標	2. HCV および他のワイルスのレノリコンについて理解する。   3. フォワードジェネティクスとリバースジェネティクスについて理解する。
	判足日际	3. フォリートンエイティクスとリハースンエイティクスについて建解する。   4. レプリコンのデザインとプログラムの方法を学ぶ。
		5. レプリコンを用いた抗ウイルス剤の評価法を学ぶ。
トランスレーショナル	授業形態	講義
メディシン	主担当教員	近藤 智子/KONDO Tomoko
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
	2月1年日保	INA.

	1(健康付于分块)	
授業科目名	Lot Mr. and date	講義等の概要
HTLV- I 病学	授業形態	講義
	主担当教員	久保田 龍二/ KUBOTA Ryuji
	テーマ	HTLV- I 病学
	学習目標	ヒトレトロウイルスである HTLV- I の構造と感染経路、および HTLV- I 感染が引き起こす種々の疾患の概略を理解し、主な疾患については発症機序について考察することができる。
		1. HTLV-Iの構造と主な遺伝子、及びそれがコードする蛋白の機能について述べることができる。
	到達目標	2. HTLV- I の感染経路と感染の地域・世界的な疫学について理解し述べることができる。 3. HTLV- I 感染により引き起こされる生体の免疫応答の特徴を理解し述べることができる。 4. HTLV- I 関連疾患をリストアップし、その臨床像の特徴を述べることができる。 5. 成人 T細胞性白血病(A T L) の想定されている発症機序について、その概略と未解決の問題について理解し述べることができる。 6. HTLV- I 関連脊髄症(H A M) の想定されている発症機序について、その概略と未解決の問題について理解し述べることができる。 7. HTLV- I 感染症の社会的問題点、制圧を目指した地域・世界的取り組みについて理解し
d → d dt W 25-77	tot alle medidale	対策の方策を考えることができる。
分子生化学演習	授業形態	講 義 ・ 演 習
	主担当教員	岸田 昭世/ KISHIDA Shosei
	テーマ	疾患の病態生理に関連するシグナル伝達を説明できる
	学習目標	生体の細胞機能に関わるシグナル伝達や代謝のシステムとその異常による疾患を理解して研究 のアイディアの構想を説明できる。
	到達目標	各種シグナル伝達機構を説明できる。     シグナル伝達機構の破綻による病態を説明できる。     病因・病態から、診断および治療法を考案できる。     おのまだは、またませんます。
at . The photology of . THI MA	上の地では	4. 上記の事柄に関する英文文献を検索して、情報を抽出し、わかり易く他人に説明できる。
生殖病態生理学	授業形態	講義
	主担当教員	小林 裕明/KOBAYASHI Hiroaki
	テーマ	女性のライフサイクルと疾患 - 内分泌学的・分子生物学的アプローチー
	学習目標	婦人科各種疾患を内分泌学的や分子生物学的側面から理解する。
	到達目標	種々の生物の全ゲノム構造の解析が終了しようとしている。婦人科各種疾患に関わるメカニズムを内分泌や分子生物学的側面から伝授する。
小児科学	授業形態	講義
	主担当教員	上野 健太郎/UENO Kentaro
	テーマ	小児期に特徴的な疾患の病因・病態への見識を深める
	学習目標	1. 正常な成育・発達状態を説明できる。 2. 小児期に特徴的な疾患の病因・病態について、多面的、多角的に考察できる。
	到達目標	1. 胎児期の器官形成について説明する。     2. 新生児期から思春期の成育、発達について説明する。     3. 予防接種、健診の役割について説明する。     4. 小児期に特徴的な感染症について診断、検査、治療について説明する。     5. 先天性心疾患の症状、病態について説明する。     6. 川崎病の病因、病態について考察し、説明する。     7. 小児内分泌疾患、腎臓疾患、膠原病について病因・病態を考察し、説明する。     8. 各疾患の病態を分子生物学的側面から考察する。
小児病態学	授業形態	講義
	主担当教員	西川 拓朗/NISHIKAWA Takuro
	テーマ	小児期の疾患についての病態・治療・予防
	学習目標	1. 胎生期から成人期までの正常な成育・発達状態を説明できる。 2. 新生児期・小児期・思春期に特徴的な疾患の病態・治療・予防について考察できる。
	到達目標	1. 正常な成育・発達を説明する。 2. 小児期の感染症の病態・予防・治療について説明できる。 3. 小児期の血液疾患の症状・病態・治療について説明し、病因について考察できる。 4. 小児期の腫瘍疾患の症状・病態・治療について説明し、病因について考察できる。 5. 小児期の疾患に対する治療における合併症の病因・病態について考察できる。 6. 小児期の疾患の病因・病態を分子学的手法を用いて考察する。
小児発達病態学	授業形態	講義
	主担当教員	岡本 康裕/OKAMOTO Yasuhiro
	テーマ	小児期疾患の病態と治療
	学習目標	受精から思春期までの正常な成育・発達を理解するために、新生児期・小児期に特徴的な疾患 病態および治療について学ぶ。
	到達目標	1. 小児期の疾患の特徴を説明する。 2. 各疾患の病因について推論する。 3. 各疾患の病態解析と治療について関係づけて評価する。
   口腔分子細胞学	授業形態	3. 骨疾患の胸窓所引と信意について関係づいて計画する。 講 義・演 習
四定刀 1 和地子	主担当教員	两、我·伊 百 大西智和/OHNISHI Tomokazu
	土担ヨ教員 テーマ	口腔生物分野への分子生物学からのアプローチ
	学習目標	口腔組織の生体情報を含む細胞工学的研究法を理解する。
	到達目標	分子生物学の基礎を学習し、公表された生体情報をそれぞれのテーマに応用する。
	到達日標	カ丁生物子の荃蜒を子首し、公衣されに生体情報をてれてれのアーマに応用する。

授業科目名		講義等の概要
細菌学特講	授業形態	講義
	主担当教員	中田 匡宣/ NAKATA Masanobu
	テーマ	口腔微生物学
	学習目標	口腔内・全身疾患と口腔内微生物の関連および感染症の制御についての概略を理解する.
	到達目標	口腔微生物学の特徴、感染微生物に対する免疫、薬剤耐性微生物の脅威を理解し、感染症の予防・治療法の基礎を習得する。
口腔保健推進学	授業形態	講 義
	主担当教員	玉木 直文/ TAMAKI Naofumi
	テーマ	歯科疾患の病因論に基づく口腔および全身の健康増進
	学習目標	歯科疾患の罹患像と病因病態を理解し、口腔保健推進のための方法を考案する。
	到達目標	1. 歯科疾患および関連する全身疾患の実態と病因病態を説明できる。 2. 有効な結論を導き出すための研究計画法の基礎を学習する。
口腔マネージメントに	授業形態	講義
よる口腔衛生と感染制御	主担当教員	山口 泰平/YAMAGUCHI Taihei
	テーマ	口腔常在菌による日和見感染と薬剤耐性
	学習目標	口腔細菌による日和見感染症に対する口腔ケア管理の効果について理解する。
		常在細菌叢とその役割を説明できる。口腔常在菌による日和見感染症を説明できる。院内感染
	到達目標	とその対策を説明できる。滅菌と消毒を説明できる。免疫機構について説明できる。化学療法 を説明できる。感染症に関する法律を説明できる。口腔ケアとその効果について説明できる。
	授業形態	を説明できる。松米症に関する伝律を説明できる。口腔ケケとでの効果について説明できる。
<b></b>	主担当教員	宮脇 正一/MIYAWAKI Shouichi
	テーマ	類顔面咬合育成学
		不正咬合治療のための検査、診断、治療計画法と効果的な臨床技法が説明できる。
		1. 顎顔面頭蓋と咬合の検査について説明できる。
	到達目標	2. 不正咬合の評価、分析および診断について説明できる。
		3. 不正咬合の治療計画法と治療について説明できる。
小児歯科学概論	授業形態	講 義
	主担当教員	山座 治義/YAMAZA Haruyoshi
	テーマ	小児期の口腔形態と機能の発達
	学習目標	小児期の口腔の形態的・機能的発育の特徴を理解し、低年齢児の歯列咬合異常に対する診断と
	7 11 11 11	対応法ならびに顎口腔機能への影響について説明できる。
		1. 小児期の口腔における成長発育の特徴を説明できる。 2. 低年齢児の歯列咬合異常の特徴を説明できる。
		2.   似年齢兄の歯列吹音乗吊の行政を説明できる。   3. 小児期の顎口腔機能の検査法と検査結果を説明できる。
	到達目標	4. 顎関節症や咀嚼障害、構音障害などの口腔の機能的疾患を説明できる。
		5. 小児期の歯列咬合異に対する早期対応法を説明できる。
		6. 低年齢児の歯列咬合異常とその対応法、ならびに顎口腔機能の発達との関連性について自
		己学習し、課題探求結果の発表と討論ができる。
離島医療学特論 I	授業形態	講義・演習
	主担当教員	大脇 哲洋/OWAKI Tetsuhiro
	テーマ	離島地域における医療と健康問題の特徴
	学習目標	離島地域における医療と健康問題の特徴について学習する。
		1. 離島地域における医療の特徴を説明できる。
	到達目標	2. 離島地域における健康問題の特徴を説明できる。
		3. 離島地域における健康増進について説明できる。 4. 離島地域における長寿の宿主背景について説明できる。
		生・離内地域における区が7/旧工月界について成功してる。

O C. 411246111	COMPANIE	1-27
授業科目名		講義等の概要
機能形態学基礎	授業形態	講義
	主担当教員	柴田 昌宏/SHIBATA Masahiro
	テーマ	脊椎動物の形態と機能
	学習目標	脊椎動物の構造とその機能を理解し、説明できる。
	到達目標	日. 各細胞の機能と構造を理解し、説明できる。     日. 各組織の機能と構造を理解し、説明できる。     日. 各組織の機能と構造を理解し、説明できる。     日. 脊椎動物の発生を理解し、説明できる。     日. 脊椎動物の発生を理解し、説明できる。
脳科学	授業形態	講義
	主担当教員	河野 純/ KAWANO June
	テーマ	神経系の形態と機能
	学習目標	神経系(中枢神経系と末梢神経系)の構造と機能を理解する。 運動、感覚、高次脳機能の機序の概要を理解する。
	到達目標	神経系(中枢神経系と末梢神経系)の区分、構造、機能の概略を説明できる。 運動、感覚、高次脳機能について、脳科学の視点から説明できる。

議顧面神経解剖学	5-2. 等门基硬件日		
主担当教日 テーマ 製能画の神経学がおよび一般に世俗学 学習日曜	授業科目名	Let alle wet date	講義等の概要
字 一 マ	<b>現</b> 顔面神経解剖学		
「野田城の外科の企業を開始する。   1、 類面面調象の神経の企業を実施する。   1、 類面面調象の神経の企業を実施との関連を理解する。   3		テーマ	
1. 部級問題及の神経の与名を創着する。   3. 親の間の別の神経の与名を創着する。   3. 親の間の別の神経の与名を創着する。   3. 親の間の別の神経の与名を創着する。   3. 親の間の物経と動格はない。		学習目標	ANNUAL DE ANTICO DE LA COMPANSA DEL COMPANSA DE LA
類達日報 2 類解面頭線の神経の機能をの開生を開する。 3 領面面の神経と臨床をと関する。 4 口腔領域の科学研究を理解する。 4 口腔領域の科学研究を理解する。 4 口腔領域の科学研究を理解する。 5 選別条件  デーマ Maxillofacial Biomechanics  学習日報 数字の内部構造を理解し、生体分字的視点から指針によりの問題を考える。 到達日報 2 代の根郷が民港の特別よりが同様の選別によりない情報を人工の分である。 3 億年 2 報子と類子に対しての物性 (保理性体系) を理解し返別できる。 3 億年 2 報子と類子に対しての物性 (保理性体系) を理解し週できる。 3 億年 2 報子と類子に対しての物性 (保理性体系) を理解し週できる。 4 年間の経過を表題 原理 2 に関係を表現しませる。 第 英 近日 2 報子と類子に対しての物性 (保理性体系) を理解し週できる。 4 第 全年 2 報子と類子に対しての物性 (保理性体系) を理解し週できる。 5 第 英 正 2 報子と類子に対しての物性 (保理性体系) を理解し週できる。 5 第 英 正 2 報子と類子に対しての物性 (保理性体系) を理解しるの理解を必ぎす  1 服命法に要な [遺伝] と 環境 ) 必要を関する。 9 第 全日 2 報子の外型と疾患 の基礎と最新の知見の理解を必ぎす  1 服命法に要な [遺伝] と 環境 ) の影響を規できる。 2 神経科学 (特に版神経制器の発達と疾患 ) の基礎と最新の知見の理解を必ぎす  1 服命を対して要求 (事 選別できる。 3 服命を対してないるの場所を関する。 5 第 元 2 報刊を必要を関する。 5 第 元 2 報子を一 2 報子を一 2 報子を一 2 報子を 2 年間の認の活動力を高める。神経生物学の反範な基礎加減を会得する。 9 第 2 年間 2		7 11 11 11	
類型目体力学			
議議と 1. 日間 (		到達目標	
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	明 按 云 中 十 十 半	極要形能	
字 ー マ	<b></b>		
学習日報 新作の内部解説を理解し、理像上記する力の問題を考える。  - 別達日報 - 1、職件の外籍は上び内部保護を理解しまりまる。大田学とよっで含まる。 - 1、職件の外籍は上び内部保護を理解しまりまる。大田学によります。 - 2、骨の線線域化協合材料としての物性(保存性体数)を判解し設明できる。 - 3、高子と語句に認過到負荷が起こった時の12秒内の変化を理解し設明できる。 - 3、高子と語句に選過到負荷が起こった時の12秒内の変化を理解し設明できる。 - 2 解の発達と仮述 田川 意見 TAGAWA Yoshiaは 日本経科学 (特に解析体数) と 1、原発は の影響を設明できる。 - 3、高子と語句に重要な「混正して 国境」の影響を説明である。 - 3、国党主の変と関立して 1 原境」の影響を説明である。 - 3、国党主の変と関心に 1 原境」の影響を説明である。 - 3、国党主の変と関いて 2 原境」の影響を説明である。 - 3、国党主の変を担保に 1 アナーマー マーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマ			
調達目標 2. 信の機能気化を持つ論 と変形態 1. 類音の外形はよび呼音が早飛竜を理解しる次元を辿らる。 3. 備牙と部件に通射負荷が起こった時の川腔内の変化を理解し説明できる。 3. 備牙と部件に通射負荷が起こった時の川腔内の変化を理解し説明できる。 3. 権力を制作し、動物性、関連をして動物性、関連をして動物性、関連をして動物性、関連をして動物性、関連をして動物性、関連をして動物性、関連をして動物性、動物性を動から表し、現場に関係を動から表し、現場に関係を動から、対象は関係が表し、関係を関係を対してある。 2. 神経性動物性の感染制画体 (特定 (市 (市 (市 ) ) (市 (市 ) ) (市 (市 ) (市 ) (市			
2. 市の報節級化散合材料としての物性(報評性係数)を理解、説明できる。		字曾目標	
議事経免達特論		지나는 다 111	
議・養生・担当教員		到達日標	
主担当教月     中の発達と疾患     中部の発達と疾患     中学習目標 神経科学「特に脳神経回路の発達と疾患」の基礎と最新の知見の理解をめざす     1、服務法に重要な「遺伝」と「無定」の影響表別可できる。     3、服券達の疾患例に関して分子・細胞・回路・ベルの機序を説明できる。     3、服券達の疾患例に関して分子・細胞・回路・ベルの機序を説明できる。     3、服券達の疾患例に関して分子・細胞・回路・ベルの機序を説明できる。     3、服券達の疾患例に関して分子・細胞・回路・ベルの機序を説明できる。     3、服券達の疾患例に関して分子・細胞・回路・ベルの機序を説明できる。     3、服券達の疾患例に関して分子・細胞・回路・ベルの機序を説明できる。     3、服券達の疾患例に関して分子・細胞・回路・ベルの機序を説明できる。     3、服券達の疾患の診解力を高める。神経生物学の広範な基礎知識を会得する。     3度 理当教月     7 ー マ 規定系システムの形態と機能     子型目標 担定系とを返しているシステムの形態と機能について、電子顕微波を用いて検索する方法を学ぶ。     4、服务を移成しているシステムの形態と機能について、電子顕微波を用いて検索する方法を学ぶ。     4、ぶとり級の微細構造について、電子顕微波を用いて検索する方法を学ぶ。     3、提供能の関連に対して、電子顕微波を用いて検索する方法を学ぶ。     4、ぶとり級の微細構造について、電子顕微波を用いて検索する方法を学ぶ。     4、ぶとり級の微細構造について、電子顕微波を用いて検索する方法を学ぶ。     5、提供を対象ので、と、表ののから、対象を対象ので、と、表ののないと、対象を対象ので、と、表の関連を持ていいた。分子と水ので、力法を学ぶ。     3 提出教目    女本 エータ	DV >h 67 76 '축 #1.5A	₩ T/ 台□	
字 一 マ	മ四种程光達行論		
学習目標 神経科学、特に脳神経回路の発達と疾患)の影響と政情の知見の理解をめざす  1. 脳院達に重要な「湿症」と「環境」の影響を説明できる。  3. 加奈達の失趣例に同して分子・細胞・回路レベルの機序を説明できる。  3. 加奈達の失趣例に同して分子・細胞・回路レベルの機序を説明できる。  3. 加奈達の失趣例に同して分子・細胞・回路レベルの機序を説明できる。  3. 加奈達の疾患例に同して分子・細胞・回路レベルの機序を説明できる。  3. 加奈達の疾患例に同して分子・細胞・回路レベルの機序を説明できる。  4. 本定 学習日標 学者英語の診解力を高める。神経生物学の広範な基礎知識を会得する。  到達日標 大変影響 接受を形成しているシステムの形態と機能について理解する。  4. 投資系を形成しているシステムの形態と機能について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西教員 現態を構成する場際の報酬構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西教園 別郷股の相互作用に関係している必免機関の生理学的控制について学ぶ。  4. 北西教園 別連絡の機構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西教園 別郷保護について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西教園 別郷保護について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西教園 別郷保護について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西教園 別郷保護について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西教園 別議を形成 でいるシステムのの景観を用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西教園 別議を形成しているシステムの前壁に同していて、分子近空的内でリーチを用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西教園 別選系と形成しているシステムの前壁について、分子連伝学的でプローチを用いて検索する方法を学ぶ。  3. 出田光明 学を形成しているシステムの前壁について、分子連伝学的でプローチを用いて検索する方法を学ぶ。  4. 北西族神殿疾患の風球像と原因遺伝を実を納臓を持てついての現場機について学ぶ。  5. 眼神域域無性無効の外科的治療法開発に必要な動態の刺激を行いて学ぶ。  5. 眼神域域無性無効の外科的治療法開発に必要な動態を呼びついて学ぶ。  5. 眼神域域の研究と関係に必要な動態を呼びついて学ぶ。  5. 眼神域域の研究の経験をとなる、皮膚の生理の構造と機能を解析するための実験的方法  皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法  カーマ 皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法  カーマ 関連・観音を表しまして、発達・生産・発きを表して、学の研究を関する。  3. 江田光子 EGAWA Gyohei  方・マ 日標 原本の神域線がのが影響となる。 発表と表の体を解析するための実験的方法  カースの表の生物が表に変しためためて発音を表しまして、発生を表型の情報を表して必要な事態を表しまして、再生制能を表しまして、再生制能を表しまして、再生制を表しまして、再生制を表しまして、表に表に関する。  4. は一様を変しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表して、表に表に表しまして、表に表に表して、表に表に表して、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表に表しまして、表に表して、表に表に表して、表に表に表して、表に表に表して、表に表に表して、表に表して、表に表に表して、表に表に表して、表に表に表して、表に表に表して、表に表に表して、表に表して、表に表に表して、表に表に表に表して、表に表に表して、表に表に表して、表に表に表して、表に表して、表に表して、表に表に表して、表に表し、表に表し			
1. 展発達に要安・諸伝』と「環境」の影響を説明できる。   到達日標   2. 線性関路動作の減極知識(静味症化、活動電化、シナゴス伝達等)を説明できる。   3. 展発達の疾患例に関して分子・細胞・回路レベルの機序を説明できる。   3. 展発達の疾患例に関して分子・細胞・回路レベルの機序を説明できる。   3. 展発達の疾患例に関して分子・細胞・回路レベルの機序を説明できる。   4. 北直   4. 北直			
別達日標 2. 神経回路動作の速盤知識(静止電低、活動電低、シナブス伝達等)を説明できる。		学習目標	
接来形態   上担当教員   大定   全衛英語の設解力を高める。神経生物学の広範な基礎知識を会得する。   対途日標   大定   接近   接近   接近   接近   接近   接近   接近   接			
接着生物学原理   技業形態   正用(中川)直/Nao NAKAGAWA-TAMAGAWA   子 ロマ   未定   字質目標   子 ロマ   未定   字質目標   未定   字質   表表   表表   表表   表表   表表   表表   表表		到達目標	
主担当教員 テーマ 本定 学習目標 別達日標 別達日標 別達日標 別達日標 別達日標 別達日標 別達日標 別達日	Jal. Apr. et., the NV, test con	Log alle, my Arts	
テーマ 未定     字部日標    字解表語の説解力を高める。神経生物学の広範な基礎知識を会得する。     到達目標    未定     技業系態     主担当教員	<b>伸</b> 栓生物字原埋		
学習目標 学術英語の読解力を高める。神経生物学の広範な基礎知識を会得する。 到達目標 未定			
現党形態・機能学			1.72
現覚形態・機能学			
主担当教員   坂本 泰二 / SAKAMOTO Taiji   テーマ   投資系システムの形態と機能   空間目標   投資系を形成しているシステムの形態と機能について理解する。   投資系を形成しているシステムの形態と機能について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。   2   投票を停成しているシステムの形態と機能について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。   4   ぶどり酸の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。   4   ぶどり酸の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。   4   ぶどり酸の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。   4   などり酸の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。   4   などり酸の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。   2   投資系を形成しているシステムの新態について、分子レベルで理解する。   1   遺伝系を形成しているシステムの新態について、分子とベルで対象する方法を学ぶ。   1   遺伝性眼板疾患の臨い像と原因遺伝子について、分子とベルで理解する。   1   遺伝性眼板疾患の解的治療法用発に必要な解説の構態とであて、方がまを学ぶ。   4   新版卓下を休息の外科的治療法用発に必要な解説の構態とついて学ぶ。   3   HTLV・I 関連ぶどう膜炎の診断と治療に関連して必要なぶどう膜の病態機構を学ぶ。   4   新版卓下を休息の外科的治療法用発に必要な解説の構造とで多なぶどう膜の病態機構を学ぶ。   5   限料領域型性腫瘍の保存的治療法開発に必要な酵類生物学を学ぶ。   技業形態   主担当教員   江川 形平 EGAWA Gyohei   テーマ   皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。   皮膚の病理組織学の病態の治療・発音・皮膚の生理の構造と機能を解析するための実験の方法を理解する。   資達 日標   東裏眼除 - 頭頭部の強をとなる、皮膚の生理の構造と機能を解析するための実験の方法を理解する。   清楽と変をとって密解剤・組織学や機能に関する研究方法論を修得する。   講 第   主担当教員   耳鼻咽喉・頭頭部領域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剤、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。   講 第   主担当教員   工身眼喉・頭頭部質域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剤、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。   講 第   主担当教員   東裏眼除手・頭頭部外科疾患領域の病態語・   海球治・大型の病態語・   海球・大型の病態語・   海球・大型の病態を持ている。   海球・大型の病態語・   海球・大型の病態語・   海球・大型の病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態語・   海球・大型の病態を持ているの病態を対しるの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病態を持ているの病能を対し、対し、対しの病態を対し、対しの病態を対し、対しの病態を対し、対しの病態を対し、対しの病態を対しの病態を対しの表情を表情を表情を表情を対しるの表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表情を表			未定
テーマ 規党系システムの形態と機能  学習目標 規党系を形成しているシステムの形態と機能について理解する。  1 網膜を構造する細胞の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 2 規細胞と周囲の細胞の相互作用に関係している複合構質の生理学的役割について学ぶ。 3 視神経の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4 ぶどう腺の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4 ぶどう腺の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4 ぶどう腺の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4 ぶどう腺の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。	視覚形態・機能学		
学習目標   視覚系を形成しているシステムの形態と機能について理解する。		主担当教員	坂本 泰二/ SAKAMOTO Taiji
1. 網販を構成する細胞の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 2. 視細胞と周囲の細胞の相互作用に関係している複合精質の生理学的段割について学ぶ。 3. 視神核の酸細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4. ぶどう膜の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4. ぶどう膜の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4. ぶどう膜の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4. ぶどう膜の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 2. 程度系を形成しているシステムの分子補態 学習目標 視覚系を形成しているシステムの病態について、分子レベルで理解する。 1. 遺伝性服底疾患の臨床像と原因遺伝子について、分子型伝学的アプローチを用いて検索する方法を学ぶ。 2. 緑内除の病態を理解するために、視細胞の崩壊とその抑制機構について学ぶ。 3. HTLV・I 関連ぶどう膜炎の診断と治療に関連して必要なぶどう膜の病態機構を学ぶ。 4. 細胞・耐子体疾患の外科的治療法開発に必要な細膜の病態や手を学ぶ。 4. 細胞・耐子体疾患の外科的治療法開発に必要な細膜の病態や手を学ぶ。 2. 経内除の病態研究の基礎となる細膜の病態がと必要な細膜の病態が多を学ぶ。 2. 経内除の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法 学習目標 財産るの。 2. 皮膚疾患の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法 と皮膚疾患の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。 3. 選出・要は 東海眼除・頭頭部のの基礎となる。皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験の方法を理解する。 3. 選出・要は 東海眼除・頭頭部領域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剖、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。 3. 選集目標 「京頭部領域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剖、組織学や機能に関する研究が法論の標準を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的視数なの原本を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的視数なの原体を対する。 3. 選集目標 「京頭部領域の原本を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的視数なの原体を対する。 3. 選集目標 「京頭部領域の原体を関域の病類論。 臨床的検査・治療法検討のための方法論 学習目標 「京頭部領域を患の研究者育成にあたり、様々な疾患の病態論とその臨床的検査や治療性を見また。 はなどの検を上の対象論とその臨床的検査や治療性を見また。 はなどの検を上のはなどの検を上のはなどの検を上のはなどの検を上のはなどの検を上のは、近端を上の病態論とその臨床的検査や はなになどの検を上のは、近端を上の病態論とその臨床的検査や はなになどの検を上の情報を表がしたと思されて組織で、対象に関すると表に対象に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対して、表に対し、表に対して、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し、表に対し		テーマ	視覚系システムの形態と機能
2		学習目標	視覚系を形成しているシステムの形態と機能について理解する。
3 視神経の機細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4 ぶどう膜の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。 4 ぶどう膜の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。			1. 網膜を構成する細胞の微細構造について、電子顕微鏡を用いて検索する方法を学ぶ。
3. 化神経の級無情強について、電子銀管線を用いて検索する方法を学ぶ。 4. ぶどう膜の微細構造について、電子銀管線を用いて検索する方法を学ぶ。 東		到達日趰	
現党分子・病態学		判注日保	
主担当教員   坂本 泰二 / SAKAMOTO Taiji   テーマ   視覚系システムの分子病態   「安智目標   視覚系を形成しているシステムの病態について、分子心へルで理解する。   1. 遺伝性眼底疾患の臨床像と原因遺伝子について、分子遺伝学的アプローチを用いて検索する方法を学ぶ。   2. 緑内障の病態を理解するために、視細胞の崩壊とその抑制機構について学ぶ。   3. HTLV・I 関連よどう膜炎の診断と治療に関連して必要なおどう膜の病態機構を学ぶ。   4. 網膜硝子体疾患の外科的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。   5. 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。   5. 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な解験生物学を学ぶ。   達担当教員   近川 形平   EGAWA Gyohei   テーマ   皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。   2. 製造目標   皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。   2. 製造目標   皮膚の非理組織学的実験、培養実験、生化学的実験、分子生物学的実験及び動物を用いた実験   皮膚の病理組織学の実験、培養実験、生化学的実験、分子生物学的実験及び動物を用いた実験   京都職職等・顕頭部外科   技業形態   主担当教員   山下 勝/ YAMASHITA Masaru   耳鼻咽喉・頭頭部鎖域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剖、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。   「母妻形態   」 「異球形態   」 「異球形態   」 「異球形態   」 「異球形態   」 「異球形態   」 「「新水・頭頭部側域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剖、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。   」 「本研究領域の標本を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的根拠ならびに応用具体例を学習する。   講 養   11下 勝/ YAMASHITA Masaru   テーマ   耳鼻咽喉科・頭頭部外科疾患領域の病患論。 臨床的検査、治療法検討のための方法論   「事」取解科・頭頭部が検索との病患論。 臨床的検査・治療法検討のための方法論   「事」取解科・頭頭部外科疾患領域の病患論。 臨床的検査・治療法検討のための方法論   日線球法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修する。   第 後   日線球と関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修する。   日線法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修する。   日線法と関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修する。			
字	視覚分子・病態学		
学習目標 視覚系を形成しているシステムの病態について、分子レベルで理解する。  1. 遺伝性眼底疾患の臨床像と原因遺伝子について、分子遺伝学的アプローチを用いて検索する方法を学ぶ。 2. 縁内障の病態を理解するために、視細胞の崩壊とその抑制機構について学ぶ。 3. HTLV・I 関連ぶどう膜炎の診断と治療に関連して必要なぶどう膜の病態機構を学ぶ。 4. 網膜硝子体疾患の外科的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 5. 服科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 5. 服科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網質を対象を学ぶ。 4. 網膜硝子体疾患の保存的治療法開発に必要な網質を対象を学ぶ。 5. 服科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網質を対象を学ぶ。  達担当教員  テーマ  皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法  学習目標  対達目標  皮膚疾患の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。  対達目標  皮膚疾患の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。  対達目標  大皮膚疾患の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験の方法を理解する。  対達目標  東側喉科・頭頸部外科  技業形態  ・主担当教員  ・デーマ  学習目標  「真咽喉・頭頸部疾患領域研究の基礎となる正常解剖・組織学・機能に関する研究方法論を修得する。  対達目標  「対域の標本を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的根拠ならびに応用具体例を学習する。  ・ 講義  ・主担当教員  テーマ  「真咽喉科・頭頸部域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剖、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。  ・ 対達目標  ・ 対象形態  ・ 連動・頭頭部域域の研究者育成にあたり、様々な疾患の病態論とその確床的検査や治療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。  ・ 対象法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。  ・ 対象法を関連付けて総合的に検討できる基本の方法論を修得する。  ・ 対象法を関連付けて総合的に検討できる基本の方法論を修得する。  ・ 対象法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修りする。  ・ 対象法を関連付けて総合いに検討できる基本的方法論を修得する。  ・ 対象法を関連がは、		主担当教員	
1. 遺伝性眼底疾患の臨床像と原因遺伝子について、分子遺伝学的アプローチを用いて検索する方法を学ぶ。 2. 緑内障の病態を理解するために、視細胞の崩壊とその抑制機構について学ぶ。 3. HTLV-I関連ぶどう膜炎の診断と治療に関連して必要なぶどう膜の病態機構を学ぶ。 4. 網膜硝子体疾患の外科的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 5. 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網膜と物学を学ぶ。			視覚系システムの分子病態
2. 緑内障の病態を理解するために、視細胞の崩壊とその抑制機構について学ぶ。 3. HTLV-I 関連ぶどう膜炎の診断と治療に関連して必要なぶどう膜の病態機構を学ぶ。 4. 網膜硝子体疾患の外科的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 5. 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網質の病態学について学ぶ。 5. 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な糖質生物学を学ぶ。		学習目標	視覚系を形成しているシステムの病態について、分子レベルで理解する。
2. 緑内障の病態を理解するために、視細胞の崩壊とその抑制機構について学ぶ。 3. HTLV・I 関連ぶどう膜炎の診断と治療に関連して必要なぶどう膜の病態機構を学ぶ。 4. 網膜硝子体疾患の外科的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 5. 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 5. 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網膜や学を学ぶ。			1. 遺伝性眼底疾患の臨床像と原因遺伝子について、分子遺伝学的アプローチを用いて検索す
3 . HTLV - I 関連ぶどう膜炎の診断と治療に関連して必要なぶどう膜の病態機構を学ぶ。 4 . 網膜硝子体疾患の外科的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 5 . 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 5 . 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 5 . 眼科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な網膜の病態学について学ぶ。 6 . 世担当教員			
3. H1LV-1 関連などの原外の診断と治療に関連して必要なかどの原が原族情報を学ぶ。 4. 細膜硝子体疾患の外科的治療法開発に必要な糖鎖生物学を学ぶ。 5. 服科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な糖鎖生物学を学ぶ。 5. 服科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な糖鎖生物学を学ぶ。 5. 服科領域悪性腫瘍の保存的治療法開発に必要な糖鎖生物学を学ぶ。		到達日標	
支膚形態・機能学 授業形態 講 義 江川 形平 EGAWA Gyohei テーマ 皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。		21X211W	
技膚形態・機能学   授業形態   注担当教員   注担当教員   注担当教員   注担当教員   注担当教員   注担当教員   注理的構造と機能を解析するための実験的方法   投膚疾患の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。   到達目標   投票形態   投票形態   技票形態   注担当教員   上下 勝/YAMASHITA Masaru   「中国   上班   上班   上班   上班   上班   上班   上班   上			
主担当教員         江川 形平 EGAWA Gyohei           テーマ         皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法           皮膚疾患の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。           到達目標         皮膚の病理組織学的実験、培養実験、生化学的実験、分子生物学的実験及び動物を用いた実験の基礎と実際を学習し習得する。           群鼻咽喉科・頭頸部外科機能形態学         進担当教員 山下 勝/ YAMASHITA Masaru           テーマ         早鼻咽喉・頭頸部疾患領域研究の基礎となる正常解剖・組織学・機能に関する研究方法論を修得する。           学習目標         耳鼻咽喉・頭頸部領域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剖、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。           可達目標         本研究領域の標本を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的根拠ならびに応用具体例を学習する。           群鼻咽喉科・頭頸部外科疾患領域の病態論。臨床的検査、治療法検討のための方法論学の指療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。           資習目標         場内喉科・頭頸部外科疾患領域の病態論。臨床的検査、治療法検討のための方法論学の指療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。           利達日標         様々な疾患例から得られた組織、血液などの検体を用いて病理組織学、細胞培養、分子生物学	中毒形部 操业当	₩ T/ 台□	
テーマ 皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法	及		
学習目標 皮膚疾患の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解する。  到達目標 皮膚の病理組織学的実験、培養実験、生化学的実験、分子生物学的実験及び動物を用いた実験の基礎と実際を学習し習得する。  講 義 主担当教員 山下 勝/YAMASHITA Masaru			·
対達目標   財産目標   財産目標   投票の表礎と実際を学習し習得する。   投票形態   投業形態   注担当教員   上工当教員   上工   上工   上工   上工   上工   上工   上工   上		アーマ	
到達目標   皮膚の病理組織学的実験、培養実験、生化学的実験、分子生物学的実験及び動物を用いた実験の基礎と実際を学習し習得する。		学習目標	
1月達日標 の基礎と実際を学習し習得する。			
接来形態   接業形態   連担当教員   山下 勝/ YAMASHITA Masaru		到達目標	
機能形態学主担当教員山下 勝/ YAMASHITA Masaruテーマ耳鼻咽喉・頭頸部疾患領域研究の基礎となる正常解剖・組織学・機能に関する研究方法論を修得する。学習目標耳鼻咽喉・頭頸部領域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剖、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。可達目標本研究領域の標本を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的根拠ならびに応用具体例を学習する。耳鼻咽喉科・頭頸部外科分子病態学講養主担当教員山下 勝/ YAMASHITA Masaruテーマ耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患領域の病態論、臨床的検査、治療法検討のための方法論理解法・頭頸部領域疾患の研究者育成にあたり、様々な疾患の病態論とその臨床的検査や治療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。利達日標様々な疾患例から得られた組織、血液などの検体を用いて病理組織学、細胞培養、分子生物学	可自mme到 高麗知月到	極要形能	
テーマ			
学習目標   耳鼻咽喉・頭頸部領域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剖、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。   到達目標   本研究領域の標本を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的   根拠ならびに応用具体例を学習する。   講 養   主担当教員   山下 勝/ YAMASHITA Masaru   テーマ   耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患領域の病態論、臨床的検査、治療法検討のための方法論   「デーマ   耳鼻咽喉科・頭頸部領域疾患の研究者育成にあたり、様々な疾患の病態論とその臨床的検査や治療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。   様々な疾患例から得られた組織、血液などの検体を用いて病理組織学、細胞培養、分子生物学	<b>                                     </b>	土担当教貝	
学習目標         耳鼻咽喉・頭頸部領域の研究者育成にあたり、その基礎となる正常解剖、組織学や機能に関する研究方法論を修得する。           到達目標         本研究領域の標本を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的根拠ならびに応用具体例を学習する。           野海咽喉科・頭頸部外科分子病態学         護業形態 養 主担当教員 山下 勝/ YAMASHITA Masaru テーマ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患領域の病態論、臨床的検査、治療法検討のための方法論 耳鼻咽喉科・頭頸部領域疾患の研究者育成にあたり、様々な疾患の病態論とその臨床的検査や治療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。           砂達日標         様々な疾患例から得られた組織、血液などの検体を用いて病理組織学、細胞培養、分子生物学		テーマ	
子質日標   る研究方法論を修得する。			11.1
到達目標   本研究領域の標本を用いた免疫組織化学、細胞培養、動物実験等の具体的な手技やその理論的根拠ならびに応用具体例を学習する。		学習目標	
対達日標   根拠ならびに応用具体例を学習する。			
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 分子病態学 主担当教員 山下 勝/ YAMASHITA Masaru テーマ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患領域の病態論。臨床的検査、治療法検討のための方法論 耳鼻咽喉科・頭頸部領域疾患の研究者育成にあたり、様々な疾患の病態論とその臨床的検査や 治療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。 様々な疾患例から得られた組織、血液などの検体を用いて病理組織学、細胞培養、分子生物学		到達目標	
分子病態学主担当教員山下 勝/ YAMASHITA Masaruテーマ耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患領域の病態論、臨床的検査、治療法検討のための方法論学習目標耳鼻咽喉科・頭頸部領域疾患の研究者育成にあたり、様々な疾患の病態論とその臨床的検査や治療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。利達日標様々な疾患例から得られた組織、血液などの検体を用いて病理組織学、細胞培養、分子生物学	可真咽喉到 高端如母科	+≤ 安 TV 台□	
テーマ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患領域の病態論、臨床的検査、治療法検討のための方法論			
学習目標 耳鼻咽喉科・頭頸部領域疾患の研究者育成にあたり、様々な疾患の病態論とその臨床的検査や 治療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。 様々な疾患例から得られた組織、血液などの検体を用いて病理組織学、細胞培養、分子生物学	カ 丁炳忠子		
子質日標   治療法を関連付けて総合的に検討できる基本的方法論を修得する。		テーマ	
治療法を関連付けて総合的に使討できる基本的方法論を修得する。 様々な疾患例から得られた組織、血液などの検体を用いて病理組織学、細胞培養、分子生物学		学習日標	
柳澤日曜   1		, n n w	
		到達目標	
		3. = 1. 54.	助于法により脾析する方法や原理を具体的に字質する。

3-2. 専門基礎科目	(尤连冶療科子等	导攻 <i>)</i>
授業科目名		講義等の概要
遺伝子治療・再生医学	授業形態	講義
	主担当教員	小戝 健一郎/KOSAI Kenichiro
	テーマ	遺伝子治療・発生再生医学
	学習目標	細胞生物構造学、発生学を理解し、遺伝子治療・再生医学などの先端治療法開発のための知識 と研究手法を習得する。
	到達目標	上記を達成するため、細胞生物構造学の研究方法を知り、遺伝子治療、発生再生医学の研究手法、バイオテクノロジーを学習する。
感覚運動機能疾患制御学	授業形態	講義
	主担当教員	谷口 昇/ TANIGUCHI Noboru
	テーマ	四肢・脊椎における骨格(骨・軟骨)、筋、神経機能疾患の病因・病態と先進的治療に結びつ く治療法開発のための基礎研究手法
	学習目標	四肢・脊椎における骨格(骨・軟骨)、筋、神経機能疾患の病因・病態を理解し、先進的治療 に結びつく治療法開発のための基礎研究手法を修得する。 上記を達成するため、骨格、筋、神経(脊髄、末梢神経)に関する解剖学、生理、生化学、バ
リハビリテーション医学	到達目標 	イオメカニクス、分子生物学、分子薬理、遺伝子治療等の基礎知識・研究技法を学習する。 講義
),,c), vavEF	主担当教員	下堂薗 恵/SHIMODOUZONO Megumi
	テーマ	機能障害とリハビリテーション
	学習目標	版能障害とリバヒリケーション 脳、脊髄、筋骨格、心肺系の疾病にもとづく機能障害の原因、病態の理解とその障害回復のための研究技法を修得する。
	到達目標	脳、脊髄、筋骨格、心肺系の構造と機能、生理、分子生化学、バイオメカニクスとその障害に よる運動、感覚、高次脳機能、心肺耐性、心理的、社会的機能低下の回復の知識と研究技法を 学ぶ。
血管代謝病態解析学	授業形態	講義
	主担当教員	橋口 照人/HASHIGUCHI Teruto
	テーマ	血管代謝異常の分子病態学的解析
	学習目標	血管代謝異常に基づく病態の理解に必要な基礎的知識を修得する。
	于日口际	1. 凝固系と線溶系の相互関係を理解し説明できる。
	到達目標	2. 血小板の生理活性物質の役割を理解し説明できる。 3. 血栓形成の機序を分子病態学的に理解し説明できる。 4. 代表的血栓症治療薬の作用機序を理解し説明できる。
		5. 血管における炎症の制御と破綻の分子病態を理解し説明できる。
心臓血管内科学	授業形態	講義
	主担当教員	大石 充/OHISHI Mitsuru
	テ ー マ	心臓血管疾患の基礎と臨床
	学習目標	心臓血管疾患の病因、病態、診断、治療について基礎から臨床までを総合的に理解し、成因、 病態のさらなる解明および、新しい診断法、治療法の開発を目指して学習すること。
	到達目標	1. 心臓血管系の解剖・生理を理解し、説明できる。 2. 心臓血管疾患の特徴的な症候を理解し、説明できる。 3. 心臓血管疾患の心臓超音波、心臓カテーテル検査による診断を理解し説明できる。 4. 心臓血管疾患の成因、病態を理解し、説明できる。 5. 心臓血管疾患を正しく診断し、最新の治療について説明できる。
循環器内科学	授業形態	講義
	主担当教員	窪薗 琢郎/ KUBOZONO Takuro
	テーマ	循環器疾患の診断と治療
	学習目標	循環器疾患の病態、診断、治療について分子レベルから個体レベルまでを総括的に理解し、それらの知識の基に成因、病態のさらなる解明、また新しい診断法、治療法の開発を目指して学習すること。
		1. 循環系の解剖・生理を理解し、説明できる。 2. 循環器疾患の特徴的な症候を理解し、説明できる。 3. 循環器検査として心電図、心血管エコー、核医学検査、心臓カテーテル検査の原理を理解
	到達目標	し、実践できる。 4. 個々の循環器疾患の成因、病態を理解し、説明できる。 5. 個々の循環器疾患を正しく診断し、個別の最新治療ができる。
呼吸器内科学	授業形態	講義・演習
"小人加口打门子	主担当教員	神 我 · 例 自 井上 博雅 / INOUE Hiromasa
	土担ヨ教貝 テーマ	呼吸器疾患の臨床と基礎
	学習目標	呼吸器疾患の病因、病態、診断法、治療法に関する基礎知識を習得する。
	到達目標	1. 呼吸器疾患の病因を理解し、説明できる。 2. 呼吸器疾患の病態を理解し、説明できる。 3. 呼吸器疾患の診断法を理解し、説明できる。 4. 呼吸器疾患の治療法を理解し、説明できる。 5. 呼吸器疾患の予防研究の意義を述べることができる。
統合分子生理学	授業形態	3. 庁牧命大忠の子例明九の息我を甦いることが、くさる。 講義・演習
加口カリエ柱子		
	主担当教員	柏谷 英樹/ KASHIWADANI Hideki
	テーマ	自律神経及びホルモンによる生体制御の分子機構
	学習目標	自律神経及びホルモンによる生体制御の分子機構を研究する方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。
	到達目標	1. 遺伝子改変動物の作成方法を説明できる。   2. 小型動物に適用可能な個体レベルでの検査・研究方法を説明できる。   3. 種々の神経科学的研究手法の利点と欠点が説明できる。

授業科目名		
		講義等の概要
分子情報薬理学	授業形態	講義
	主担当教員	佐藤 達雄/SATO Tatsuo
	テーマ	情報伝達と薬理作用
	学習目標	生体機能情報に関わる分子の作用機序について学習することにより、薬理作用の分子メカニズ  ムを理解する。
		1. 生体内情報伝達物質をその生化学的性質で分類し、列挙できる。
	到達目標	2. 代表的細胞内情報伝達経路及びそれにかかわる分子をあげ説明できる。
/	1公 45 五八号2	3. 生体内情報伝達システムに作用機転を有する薬物の代表例をあげその作用機序を説明できる。
侵襲制御学	授業形態	講 義
	主担当教員 テーマ	松永 明/ MATSUNAGA Akira 侵襲と生体反応
	学習目標	侵襲に対する生体反応とその制御について学び、それを研究するための実験手法を理解する。
	子自日保	1. 侵襲が生体に加わった時に起こる生体反応の機序を理解し、それを解明するための実験方
	到達目標	は、
侵襲制御学2	授業形態	講 義 ・ 演 習
(開講未定)	主担当教員	未 定
	テーマ	ショックの病態と治療
	学習目標	代表的な生体に対する侵襲であるショックの病態と治療と研究法について学ぶ。
	到達目標	1. ショック時に起こる生体反応の機序を理解し、それを解明するための実験方法を学習する。 2. ショックの種類とそれぞれの特徴を認識し、それぞれの各々のショックに関する研究の手法を学習する。 3. ショックの治療について理解し、現在の治療法について認識し、新たな治療法の開発に関
		する研究手法を学習する。
侵襲制御学3	授業形態	講義・演習
	主担当教員	松永 明∕ MATSUNAGA Akira
	テーマ	経食道エコーによる周術期循環管理
	学習目標	経食道エコーの周術期における有用性と臨床研究法について学ぶ。
	到達目標	1. 経食道エコーの原理と、心機能診断の基礎を学習する。 2. 各種心疾患での経食道エコーの所見を理解し、それぞれの疾患での有用性について学習する。 3. 経食道エコーを用いた周術期の臨床研究について学び、経食道エコーを用いた臨床研究に ついて検討する。
救急集中治療医学特論 I	授業形態	講義
	主担当教員	垣花 泰之/ KAKIHANA Yasuyuki
	テーマ	急性期病態における侵襲制御と臓器保護
	学習目標	重症の急性期病態における生態侵襲と臓器保護について学び、研究に活かす。
	到達目標	<ol> <li>1. 救急集中治療の関連する各種急性期病態について学習する。</li> <li>2. 救急集中治療領域の急性期の重症病態における生体侵襲を学習する。</li> <li>3. 救急集中治療領域の急性期の重症病態における侵襲制御を学習する。</li> <li>4. 救急集中治療領域の急性期の重症病態における臓器保護を学習する。</li> </ol>
救急集中治療医学特論Ⅱ	授業形態	講義
	主担当教員	新山 修平/ NIIY AMA Shuhei
	テーマ	Advanced Lecture 2 of Emergency and Intensive Care Medicine
	学習目標 到達目標	重症の急性期病態における生態侵襲と臓器保護について学び、研究に活かす。  1. 救急集中治療の関連する各種急性期病態について学習する。  2. 救急集中治療領域の急性期の重症病態における生体侵襲を学習する。  3. 救急集中治療領域の急性期の重症病態における侵襲制御を学習する。
		4. 救急集中治療領域の急性期の重症病態における臓器保護を学習する。
薬物動態制御学	授業形態	講義・演習
	主担当教員	寺薗 英之 /TERAZONO Hideyuki
	テーマ	薬物動態制御学
	学習目標	薬物の体内動態の変化を考慮した、安全で効果的な薬物療法を行うことができる。
	到達目標	薬物体内動態の制御機構を理解し、その変化を理論的に予測できるとともに、薬物動態学的要因に基づく薬効変化の理由を説明できる。
歯科応用薬理学(2)	授業形態	講 義
	主担当教員	佐藤 友昭/SATO Tomoaki
	テーマ	Applied Pharmacology
	学習目標	歯科に関連する薬物の受容体、情報伝達機構および有害作用、薬物相互作用の概略を理解する。
		歯科に関連する薬物の受容体と細胞内・細胞間の情報伝達機構を学習し、併せて、薬物相互作用、口腔領域に現れる薬物の副作用・有害作用の起因を学習し、より優れた薬物の使用方法を
	到達目標	習得する。
口腔生理学	到達目標 授業形態	
口腔生理学		習得する。 講 義 齋藤 充/ SAITO Mitsuru
口腔生理学	授業形態 主担当教員 テーマ	習得する。 講 義
口腔生理学	授業形態 主担当教員	習得する。 講 義 齋藤 充/ SAITO Mitsuru

3-2. 専門基礎科目	(兀连泊原件子)	
授業科目名	t or Alle me e date	講義等の概要
生体材料学	授業形態	講義
	主担当教員	菊地 聖史/KIKUCHI Masafumi
	テーマ	生体材料学の基礎
	学習目標	生体材料に関する基本的知識を修得する。
		1. 生体材料の定義と要件を理解し、説明できる。 2. 生体材料の種類と性質を理解し、説明できる。
	到達目標	3. 生体材料の製作法と加工法を理解し、説明できる。
		4. 生体材料の評価法を理解し、説明できる。
口腔顎顔面補綴学	授業形態	講義
	主担当教員	西 恭宏/ NISHI Yasuhiro
	テーマ	口腔顎顏面補綴学研究基礎
	学習目標	口腔顎顔面領域における先天的・後天的な形態・機能異常を有する患者、義歯に起因する口腔 粘膜疾患、骨粗鬆症などの全身疾患に罹患した顎骨などの病態および QOL が低下した患者心 理を理解し、補綴診断と補綴治療の研究法を修得する。
	到達目標	補綴装置が人工臓器として機能するための条件や補綴治療と全身との関係究明ならびに客観的 診断法や効果的教育法の開発などに必要な、種々の手段による基礎的実験、工学的手法の補綴 臨床への応用、基礎的研究成果の臨床応用とその治療成績分析などを学習する。
歯科保存学	授業形態	講義
	主担当教員	西谷 佳浩/ NISHITANI Yoshihiro
	テーマ	歯系組織疾患の特徴、その保存的療法並びに修復的療法
	学習目標	歯系組織疾患の特徴を理解し、その保存的療法並びに修復的療法に関する知識、技能、研究法 を習得する。
	到達目標	
歯周疾患制御学	授業形態	講義
	主担当教員	野口 和行/ NOGUCHI Kazuyuki
	テーマ	歯周病の基礎と臨床
	学習目標	歯周疾患の病因を理解し、効果的な治療法の開発に携わる能力を修得する。
	到達目標	歯周疾患の病態を正確に把握し、その病因の分析方法を学習すると共に、治療法について歴史的な変遷の理解および手技の修得を目指し、新しい治療法の開発方法を教授する。
顎顔面腫瘍制御学	授業形態	その他
	主担当教員	奥井 達雄/OKUI Tatsuo
	テーマ	口腔顎顔面領域に発生する腫瘍・口腔顎顔面領域の疾患・術後の口腔機能低下
	学習目標	1. 口腔顎顔面疾患に関する臨床論文を理解することができる。 2. 口腔顎顔面疾患に関する研究論文を理解することができる。 3. その他の医学論文を理解し・説明討論することができる。 4. これらから得た知識を臨床において実践する。 5. 口腔外科学会認定医を取得に必要な症例を経験する。
THE BANDES SETT ALL TO WE (A)	到達目標	1. 口腔顎顔面疾患に関する臨床論文を理解し、最新の臨床知見を得ることによって臨床に反映することができる。 2. 口腔顎顔面疾患に関する研究論文を理解し、最新の研究手法について知見を得ることによって自身の研究に反映することができる。 3. 医学論文から得た情報について資料を検索し、さらに深い理解に繋げることができる。 4. 臨床修練を実施し、研究論文や議論から得た知識を臨床において実践する。 5. 症例を経験し、症例数を蓄積することにより、口腔外科学会認定医を取得する。
口腔顎顔面外科学(2)	授業形態 主担当教員	講 義 画
}	土担当教員 テーマ	西條 英人/ Saijo Hideto 口腔外科診断治療学
	学習目標	口腔外科診断石塊字  口腔外科専門医としての臨床ならびに研究を進める上で必要な知識を理解し基礎的技術を修得する。
	到達目標	口腔顎顔面領域における種々の疾患の原因・病態・治療法についての講義、ビデオを活用した
歯科全身管理学	授業形態	最新の手術手技の供覧・解説、口腔外科臨床研究のあり方並びに方法論を習得する。 講 義
歯科全身管理字 - - -	投票形態   主担当教員	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
	土担ヨ教員 テーマ	歯科領域における全身管理学
	学習目標	歯科領域における全身管理学の概念と生体機能制御方法について理解する。
	到達目標	高齢化社会の進展、在宅歯科医療の需要、医療技術の進歩などにより基礎疾患を有する歯科患者が増加しつつある現状を踏まえ、口腔外科手術、歯科治療時の局所麻酔学、全身麻酔学、全身機能管理学、精神鎮静法、救急処置法などに関する知識と技術を学習する。
放射線診断治療学	授業形態	講義
	主担当教員	吉浦 敬/ YOSHIURA Takashi
	テーマ	各種画像診断および放射線治療の原理と実際
	学習目標	放射線を用いた画像診断法と治療法の原理と実際と応用を理解する。
	到達目標	1. CT、MRI、核医学などの実際の撮像法に携わるための基礎知識を身に付け、各画像診断法での正常と異常所見を説明できる。 2. IVR や放射線治療、温熱療法の実際と応用について説明できる。

	(九连/山原代子寺以)		
授業科目名		講義等の概要	
泌尿器系腫瘍学	授業形態	講義	
	主担当教員	榎田 英樹/ ENOKIDA Hideki	
	テーマ	泌尿器系腫瘍の生物学的特性	
	学習目標	泌尿器系腫瘍の生物学的特性を学習し理解する。	
	到達目標	1. 泌尿器系腫瘍の生物学的特性を学習する。	
	月足日休	2. 泌尿器系腫瘍の治療法を研究するための分子生物学的、生化学的手法を学習する。	
頭頸部腫瘍病理学	授業形態	講義	
	主担当教員	笹平 智則 / SASAHIRA Tomonori	
	テーマ	頭頸部腫瘍の分子病理学的な理解	
	) - \		
	学習目標	1. 頭頸部腫瘍の病理組織学的特徴を理解し、説明できる。	
	V 11 11 11 11	2. がんの分子生物学を理解し、説明できる。	
		1. 頭頸部腫瘍の病理学を理解し、説明できる。	
	到達目標	2. がんの発生、進展に関連する分子生物学的なメカニズムを理解し、説明できる。	
		3. 頭頸部腫瘍に関連する分子生物学的な異常を理解し、説明できる。	
顎顔面放射線学	授業形態	講義・演習	
3000 m 1001 m 1	主担当教員	田中 達朗/TANAKA Tatsurou	
	テーマ	顎顔面領域における放射線診断及び治療法	
	学習目標	顎顔面領域における放射線診断及び治療法について理解する。	
	太小寺 口 揺	口腔及び顎顔面領域における放射線の歯科医学的利用に関連し、基礎的知識と技術及びその臨	
	到達目標	床応用について学習する。	
小児外科学	授業形態	講義	
+ / <del>-</del> / 1   1   4	主担当教員	家入 里志/IEIRI Satoshi	
	テーマ	Lecture Program of Pediatric Surgery	
	学習目標	小児外科疾患に的確な治療を行うために、その病態を理解する。	
		1. 臓器発生について述べることができる。	
		2. 各臓器の解剖、機能について述べることができる。	
	701 Nds 111 Jan	3. 小児外科疾患の病態を述べることができる。	
	到達目標	4. 小児外科疾患の治療方法と問題点を述べることができる。	
		5. 小児外科疾患の研究モデルを構築できる。	
		6. 病態の解明・治療方法の開発のための研究モデルを構築できる。	
心臓血管外科学	授業形態	講義	
心順叫目が行子		77	
	主担当教員	曽我 欣治/SOGA Yoshiharu	
	テーマ	心臓血管疾患に対する先進外科治療	
	学習目標	心臓血管の解剖、疾患に対する外科的手術適応、治療戦略について総合的に習得する。	
		1. 心臓血管の解剖・生理を理解し説明できる。	
		2. 心臓血管疾患に対する外科的手術適応を理解し説明できる。	
	到達目標	3. 対外循環を含めた各種心肺補助装置の役割を理解し説明できる。	
	27,201	4. 心臓血管疾患に対する外科的治療戦略を理解し説明できる。	
		5. 心臓血管疾患に対する最新の治療に関して理解する。	
150 150 150 150 150 150 150 150 150 150	+∞ 學 TV 台□	は、 近城血自然には対する取削が自然に因じて全所する。	
呼吸器外科学	授業形態	tria and	
	主担当教員	上田 和弘/UEDA Kazuhiro	
	テーマ	呼吸器疾患における先進治療体系	
	学習目標	呼吸器疾患の病態と診断、治療について総括的に修得する。	
		1. 呼吸器疾患における病態、原因について遺伝子および分子レベルで解析し理解できる。	
	】 到達目標	2. 肺機能の温存と改善、QOLの向上をふまえた種々の治療法を広く理解できる。	
	JAC 日 1示	2. 帰候能の価行と以告、その上の同工をあまたた性々の自療法を払く延昇とさる。	
压症制御兴	極要形態		
腫瘍制御学	授業形態	講義	
	主担当教員	中条 哲浩/NAKAJO Akihiro	
	テーマ	腫瘍制御学	
	W. VIVI 1-1 LINE	腫瘍制御における外科治療を中心とした集学的治療について理解し、特に先端的外科治療法に	
	学習目標	ついては遅滞なくその内容と問題点を学ぶ。	
		1. 腫瘍手術の意義および適応の基本概念を説明できる。	
		2. 腫瘍手術の効果と代償について理解し、対応戦略を説明できる。 3. 鏡視下手術やロボテック・サージェリー、センチネルノードナビゲーションサージェリー、	
	到達目標		
		手術画像支援技術の意義と適応を説明できる。	
		4. 外科治療の役割、限界、合併症、患者・家族へのインフォームド・コンセントについて説	
Table to a material	1-4 100 100	明できる。	
高度がん医療学	授業形態	講 義	
	主担当教員	鈴木 紳介/ SUZUKI Shinsuke	
	テーマ	先端がん医療学	
	<u> </u>	臨床腫瘍学について、がん予防、早期発見・検診・診断・告知、標準治療と腫瘍救急、緩和、	
	学習目標	麻木腫場子について、かんずめ、半別光光・快診・診断・古知、標準石原と腫瘍状态、板和、   終末期医療までを横断的・包括的に学ぶ。	
		1. 代表的疾患の標準的治療ならびに腫瘍救急とその対処法を説明できる。	
	到達目標	2. がん患者に必要な緩和の概念を理解し説明できる。	
	24/5 11/1/	3. がん集学的治療や地域連携におけるチーム医療を理解し説明できる。	
		4. がんゲノム医療を理解し、遺伝子分解~治療への応用までを説明できる。	

3-2.専门奉碇科日	(几连/口凉竹子	<del>分</del> 级)
授業科目名		講義等の概要
がん診療学 (総論)	授業形態	講義
	主担当教員	松下 茂人 / MATSUSHITA Shigeto
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
がん診療学(各論)	授業形態	講義
	主担当教員	松下 茂人 / MATSUSHITA Shigeto
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
循環器病学 (総論)	授業形態	講義
VII STORM // 7 (Appring)	主担当教員	東 健作 /HIGASHI Kensaku
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
循環器病学(各論)	授業形態	講義
MANAGEMENT (PARIS)	主担当教員	東 健作 /HIGASHI Kensaku
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
臨床検査医学 (総論)	授業形態	講義
四/八八天正区于 (邓50周)	主担当教員	梅橋 功征 /UMEBASHI Katsuyuki
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
臨床検査医学(各論)	授業形態	講義
四州八八五区 1 (日間)	主担当教員	梅橋 功征 /UMEBASHI Katsuyuki
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
血液腫瘍学 I	授業形態	講義
(開講未定)	主担当教員	伊藤 能清/ITO Yoshikiyo
	テーマ	急性白血病と ATL 発症要因
	学習目標	急性白血病 /ATL の発症に関する基礎的知識を学ぶ。
	到達目標	造血器悪性腫瘍(おもに急性白血病・ATL)の診断・発症原因についての知識を習得する。
血液腫瘍学Ⅱ	授業形態	講義
(開講未定)	主担当教員	伊藤 能清/ITO Yoshikiyo
	テーマ	急性白血病と ATL 治療
	学習目標	ATLの臨床病態を引き起こすメカニズムに対する基礎知識と治療戦略に対する基礎知識を学ぶ。
	到達目標	ATLの臨床病態の基礎的知識を学ぶ。ATL 細胞の抗がん剤耐性機構を学び克服を考える。免疫療法や分子標的治療の基礎的知識を学び、実践への準備体制を目指す。
がん診療医学Ⅰ	授業形態	講義
	主担当教員	上之園 芳一/UENOSONO Yoshikazu
	テーマ	消化器癌に対する集学的治療
	学習目標	消化器癌に対する治療の基礎を学ぶ
	到達目標	消化器癌に対する内視鏡治療、外科治療、化学療法について学び、治療法の選択につき習得する。
がん診療医学Ⅱ	授業形態	講義
	主担当教員	上之園 芳一/UENOSONO Yoshikazu
	テーマ	消化器癌に対する集学的治療
	学習目標	消化器癌に対する集学的治療の基礎を学ぶ
		1. 心臓血管の解剖・生理を理解し説明できる。
	with the tree	2. 心臓血管疾患に対する外科的手術適応を理解し説明できる。
	到達目標	3. 対外循環を含めた各種心肺補助装置の役割を理解し説明できる。
		4. 心臓血管疾患に対する外科的治療戦略を理解し説明できる。   5. 心臓血管疾患に対する最新の治療に関して理解する。
		3. 仏順川日水ぶに別りの取材が1円がに関して理胜りる。

接生学・健康増進医学 上担当教日 上担当教日 大学習目轄 上担当教日 大学習目轄 上担当教日 中学問目轄 「2	授業科目名	(11 <del>1 114</del> )	講義等の概要
第19 正		1-☆ -Ψ5- π7- ☆15	
第一十二 「			27 1
特別	演習		
学習日報		テーマ	
2. * 情報・強を全通し、現地原第・予助原学の今後の研究テーマを提示することができる。 1. 海生学・健康増進を呼に関する情報・文献を検索・収集できる。 2. 海生学・健康増進を呼い関する情報・文献を検索・収集できる。 3. 海生学・健康増進を呼びので度、目的、内容を科学的・語別に伝表できる。 4. 物生学・健康増進を呼びので度、目的、内容を科学的・語別に伝表できる。 5. 海生学・健康増進を呼が成まている。 ・			
日本学・検索用進度学研究に関する情報や高次内容を提明し、ましめることができる。		学習目標	
2. 痛年学・健康母恋学に関する情報や文献を検索・収集できる。			
別達日報   別達日報   2			
日本学・健康増進医学・健康増進医学研究の背景、目的、内容を科学的・論解的に発表できる。 5、高生学・健康増進医学研究の表現、問題な符等未課題を提示する。 5、商生学・健康増進医学研究の表現、同びBIUCHI Masahisaa		entre en tod	
商生学・健康労進医学 主報・登長		到達目標	
接来整理			
	<b>佐上兴</b> - 健康操 发 医 兴	松光工公告	<del> </del>
テーマ 現境変別。生活習習の健康影響を科学的に検証する。			2 7 77
第二年 - 中央   中央   中央   中央   中央   中央   中央   中央	大歌		
1. 南年年・使取者風俗学の認題を選択できる。 2. 文献を理解しまとめることができる。 3. 環境関目の解析ができる。 4. 集体影響の解析ができる。 5. 実験様果を考とか、提示することができる。 6. 実験様果を考とか、提示することができる。 7. 英文で実験結果や考察をまとめることができる。 7. 英文で実験結果や考察をまとめることができる。 7. 英文で実験結果や考察をまとめることができる。 7. 英文で実験結果や考察をまとめることができる。 7. 英文で実験結果や考察をまとめることができる。 9 生担当教員 7 ー マ			
2、文族を理解しまとめることができる。 3、現域を関の解析ができる。 4、機は影響の解析ができる。 5、実験結果をまとめ、提示することができる。 6、実験結果をまとめ、提示することができる。 6、実験結果をまとめ、選示することができる。 7、英文で実験結果を考めをまとめることができる。 6、実験結果を考めをまとめることができる。 7、英文で実験結果を考めをまとめることができる。 7、英文で実験結果を考めをまとめることができる。 7、英文で実験結果を考めをまとめることができる。 7、新化器疾患・生活習慣病学の臨床研究 中間		字曾目標	
3. 環境要因の解析ができる。 (4. 健康影響の解析ができる。 5. 実験結果をまとめ、提示することができる。 6. 実験結果をまとめ、提示することができる。 6. 実験結果をまとめ、提示することができる。 6. 実験結果をまとめ、提示することができる。 7. 英文で実験結果や考察をまとめることができる。 7. 英文で実験結果や考察をまとめることができる。 7. 英文で実験結果や考察をまとめることができる。 7. 英文で実験結果や考察をまとめることができる。 7. 美文で実験は一体の表し、対応を強いないできる。 7. 美文で実験は一体の表し、対応を表しましたできる。 7. 美文・実験は、自然技を述べることができる。 1. 消化器疾患もでは活習慣病の角膜を理解し、説明できる。 2. 生活習慣病の病膜と理解し、説明できる。 2. 治化器疾患および生活習慣病の所臓を理解し、説明できる。 4. 消化器疾患および生活習慣病の所臓を理解し、説明できる。 4. 消化器疾患および生活習慣病のが酸法を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患および生活習慣病のが酸性を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患および生活習慣病の事態の関係を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患および生活習慣病の事態の関係を連解していることができる。 7. イクロアレイ解析)法および報報の資料をできる。 2. 網羅的遺伝子解析(マイクロアレイ解析)法および報報の資料ができる。 3. 整治性治化器疾患の病療、疫学との治療法と理解し説明できる。 4. 循環器疾患、カメギリックシンドロームの病態との薬物療性と理解し、説明できる。 3. 整治性形化器疾患の病療との類療と理解し、認明できる。 3. 雑活性が心発現機がを理解し、その病的意義と治療・患者活導法をまとめることができる。 3. 日にいる発表の物態と見、後性が異常の基礎および安全研究の意義について現明をきる。 8. 日にいる発表の特別を主なには生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 3. 資産日報 類保険・内が必要が関係に必要が関いできる。 3. 資産日報 類保険・内が必要が関係に必要が関いできる。 3. 資産日報 類保険・内が必要が関すてきる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養・内が必要が関し、その説明ができる。 5. 栄養・内が必要に関する陰は、基礎研究の主義とができる。 2. 衆解析・内が必要に関する陰は、基礎研究の主義とかできる。 4. 得別は最初を発見と切りできる。 2. 親解析・内が必要に関する陰は、基礎研究の主義とができる。 3. 得いれた結果について、周辺論を発達し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論を発達し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論を発達し説明できる。 4. 得られた結果に可する。 ままかできる。 3. 得いれた結果について、周辺論を発達しまりできる。 4. 得られた結果に可する陰は、基礎研究の主義とができる。 3. 得いれた結果について、周辺論を発見とせることができる。 3. 得いれた結果について、周辺論を発見と関すできる。 4. 得いれた結果について、周辺論を発見と関すできる。 4. 得いれた結果について、周辺論を発見といいませないませないませないませないませないませないませないませないませないませ			
1			
5. 実験結果を書とめ、提示することができる。 6. 実験結果を終し、単級の解果がに「飯」の提示を行うことができる。 7. 美文で実験結果や考察を書とめることができる。 7. 美文で実験結果や考察を書とめることができる。 7. 美文で実験結果や考察を書とめることができる。 7. 美文で実験結果や考察を書とめることができる。 2. 推出当教員		到漆日趰	
作化器疾患・生活習慣 授業形態 注担当教員		判廷日保	
花器疾患・生活習慣   投業影響   東田   京   京   京   京   京   京   京   京   京			
注明当教員			
### 第一日	消化器疾患・生活習慣	授業形態	
テーマ 消化器疾患・生活習慣病学の臨床研究 1 消化器疾患・動産 (新療法・治療法を述べることができる。 2 生活習慣病の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。 1 消化器疾患および生活習慣病の病理を理解し、説明できる。 3 消化器疾患および生活習慣病の病理を理解し、説明できる。 3 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、認明できる。 5 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、認明できる。 5 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、認明できる。 5 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、認明できる。 5 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、ことができる。 6 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、ことができる。 7 半日 (大田	病学演習		~
学習目標 1. 消化器疾患および生活習慣病の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。 2. 生活習慣病の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。 1. 消化器疾患および生活習慣病の病因を理解し、説明できる。 2. 消化器疾患および生活習慣病の診断法を理解し、説明できる。 4. 消化器疾患および生活習慣病の診断法を理解し、説明できる。 4. 消化器疾患および生活習慣病の診断法を理解し、説明できる。 4. 消化器疾患および生活習慣病の診断法の変解し、説明できる。 5. 消化器疾患および生活習慣病の予防死の意義を述べることができる。 2. 解化器疾患および生活習慣病の予防死の意義を述べることができる。 2. 解解的主要とおりの手法を理解し、実験できる。 2. 解解的遺伝子解析ではクロアレイ解析)法および網解的蛋白解析(プロテォーム解析)を理解できる。 3. 離合性育化器疾患の病態、接学とその治療法を理解し説明できる。 4. 循環器疾患、メタボリックシンドロールの病態とその薬物療法を理解し、説明できる。 5. 授性条束体事をや糖化性管位の病態を理解し、説明できる。 6. 探島の降灰、喫煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎および疫学研究の意義について理解し、誤明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-1 最收者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 1. 1 型熱尿病の病腺生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 型糖尿病の病腺生理、治療法を理解し、その説明ができる。 1. 1 型熱尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 3. 内分泌疾患の診断、治療法と理解し、その説明ができる。 5. 栄養・内分泌学 学習目標 糖尿病・内分泌学 原理・治療法と理解し、その説明ができる。 5. 栄養・原子を実験し、その説明ができる。 1. 1 型熱尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 1. 1 型熱尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 1. 1 単素疾患の病療生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 単素病 内分泌学・関する 臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 1. 非本のな研究手法を理解し実践できる。 2. 機尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。			117 1 117
2. 生活型積減の病因、病態、診断法、治療法を強べることができる。 1. 消化器疾患および生活質慣病の高酸を理解し、説明できる。 2. 消化器疾患および生活習慣病の高酸活法を理解し、説明できる。 3. 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患よび生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患よび生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患よび生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患よび生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患よび生活習慣病の治療法を理解し、以明できる。 6. 消化器疾患・生活習慣病子の病態に関する研究  学習目標 消化器疾患おび生活習慣病の基礎・臨床研究を行い、医学論文としてまとめることができる。 1. 基本的な分子生物学的手法を理解し、実践できる。 2. 組織耐激法と再解(マイクロアレイ解析)法および網離的蛋白解析(プロテオーム解析)を理解できる。 3. 懸治性消化器疾患の病態、疫学とその治療法を理解し、説明できる。 4. 循環器疾患、メタボリックシンドロームの消態とその薬物療法を理解し、説明できる。 5. 慢性赤球体等炎や糖尿性腎症の前腹を理解し、説明できる。 6. 機局の解除、曖昧などの強要因と慢性呼吸器疾患の基礎おど疫学研究の意義について理解し、説明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その納的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 1. 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 1. 1 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 3. 内分泌疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養・内分泌学・関性、影解、治療を理解し、その説明ができる。 5. 栄養の基本を理解し、その説明ができる。 1. 生当教員 東			
1. 消化器疾患および生活習慣病の病限を理解し、説明できる。   2. 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。   3. 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。   4. 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。   4. 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。   3. 消化器疾患および生活習慣病の予節療法を理解し、説明できる。   1. 資本影響		学習目標	
2. 消化器疾患および生活習慣病の診断法を理解し、説明できる。 3. 消化器疾患および生活習慣病の診断法を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。 5. 消化器疾患および生活習慣病の治療法を理解し、説明できる。 7. マ 河 化器疾患および生活習慣病の多療とできる。			
1			
1 日本の		到達目標	3. 消化器疾患および生活習慣病の診断法を理解し、説明できる。
技業形態   上担当教員			
# 三担当教員			
テーマ 消化器疾患・生活習慣病学の病態に関する研究 学習目標 消化器疾患および生活習慣病の基礎・臨床研究を行い、医学論文としてまとめることができる。  1. 基本的な分子生物学的手法を理解し、実践できる。 2. 網羅的遺伝子解析(マイクロアレイ解析)法および網羅的蛋白解析(プロテオーム解析)を理解できる。 3. 難治性消化器疾患の病態、疫学とその治療法を理解し説明できる。 4. 循環器疾患、メタボリックシンドロームの病態とをの薬物療法を理解し、説明できる。 5. 慢性糸球体腎炎や糖尿性腎症の病態を理解し、説明できる。 6. 桜島の際灰、映煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎および疫学研究の意義について理解し、説明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-I 感染者の地域的分布を疫学研究の而から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 2. 世期教員 西尾 善彦/NISHIO Yoshihiko デーマ 代謝・栄養・内分泌学 今習目標 糖尿病・内分泌学の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 1. 基本的な規定性、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、との説明ができる。 2. 難尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の主義ができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			7.7 7.1
学習目標 消化器疾患および生活習慣病の基礎・臨床研究を行い、医学論文としてまとめることができる。  1. 基本的な分子生物学的手法を理解し、実践できる。 2. 網維的遺伝子解析(マイクロアレイ解析)法および網羅的蛋白解析(プロテオーム解析)を理解できる。 3. 難治性消化器疾患の病態、安学とその治療法を理解し説明できる。 4. 循環器疾患、メタボリックシンドロームの病態とその薬物療法を理解し、説明できる。 5. 慢性糸球体腎炎や糖尿性腎症の病態を理解し、説明できる。 6. 桜島の降灰、喫煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎および疫学研究の意義について理解し、説明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 1. 1 型糖尿病・内分泌学 学習目標 糖尿病・内分泌学の病態生理、診断、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 2 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 1. 非型核果の高端、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の支験と論文作成を行うことができる。 1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。			
1. 基本的な分子生物学的手法を理解し、実践できる。 2. 網羅的遺伝子解析 (マイクロアレイ解析) 法および網羅的蛋白解析 (プロテオーム解析) を理解できる。 3. 離治性消化器疾患の病態、疫学とその治療法を理解し説明できる。 4. 循環器疾患、メタボリックシンドロームの病態とその素物療法を理解し、説明できる。 5. 慢性糸球体腎炎や糖尿性腎症の病態を理解し、説明できる。 6. 核島の降灰、喫煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎および疫学研究の意義について理解し、説明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患すたは生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 1. 1型排尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 3. 内分泌学の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 6. 栄養・内分泌学学学目標、整膜が完め実験と論文作成を行うことができる。 7. 栄養・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 7. 栄養・内分泌学に関する臨床・基礎研究の主義と論文作成を行うことができる。 7. 未確的な研究手法を理解し実践できる。 7. 未確研究の主義と確解での実践と論文作成を行うことができる。 7. 未述研究の主義に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 7. 機尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 7. 機尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 7. 機尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 7. 機尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 7. 機尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 7. 機尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 7. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。			
2. 網羅的遺伝子解析(マイクロアレイ解析)法および網羅的蛋白解析(プロテオーム解析)を理解できる。 3. 難結性消化器疾患の病態、疫学とその治療法を理解し説明できる。 4. 循環器疾患、メタボリックシンドロームの病態とその薬物療法を理解し、説明できる。 5. 慢性未球体腎炎や糖尿性腎症の病態を理解し、説明できる。 6. 核局の降灰、喫煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎おど疫学研究の意義について理解し、説明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 1. 1 型糖尿病・内分泌学 学習目標 糖尿病・内分泌学の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 2 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 3. 内分泌疾患患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 世界主報会員 東京 原本 を選解ができる。 1. 基本的な研究・実験を理解し、その説明ができる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。		学習目標	
を理解できる。     3. 離治性消化器疾患の病態、疫学とその治療法を理解し説明できる。     4. 循環器疾患、メタボリックシンドロームの病態とその薬物療法を理解し、説明できる。     5. 慢性糸球体腎炎や糖尿性腎症の病態を理解し、説明できる。     6. 桜島の降灰、喫煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎および疫学研究の意義について理解し、説明できる。     7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。     8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。     9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。     1. 1型熱尿の病態生理、方原、			
3. 離治性消化器疾患の病態、疫学とその治療法を理解し説明できる。 4. 循環器疾患、メタボリックシンドロームの病態とその薬物療法を理解し、説明できる。 5. 慢性糸球体腎炎や糖尿性腎症の病態を理解し、説明できる。 6. 桜島の降灰、喫煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎および疫学研究の意義について理解し、説明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 1. 1 型糖尿病・内分泌学 学習目標 糖尿病・内分泌学の病態生理、診断、治療を理解し、その説明ができる。 2. 2 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 2 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。			
4. 循環器疾患、メタボリックシンドロームの病態とその薬物療法を理解し、説明できる。 5. 慢性糸球体腎炎や糖尿性腎症の病態を理解し、説明できる。 6. 核性糸球体腎炎や糖尿性腎症の病態を理解し、説明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 1. 1型糖尿病の病態生理、診断、治療を理解し、その説明ができる。 2. 2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 1. 基本の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 種尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			9 22/11 - 9 - 0
5. 慢性糸球体腎炎や糖尿性腎症の病態を理解し、説明できる。 6. 桜島の降灰、喫煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎および疫学研究の意義について理解し、説明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-I 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患すたは生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 1. 1型糖尿病の病態生理、診断、治療を理解し、その説明ができる。 1. 1型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 1. 1 基本的な研究手法を理解し、その説明ができる。 1. 基本的な研究手法を理解し、その説明ができる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。			
到達目標 6. 桜島の降灰、喫煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎および疫学研究の意義について理解し、説明できる。 7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 生担当教員 西尾 善彦/NISHIO Yoshihiko テーマ 代謝・栄養・内分泌学 学習目標 糖尿病・内分泌学の病態生理、診断、治療を理解し、説明できる。 1. 1型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 7. インスリン 近常な 理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 6. 代謝・栄養・内分泌学 実験 主担当教員 西尾 善彦/NISHIO Yoshihiko アーマ 代謝・栄養・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			
7. インスリン抵抗性の発現機序を理解し、その病的意義と治療・患者指導法をまとめることができる。 8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 2. 世担当教員 西尾 善彦 / NISHIO Yoshihiko		到達目標	6. 桜島の降灰、喫煙などの環境要因と慢性呼吸器疾患の基礎および疫学研究の意義について
ができる。 8. HTLV-1 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。 第 習 直尾 善彦 / NISHIO Yoshihiko テーマ 代謝・栄養・内分泌学 学習目標 糖尿病・内分泌学の病態生理、診断、治療を理解し、説明できる。 1. 1型糖尿病の病態生理、診断、治療法を理解し、その説明ができる。 2. 2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 3. 内分泌疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 1. 基本的な研究手法を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5. 栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 1. 基本的な研究手法を理解し、変験 学習目標 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			
8. HTLV-I 感染者の地域的分布を疫学研究の面から総括でき、ATL 発症機序について説明できる。 9. 消化器疾患または生活習慣病に関する実験を通し、論文を作成することができる。			
できる。			
# 接業形態 演 習 主担当教員 西尾 善彦 / NISHIO Yoshihiko テーマ 代謝・栄養・内分泌学 学習目標 糖尿病・内分泌学の病態生理、診断、治療を理解し、説明できる。 1・1 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2・2 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 2・2 型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 4・代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5・栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5・栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5・栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 1・2 単独教員 西尾 善彦 / NISHIO Yoshihiko テーマ 代謝・栄養・内分泌学 学習目標 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 1・基本的な研究手法を理解し実践できる。 2・糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。 3・得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4・得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 とができる。			
糖尿病・内分泌学演習 授業形態			
主担当教員 西尾 善彦 / NISHIO Yoshihiko   テーマ 代謝・栄養・内分泌学   学習目標   糖尿病・内分泌学の病態生理、診断、治療を理解し、説明できる。   1.1型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。   2.2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。   3.内分泌疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。   4.代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。   5.栄養学の基本を理解し、その説明ができる。   5.栄養学の基本を理解し、その説明ができる。   5.栄養学の基本を理解し、その説明ができる。   5.栄養学の基本を理解し、その説明ができる。   大部性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。   大部性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。   大部性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。   大部性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。   大部性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。   大部性疾患の診断、治療法を理解し、表験の説明ができる。   大部・栄養・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。   1.基本的な研究手法を理解し実践できる。   2.糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。   3.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。   4.得いた結果に関するに関するに関するに関するに関するに関するに関するに関するに関するに関する	#尼結, 内分泌学溶羽	运業形能	
テーマ 代謝・栄養・内分泌学 学習目標 糖尿病・内分泌学の病態生理、診断、治療を理解し、説明できる。  1.1型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる 2.2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 3.内分泌疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4.代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5.栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5.栄養学の基本を理解し、その説明ができる。	1/10 / 1/10   1/10		" ' ' ' '
学習目標 糖尿病・内分泌学の病態生理、診断、治療を理解し、説明できる。  1.1型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる 2.2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 3.内分泌疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4.代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5.栄養学の基本を理解し、その説明ができる。 5.栄養学の基本を理解し、その説明ができる。			
1.1型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる 2.2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。 3.内分泌疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 4.代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。 5.栄養学の基本を理解し、その説明ができる。			
2.2型糖尿病の病態生理、治療法を理解し、その説明ができる。		<b>一</b> 一	
到達目標   3. 内分泌疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。			
4. 代謝性疾患の診断、治療法を理解し、その説明ができる。		到達日煙	
# 技業形態 実験 接業形態 実験 主担当教員 西尾 善彦/ NISHIO Yoshihiko テーマ 代謝・栄養・内分泌学		>4×= H.M	
#展病・内分泌学実験 授業形態 実験  主担当教員 西尾 善彦/NISHIO Yoshihiko  テーマ 代謝・栄養・内分泌学  学習目標 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。  1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			
主担当教員   西尾 善彦/ NISHIO Yoshihiko   テーマ 代謝・栄養・内分泌学   学習目標   糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。	糖尿病・内分泌学実験	授業形態	
テ ー マ 代謝・栄養・内分泌学  学習目標 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。  1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			西尾 善彦/ NISHIO Yoshihiko
学習目標 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。  1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			
1. 基本的な研究手法を理解し実践できる。 2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			
2. 糖尿病・内分泌学に関する臨床・基礎研究の立案ができる。 3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			
3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。 4. 得られた結果について、周辺論文を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。			
4. 待られた結果について、周辺論义を論考することにより考察を深め、研究を発展させることができる。		到法日価	3. 得られた結果に関する、統計学的処理、解析を実践し説明できる。
		判廷日悰	
			5. 研究を論文にまとめることができる。

4-1. 専門科目(健康	************	
授業科目名		講義等の概要
疫学・予防医学演習	授業形態	演習
	主担当教員	郡山 千早/ KORIYAMA Chihaya
	テーマ	疫学と予防医学
		1. 疫学研究のデザイン、調査の方法論を理解し、説明できる。
	学習目標	2. 調査・実験結果の統計学的解析方法を理解し、リスク指標の精度やバイアスの評価ができる。
		1. 疫学研究のデザインについて理解し、説明できる。
		2. 疫学調査に用いる曝露指標や共変数の情報収集について理解し、説明できる。
		3. 疫学研究における疾病の定義について理解し、説明できる。
	到達目標	4. データ解析やリスク指標の推定について理解し、基本的な解析を行うことができる。
		5. リスク推定値の精度やバイアスについて理解し、説明できる。
		6. 不確実性解析について理解し、説明できる。
		7. データ解析から得られた結果を理解し、説明できる。
疫学・予防医学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	郡山 千早/ KORIYAMA Chihaya
	テーマ	疫学研究および予防医学の実践と検証
	学習目標	疫学研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 疫学研究の立案作成し、実践できる。
		2. 疫学研究における問題点について具体的な対策を講じることができる。
	到達目標	3. 自然環境要因、社会環境要因、宿主要因の相互作用について理解し、説明できる。
	>1,2 H M	4. 数理モデルを用いた統計学的解析を実践し、その結果について説明できる。
		5. 疫学研究で得られた結果について考察を深めることができる。
	Les alle met dats	6. 疫学研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
医療システム情報学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	橋口 照人/ HASHIGUCHI Teruto
	テーマ	医学・医療の理解を深める医療情報システムを構築する。
	学習目標	高度に発達、細分化されている医学・医療の情報を統合して理解するために、IT 技術を駆使
	7 1 1 1 1 1	して、研究を遂行する方法論を演習する。
		1. 医療、医学研究、医学教育などにおける問題点の把握ができる。
		2. 提起された問題点について、情報通信技術で解決できるか判断する。
	到達目標	3. 情報化により問題を解決するために、従来の手順の標準化を行う。
		4. 情報化に必要なコンピューターシステムの構成を行う。 5. コンピューターシステムの運用以上の問題点を把握、解決する。
		5. コンとユーターンステムの連用以上の問題点を把握、解決する。   6. システムを広く運用するための説明ができるように指導できる。
医療システム情報学実験	授業形態	9. ノヘノムを広く理用するための説明がしさるよりに指導しさる。 実験
	主担当教員	無力 照人/ HASHIGUCHI Teruto
		情ロ 照人/ HASHIGUCHI Teruto 医療情報提供のためのシステムの構築を行う。
	テーマ	
	学習目標	医療を効率的に行うために、適切な提供手段の開発を行う。
		1. 医療、医学研究、医学教育などにおける問題点の把握を行う。
		2. 提起された問題点について、情報通信技術の応用で解決できるかを判断する為に、最新の 知見を得る。
	到達目標	3. 情報化により問題を解決するために、従来の手順の標準化を行う。
	ALL IN	4. 情報化に必要なコンピューターシステムやネットワーク技術を応用する。
		5. 個人情報保護をはじめ、コンピューターシステムの運用以上の問題点を把握、解決する。
		6. システムを広く運用するための説明、マニュアルの作成を行う。
難治性血液免疫疾患病	授業形態	演習
態制御学演習	主担当教員	石塚 賢治/ ISHITSUKA Kenji
	テーマ	血液疾患と免疫疾患を読み解く
	学習目標	血液疾患と免疫疾患の病態と治療を理解する。
		1. 血液疾患の病態と治療を基礎医学の知識と統合して理解する。
	到達目標	2. 免疫疾患の病態と治療を基礎医学の知識と統合して理解する。
難治性血液免疫疾患病	授業形態	実 験
態制御学実験	主担当教員	石塚 賢治/ISHITSUKA Kenji
	テーマ	血液疾患・免疫疾患研究の基礎
	学習目標	血液疾患と免疫疾患の診断・研究に用いる検査を理解し、実践する。
		基礎医学で学んだ内容を復習し、その原理を理解したうえで、種々の検査法の手技を習得し、
	到達目標	実践・説明ができるようになる。
法医学演習	授業形態	演習
	主担当教員	林 敬人/HAYASHI Takahito
	テーマ	法医病理学・法医遺伝学
1		1. 死因解析・死後経過時間推定に必要な法医病理学的所見を理解し、説明できる。
	24. 되지 1기 분류	
	学習目標	2   法医学的諸検査の手法、結果を埋解し、説明できる。
	子賀日標	2. 法医学的諸検査の手法、結果を理解し、説明できる。 1. 死因解析に有用な法医病理学的所見を理解し、列挙できる。
	字質日標	1. 死因解析に有用な法医病理学的所見を理解し、列挙できる。
	字質日標	
	字質日標	1. 死因解析に有用な法医病理学的所見を理解し、列挙できる。 2. 死後経過時間の推定に必要な法医病理学的所見を理解し、説明できる。
	字質日標 到達目標	1. 死因解析に有用な法医病理学的所見を理解し、列挙できる。 2. 死後経過時間の推定に必要な法医病理学的所見を理解し、説明できる。 3. 種々の実例について死因・死後経過時間を推論できる。
		1. 死因解析に有用な法医病理学的所見を理解し、列挙できる。 2. 死後経過時間の推定に必要な法医病理学的所見を理解し、説明できる。 3. 種々の実例について死因・死後経過時間を推論できる。 4. 免疫組織化学の基礎的知識・手技を理解し、説明できる。 5. 免疫組織化学の法医学的応用例を列挙できる。 6. 種々の実例に有用な免疫組織化学的方法を調べることができる。
		1. 死因解析に有用な法医病理学的所見を理解し、列挙できる。 2. 死後経過時間の推定に必要な法医病理学的所見を理解し、説明できる。 3. 種々の実例について死因・死後経過時間を推論できる。 4. 免疫組織化学の基礎的知識・手技を理解し、説明できる。 5. 免疫組織化学の法医学的応用例を列挙できる。 6. 種々の実例に有用な免疫組織化学的方法を調べることができる。 7. 薬毒物分析方法を列挙できる。
		1. 死因解析に有用な法医病理学的所見を理解し、列挙できる。 2. 死後経過時間の推定に必要な法医病理学的所見を理解し、説明できる。 3. 種々の実例について死因・死後経過時間を推論できる。 4. 免疫組織化学の基礎的知識・手技を理解し、説明できる。 5. 免疫組織化学の法医学的応用例を列挙できる。 6. 種々の実例に有用な免疫組織化学的方法を調べることができる。

接医学実験	4 1. 号()1/4日()庭		oth V. Mr. Streeter
主担当教社 テーマ 法医病理学実験 法医温位学実験 (	授業科目名		講義等の概要
デーマ 大阪商車学業後・技医高中学業務・全国金庫の実践と音文作成を行うことができる。           ・	法医学実験	授業形態	実験
学習日標		主担当教員	林 敬人/HAYASHI Takahito
1. 大田繋軒・ 米段社 海中のみ変に 右田 など 歌音中の神学を 立案し、実践できる。   2. 免疫 相談 使き 利用した研究を 立案し、実践できる。   4. 研究で得られた結果の ことができる。   4. 研究で得られた結果の ことができる。   4. 研究で得られた結果の ことができる。   6. 研究で得られた結果の ことができる。   7 中 型		テーマ	法医病理学実験・法医遺伝学実験
1. 大田繋軒・ 米段社 海中のみ変に 右田 など 歌音中の神学を 立案し、実践できる。   2. 免疫 相談 使き 利用した研究を 立案し、実践できる。   4. 研究で得られた結果の ことができる。   4. 研究で得られた結果の ことができる。   4. 研究で得られた結果の ことができる。   6. 研究で得られた結果の ことができる。   7 中 型		学習目標	法医病理学・法医画像診断学研究の実践と論文作成を行うことができる。
調達日韓   3. 死後剛像を利用した研究を次系し、実践できる。   4. 研究で得られた結果との主をの、高文作成することができる。   5. 研究で得られた結果ともの、高文作成することができる。   5. 研究で得られた結果ともの、高文作成することができる。   2. 世界教育   2. 世界教育   2. 世界教育   2. 世界教育   2. 世界教育   2. 世界教育   2. 日報教育法でいての報理を提出まない。職人を提供し、説明できる。   3. 特別改革との大事機が変化をかせることが表現、説明できる。   5. 前齢を高級試験をの発化をかせることが表現、説明できる。   5. 前齢を高級試験をの発に生かないとの様と、対し、説明できる。   5. 前齢を高の機能が表しついて理解し、説明できる。   5. 前齢を、関連者 心身体患者に対するカウンセリング、ホスピスケアの技法について理解し、説明できる。   5. 前齢を、関連者 心身体患者に対するカウンセリング、ホスピスケアの技法について理解し、説明できる。   5. 前齢を、関連者 心身体患者に対するカウンセリング、ホスピスケアの技法について理解し、説明できる。   6. 神神療子の機能関係について理解し、説明できる。   5. 前齢を   2. 世界教育   2. 世界教育の経能研修について理解し、説明できる。   5. 前齢を   2. 世界教育   2. 世界教育   2. 世界教育の経過機能の基礎を実践できる。   3. カランセリングやネスピスケアの技法を実践できる。   3. カランセリングやネスピスケアの技法を実践できる。   3. カランセリングやネスピスケアの技法を実践できる。   4. カテレルのの生物的政策を対える。   2. 小男科の姿の治を連接を行えるこができる。   6. 研究で得られた結果について考算を認めることができる。   6. 研究で得られた結果とついて考算を認めることができる。   6. 研究で得られた結果ともと、の、高文を作成することができる。   1. 行動医学の概念を理解し、説明できる。   2. 行動医学の概念を理解し、説明できる。   3. 行動医学の概念を理解し、説明できる。   3. 行動医学の服金を理解し、説明できる。   3. 行動医学の服金を理解し、説明できる。   3. 行動医学の服金を理解し、説明できる。   4. 死足の手段をの発験を受けるできる。   4. 死足の手段をの指数とを対して理解し、説明できる。   3. 行動医学の手段をの理解し、説明できる。   4. 死足の手段をの指数と対して理解し、説明できる。   4. 死足の手段をの指数ととい、重要が解し、対して関係の   2. 行動医学の解心を理解し、説明できる。   4. 死足の手段をの指数と対して理解し、説明できる。   4. 死患が受きの解し、対して理解し、説明できる。   4. 死患が受きの解しを対してきる。   4. 死患が受きの解してきる。   4. 死患が受きの解してきる。   4. 死患が受きの解したが関連が、ストレス関連疾のを発化といて理解し、説明できる。   4. 死患が受けるの解し、対して関係を対してきる。   4. 死患がとの関係をおといたの概念を対したができる。   4. 死患がとの関係をおといたの概念を対してがある。   4. 死患がとの関係をおといたの概念を対してがある。   4. 死患がとの関係をおといたの概念を対してがあるの対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対			
・ 研究で持られた結果ともの、治文を作取することができる。   5 何究で持られた結果をまとめ。治文を作取することができる。   5 何究で持られた結果をまとめ。治文を作取することができる。   5 何究で持られた結果をまとめ。治文を使取することができる。   5 何究で持られた結果をまとめ。治文を加味との音響を理解し、認明できる。   5 何常のまたのできぬいのと呼吸し、20月できる。   1 特権の変生と実験が出係を加速と乗りとの出社会的音響を理解し、認明できる。   2 特権を認っていて現場し、説明できる。   3 心理・非特権能験をしていて現場し、説明できる。   3 心理・非特権能験をしていて現場し、説明できる。   5 何常格・除され、心を表生またはするカウンセリング、ネズビスケアの核法について理解し、説明できる。   5 何常格・除き者、心を表生者に対するカウンセリング、ネズビスケアの核法について理解し、説明できる。   6 特権の意味の機能研修について理解し、説明できる。   6 特権の意味の機能研修について理解し、説明できる。   7 一 マ 田本特別を学生実験での実践と論文化成が表し、「大きないと明りを学生を表しまった」で、「大きないと明りを学生を表しまった」で、「大きないと明りを学生を表しまった」で、「大きないと明りを学生を表しまった」で、「大きないと明りを学生を表しまった」で、「大きないと明りを学生を表しまった」で、「大きないと明りを学生を表しまった」で、「大きないと明りを学生を表しまった」で、「大きないと明りを学生を表しまった」で、「大きないと明りを表しまった」で、「大きないと明りを考しまった」で、「大きないと明りを表しまった」で、「大きないと明りを表しまった」で、「大きないと明りを表しまった」で、「大きないと明りを表しまった」、「大きないと明りを表しまった」、「大きないと明りを表しまった」、「大きないと明りを表しまった」、「大きないと明りを表しまった」、「大きないと明りを表しまった」、「大きないと明りを表しまった」、「大きないと明りを表しまった」、「大きないと明りを表しまった」」、「大きないと明を表しまった」、「大きないと明を表しまった」、「大きないと明を表しまった」」、「大きないと明を表しまった」、「大きないと明を表しまった」、「大きないと明を表しまった」、「大きないと明を表しま」、「大きないと明を表しま」、「大きないの情報を表しま」、「大きないの情報を表しま」、「大きないと明し、と思いと明し、と思いと明し、と思いと明し、と思いと明し、と思いと明し、と思いと明し、と思いと明し、と思いと明し、と思いと明し、と思いと明し、「大きない」、「大			2. 免疫組織化学を実践し、その結果について説明できる。
接換能的子演習		到達目標	3. 死後画像を利用した研究を立案し、実践できる。
投業形態			4. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。
主担当教日   テーマ   塩床物神医学と実験研究に係る知識技術の修習   1. 精神確認にいての兩途生産は名の強性   2. 精神感染の臨床途極や研究性をかせるよう診断法、治療法を理解し、説明できる。   2. 特神優を分う指揮を分から構造の監禁を持ていての事態に、過期できる。   2. 特別を多う分類できる。   2. 特別を多う分類できる。   2. 特別を多りが開発を受から研究性のいて理解し、説明できる。   3. 心理・動物をあから放けていて理解し、説明できる。   3. 心理・動物実施の方法について理解し、説明できる。   3. 心理・動物機能を使えていてのできませます。   3. の理・動物である。   3. の理・動物機能を使えていて理解し、説明できる。   5. 高端系・高密者・ムの発生制であるの方法について理解し、説明できる。   6. 精神感染の機能画像について理解し、説明できる。   6. 精神を含い機能画像について理解し、説明できる。   6. 精神を含い機能画像について理解し、説明できる。   7. 中村 第2人 NRA ANURA Massayuki   アーマ   2. 世界の診断・造動の療法的・臨床心理学的・分子精神医学的アプローチの実践と論文作成を行うことができる。   1. 特神医学の機能・動態に必要できる。   2. 心理行動学的治療法を実践できる。   4. 分子レベルの生物学的実験を行える。   3. カランベリングやオンピスケアの技法を実践できる。   4. 分子レベルの生物学的実験を行える。   6. 研究で持られた結果をまとめ、高文を作成することができる。   6. 研究で持られた結果をまとめ、高文を作成することができる。   6. 研究で持られた結果とまとめ、高文を作成することができる。   7. 行動医学の現金を理解し、認明できる。   2. 物態との対象を対象と対して無解し、説明できる。   2. 行動医学の理念を受けると対し、対象との対象を対して無解し、説明できる。   2. 行動医学の研究を対象と明して無解し、説明できる。   3. 行動医学の研究を対象の対象と明して無解し、説明できる。   5. 行動医学の手法の理論を基準 情味情報の制象を引いて無解し、説明できる。   5. 行動医学の手法の理論を基準 情味情なの制象を引いて無解し、説明できる。   5. 行動医学の手法の理論を基準 情味情をの制能を引いて無疑し、説明できる。   5. 行動医学の手法の理論を基準 情報をの制象を引いて無解し、説明できる。   5. 行動医学の手法の理論を基準 情報をあるの対象を対象が対象を対象を対象の対象を対象を対象を対象を表しまりに関係し、対理を対象を対象を対象を対象を表しまりに関係し、文験との関係における問題点を表すできる。   1. 対象との関係を表しいは表がおの対象においる教育の対しる教育・できる。   3. 行動をよの研究の対しまと対しる教育・対しる教育・対しる教育・対しる教育・対しる教育・対しるとができる。   4. 対象との研究を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を			5. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
字 一 マ	精神機能病学演習	授業形態	演習
中国日報		主担当教員	中村 雅之/ NAKAMURA Masayuki
中国日報		テーマ	臨床精神医学と実験研究に係る知識技術の修得
2 結構物法の施尿診療や研究に生かせるよう治療法、治療法を理解し、説明ができる。 1			
1. 精神極度を分子精神医学の企業実験が必要性について理解し、説明できる。 2. 分子特徴医学の企業実験が必要性について理解し、説明できる。 3. 心理・精神機能検験について理解し、説明できる。 4. 精神機能検験について理解し、説明できる。 4. 精神機能検験について理解し、説明できる。 5. 高齢者、障害者、心身症患者に対するカウンセリング、ホスピスケアの技法について理解 2. 週間できる。 6. 精神障害の機能両僕について理解し、説明できる。 6. 精神障害の機能両僕について理解し、説明できる。 7. 一て 医床精神医学と実験研究の実践と語文作を変し、説明できる。 2. 指神臓子と実験研究の実践と語文作を変し、 一定 とができる。 1. 精神障害の診断・治療の基礎を実践できる。 3. カウンセリング・ホスピスケアの技法との異な行か。 4. 分子レベルの理解しを実践できる。 3. カウンセリング・ホスピスケアの技法と実践できる。 3. カウンセリング・ホスピスケアの技法と実践できる。 4. 分子レベルの生物で的治療込を実践できる。 3. カウンセリング・ホスピスケアの技法を実践できる。 4. 分子レベルの生物で的治療とを実践できる。 6. 前常で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。 6. 前常で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。 6. 前常で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。 7. 前衛学の研究を理解し、説明できる。 9. 心身をや生活習情報、ストレス関連を理解し、説明できる。 1. 行動医学の概念を理解し、説明できる。 2. 行動医学の理論を建健・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 3. 心身をや生活習情報、ストレス関連をの診療における行動医学の役割を理解し、説明できる。 5. 行動医学の前が大きの事を表し、簡素研究の結果を用い、理解し、説明できる。 6. 行動医学の前が大きの事を表し、情報にかけて対象に、対明を表し、表しの主ない、理解を、表し、対明できる。 6. 行動医学の前が大きの事を表し、情報にかいて、理解、表し、知明できる。 6. 行動医学の前が大きを理解、ストレス関連を要との情報を表し、説明できる。 7. 前衛学の手法や見事を表し、無限の解明、治療法の関係のため情報、表した情報を理解し、実験と行い、論文性験を行うことができる。 6. 行動医学の前を洗り音を発育と思い、実験と行い、論文性験を行うことができる。 6. 前衛を持ていて、文献との病医神明、治療法の間違え、利用できる。 6. 前衛性の神療法と理解し、実験と行い、論文性療を育らことができる。 6. 前衛を持ていた、文献との前屋を発育し、実験を行い、論文性療となる。 6. 前衛を持ていた。文献とを指することができる。 7. 可能を教育に医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 7. 可能を教育に医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 原命を教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 原命を教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 原命を教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 原命を教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 原命を教育、医療者教育研究の最近に関症のよりに関するといている。 2. 原命を教育、医療者教育研究の最近に関するといできる。 2. 原の者教育・医療		学習目標	
2 分子解神医学に必要な実験社の基礎について理解し、説明できる。 3 心理、精神機能的数を認め方法について理解し、説明できる。 5 高格洛、 陪客名 へ身在患者に対するカウナセリング、ホスピスケアの技法について理解 1 規則できる。 6 . 精神度等の機能画像について理解し、説明できる。 6 . 精神度等の機能画像について理解し、説明できる。 6 . 精神度等の機能画像について理解し、説明できる。 6 . 精神度等の機能画像について理解し、説明できる。 7 空間日標			
到達目標			
5. 高齢者、応身症患者に対するカウンセリング、ホスピスケアの技法について理解し、説明できる。			3. 心理・精神機能検査について理解し、説明できる。
日本の表示を持っている。		到達目標	4. 精神薬理的動物実験の方法について理解し、説明できる。
技業形態   技業形態   大田   大田   大田   大田   大田   大田   大田   大			5. 高齢者、障害者、心身症患者に対するカウンセリング、ホスピスケアの技法について理解
接触機能病学実験			
主担当教員			6. 精神障害の機能画像について理解し、説明できる。
テーマ 臨床精神医学と実験研究の実践と論文作成 精神障害の心理行動学的治療法的・臨床心理学的・分子精神医学的アプローチの実践と論文作 成を行うことができる。  1. 精神障害の診解・治療の基礎を実践できる。 2. 心理行動学的治療法を実践できる。 3. カウンセリングやホスピスケアの技法を実践できる。 4. 分子レベルの生物学的実験を行える。 5. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。 6. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。 6. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。 6. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。 7 対動医学、環境心身相関 ウーマ 行動医学、環境心身相関 「注阻当教員」 1. 行動医学の概念で理解し、説明できる。 2. 行動医学の概念で理解し、説明できる。 3. 心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療における行動医学の役割を理解し、説明できる。 5. 行動医学の概念を理解し、臓明できる。 6. 行動医学の概念を理解し、満まいで理解し、説明できる。 6. 行動医学の神子法の理論を基礎・臨床研究の結果と用いて理解し、説明できる。 5. 行動医学の研念を理解し、本には用できる。 6. 行動医学の研究を理解した。 実験  連担書教員 実施等主法の事務を確認を出て理解、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。 6. 行動医学・活きなら身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。 6. 行動医学・環境心身相関 ウーマ 行動医学、環境心身相関 ウトレス関連疾患を対象とし、補態の解明、治療法の開発の心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患を対象とし、補態の解明、治療法の開発に応用できる。 1. 行動医学・環境心身相関 ウータ 行動医学・環境心身相関 ・よりを表して、実験を用いることができる。 2. 病態解明、治療法の関連で考察できる。 4. 研究結果でこいて、文献との関連で考察できる。 2. 病態解明、治療法の関係とおける関点の解除所、治療におけるとかできる。 4. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。 5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。 1. 医歯学教育・医療者教育・医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 病態解明・治療法の関係の最初の動向を理解し、説明できる。 2. 医療学教育・医療者教育研究の最初の動向を理解し、説明できる。 2. 医療学教育・医療者教育研究の最初の動向を理解し、説明できる。 2. 医療学教育・医療者教育研究の最初の動向を理解し、説明できる。 2. 医療学教育・医療者教育研究の最初の動向を理解し、説明できる。 2. 医療学教育・医療者教育研究の最初の動向を理解し、説明できる。 2. 信を教育・医療者教育研究の最初の動向を理解し、説明できる。 2. 信を教育・医療者教育研究の最初の動向を理解し、説明できる。 2. 行動を教育・医療者教育研究の最初の動向を理解し、説明できる。 2. 信を教育・医療者教育・医療者教育のよりを理解し、説明できる。 4. 研究結果における解析のないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	精神機能病学実験	授業形態	実験
学習目標 精神障害の心理行動学的冷療法的・臨床心理学的・分子精神医学的アプローチの実践と論文作成を行うことができる。		主担当教員	中村 雅之/ NAKAMURA Masayuki
学習目標 精神障害の心理行動学的冷療法的・臨床心理学的・分子精神医学的アプローチの実践と論文作成を行うことができる。		テーマ	臨床精神医学と実験研究の実践と論文作成
大学   大学   大学   大学   大学   大学   大学   大学		W 75 p lnt	
1. 精神障害の診断・治療の基礎を実践できる。   2. 心理行動学的治療法を実践できる。  2. 心理行動学的治療法を実践できる。  3. カウンセリングやホスピスケアの技法を実践できる。  4. 分子レベルの生物学的実験を行える。  6. 研究で得られた結果であってきる。とができる。  6. 研究で得られた結果をすとめ、論文を作成することができる。  6. 研究で得られた結果をすとめ、論文を作成することができる。  7. 研究で得られた結果をすとめ、論文を作成することができる。  7. 行動医学、環境心身相関   浅川 明弘 / ASAKAWA Akihiro		字習目標	
到達目標			
到達目標 3. カウンセリングやホスピスケアの技法を実践できる。 4. 分子レベルの生物学的実験を行える。 5. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。 6. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。 6. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。 7 対数医学、環境心身相関 後川 明弘 / ASAKAWA Akihiro テーマ 行動医学、環境心身相関 1. 行動医学の概念や理論を理解し、説明できる。 2. 臨床における行動医学の役割を理解し、説明できる。 2. 行動医学の概念を理解し、説明できる。 2. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 2. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 4. 疾患子性、健康増進、抗加齢における行動医学の役割を理解し、説明できる。 5. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 6. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 5. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 6. 行動医学の理論を基礎・高原研究の結果を用いて理解し、説明できる。 5. 行動医学の時子法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。			
4. ガナレスルの生物で目気を深めることができる。		701745 171486	
		到達日標	4. 分子レベルの生物学的実験を行える。
技業形態   演 習   注担当教員   注川 明弘 / ASAKAWA Akihiro   テーマ   行動医学、環境心身相関   注川 明弘 / ASAKAWA Akihiro   テーマ   行動医学の概念や理論を理解し、説明できる。   2. 臨床における行動医学の役割を理解し、説明できる。   1. 行動医学の再論を理解し、説明できる。   2. 行動医学の再論を理解し、説明できる。   2. 行動医学の再論を建解し、説明できる。   2. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。   3. 心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療における行動医学の役割を理解し、説明できる。   5. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。   6. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果の一部の工理解し、説明できる。   6. 行動医学の手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。   6. 行動医学の手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。   2. 行動医学、環境心身相関   次別 / ASAKAWA Akihiro   学習目標   次即 / 在 / 表述の開発における問題点を理解し、実験を行い、論文作成を行うことができる。   1. 行動医学、環境心身相関学から疾患の病態解明、治療法の開発における問題点を理解し、実験を行い、論文作成を行うことができる。   2. 病態解明、治療法の開発における問題点の解決方法を考案し、説明できる。   4. 研究結果について、文献との関連で表明できる。   4. 研究結果について、文献との関連で表できる。   4. 研究結果について、文献との関連で表できる。   5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。   接来   接   接   英学   上 医   世界   接   表述の関連で表明であるとができる。   2. 医   医   直   を   表述の動向を理解し、説明できる。   2. 医   と   表述を   表述の動向を理解し、説明できる。   2. 医   と   表述を   表述と   表述と   表述に   表述に   表述に   表述と   表述と   表述に   表述に			5. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。
注担当教員   浅川 明弘 / ASAKAWA Akihiro   子 - マ   行動医学、環境心身相関			6. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
### 1	行動医学演習	授業形態	演習
学習目標		主担当教員	浅川 明弘/ASAKAWA Akihiro
学習目標 2. 臨床における行動医学の役割を理解し、説明できる。		テーマ	行動医学、環境心身相関
3. 行動医学の興念を理解し、臨床に応用できる。 1. 行動医学の概念を理解し、説明できる。 2. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 3. 心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療における行動医学の役割を理解し、説明できる。 5. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 6. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 6. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 6. 行動医学的手法をの理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 6. 行動医学的手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。 2. 東駿・  世型当教員 実験			1. 行動医学の概念や理論を理解し、説明できる。
1. 行動医学の概念を理解し、説明できる。   2. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。   3. 心身症や生活質慣病、ストレス関連疾患の診療における行動医学の役割を理解し、説明できる。   4. 疾患予防、健康増進、抗加齢における行動医学の役割を理解し、説明できる。   5. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。   6. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。   6. 行動医学的手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。   2. 放加齢に応用できる。		学習目標	
2. 行動医学の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 3. 心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診底における行動医学の役割を理解し、説明できる。 4. 疾患予防、健康増進、抗加齢における行動医学の役割を理解し、説明できる。 5. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 6. 行動医学的手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。 2. 行動医学、環境心身相関			3. 行動医学的手法の理論を理解し、臨床に応用できる。
3. 心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療における行動医学の役割を理解し、説明できる。 4. 疾患予防、健康増進、抗加齢における行動医学の役割を理解し、説明できる。 5. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 6. 行動医学的手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。			1. 行動医学の概念を理解し、説明できる。
到達目標   4. 疾患予防、健康増進、抗加齢における行動医学の役割を理解し、説明できる。   5. 行動医学的手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。   6. 行動医学的手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。   2. 疾験   注担当教員   注担当教員   注租当教員   注租当教員   注租工			
5. 行動医学的手法の理論を基礎・臨床研究の結果を用いて理解し、説明できる。 6. 行動医学的手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。			
行動医学 的手法を心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患の診療、疾患予防、健康増進、抗加齢に応用できる。   接業形態   主担当教員   浅川 明弘 / ASAKAWA Akihiro   子間   で動医学、環境心身相関   で身症や生活習慣病、ストレス関連疾患を対象とし、病態の解明、治療法の開発のために、行動医学的研究法を理解・習得し、実験を行い、論文作成を行うことができる。   1. 行動医学、環境心身相関学から疾患の病態解明、治療法の開発における問題点を理解し、文献との関連で説明できる。   2. 行動医学的研究法を理解し、実験に用いることができる。   2. 行動医学的研究法を理解し、実験に用いることができる。   3. 行動医学的研究法を理解し、実験に用いることができる。   4. 研究結果について、文献との関連で考察できる。   5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。   5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。   5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。   2. 医歯学教育・医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。   2. 医歯学教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。   2. 医歯学教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。   2. 医歯学教育、医療者教育研究のよ新の動向を理解し、説明できる。   2. 医歯学教育、医療者教育研究のよ新の動向を理解し、説明できる。   2. 医歯学教育、医療者教育研究のよ新の動向を理解し、説明できる。   2. 医歯学教育、医療者教育研究のような教育プロジェクトの理論背景を説明し、解析・評価方法を説明することができる。   3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し		到達目標	
行動医学実験・実習 授業形態 実験 注担当教員			
<ul> <li>行動医学実験・実習</li> <li>授業形態 主担当教員 テーマ 行動医学、環境心身相関 で身雷や生活習慣病、ストレス関連疾患を対象とし、病態の解明、治療法の開発のために、行動医学的研究法を理解・習得し、実験を行い、論文作成を行うことができる。         <ol> <li>1. 行動医学、環境心身相関学から疾患の病態解明、治療法の開発における問題点を理解し、支献との関連で説明できる。                 <ol> <li>2. 病態解明、治療法の開発における問題点の解決方法を考案し、説明できる。</li> <li>3. 行動医学的研究法を理解し、実験に用いることができる。</li> <li>4. 研究結果について、文献との関連で考察できる。</li> <li>5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。</li> <li>5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。</li> <li>( )</li></ol></li></ol></li></ul>			
主担当教員   浅川 明弘 / ASAKAWA Akihiro   テーマ 行動医学、環境心身相関   心身症や生活習慣病、ストレス関連疾患を対象とし、病態の解明、治療法の開発のために、行動医学的研究法を理解・習得し、実験を行い、論文作成を行うことができる。	左利尼当内FA 内顶	+☆ -Ψ- π/ ☆ヒ	
テーマ 行動医学、環境心身相関	付		
学習目標			1-471 74417
大めに、行動医学的研究法を理解・習得し、実験を行い、論文作成を行うことができる。   1. 行動医学、環境心身相関学から疾患の病態解明、治療法の開発における問題点を理解し、 文献との関連で説明できる。   2. 病態解明、治療法の開発における問題点の解決方法を考案し、説明できる。   3. 行動医学的研究法を理解し、実験に用いることができる。   4. 研究結果について、文献との関連で考察できる。   5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。   接業形態 演 習		テーマ	
ために、行動医学的研究法を理解・管停し、実験を行い、論义作成を行うことができる。		学習日標	
文献との関連で説明できる。     2. 病態解明、治療法の開発における問題点の解決方法を考案し、説明できる。     3. 行動医学的研究法を理解し、実験に用いることができる。     4. 研究結果について、文献との関連で考察できる。     5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。     左撃形態     主担当教員     方 ー マ 医歯学教育・医療者教育学		4 H H W	
2. 病態解明、治療法の開発における問題点の解決方法を考案し、説明できる。 3. 行動医学的研究法を理解し、実験に用いることができる。 4. 研究結果について、文献との関連で考察できる。 5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。			
3. 行動医学的研究法を理解し、実験に用いることができる。 4. 研究結果について、文献との関連で考察できる。 5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。			
4. 研究結果について、文献との関連で考察できる。 5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。 医療者教育学演習 授業形態 演 習 主担当教員 横尾 英孝/YOKOO Hidetaka テーマ 医歯学教育・医療者教育学  1. 医歯学教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 医歯学教育、医療者教育における教育プロジェクトの理論背景を説明し、解析・評価方法を説明することができる。  1. 医歯学教育、医療者教育研究で必要な文献を検索し、批判的に読み、利用することができる。 2. 自らの教育業務における問題点を、教育理論、エビデンスに基づいて解析し、改善のための方策を説明することができる。 3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し		到達目標	
5. 研究結果をまとめ、論文を作成することができる。   接業形態 演 習   主担当教員   横尾 英孝/ YOKOO Hidetaka   テーマ   医歯学教育・医療者教育学   1. 医歯学教育・医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。   2. 医歯学教育、医療者教育における教育プロジェクトの理論背景を説明し、解析・評価方法を説明することができる。   1. 医歯学教育、医療者教育研究で必要な文献を検索し、批判的に読み、利用することができる。   2. 自らの教育業務における問題点を、教育理論、エビデンスに基づいて解析し、改善のための方策を説明することができる。   3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し			
医療者教育学演習 授業形態 演 習 主担当教員 横尾 英孝/ YOKOO Hidetaka テーマ 医歯学教育・医療者教育学 1. 医歯学教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 医歯学教育、医療者教育における教育プロジェクトの理論背景を説明し、解析・評価方法を説明することができる。 1. 医歯学教育、医療者教育研究で必要な文献を検索し、批判的に読み、利用することができる。 2. 自らの教育業務における問題点を、教育理論、エビデンスに基づいて解析し、改善のための方策を説明することができる。 3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し			
主担当教員     横尾 英孝/YOKOO Hidetaka       テーマ     医歯学教育・医療者教育学       1. 医歯学教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。       2. 医歯学教育、医療者教育における教育プロジェクトの理論背景を説明し、解析・評価方法を説明することができる。       1. 医歯学教育、医療者教育研究で必要な文献を検索し、批判的に読み、利用することができる。       2. 自らの教育業務における問題点を、教育理論、エビデンスに基づいて解析し、改善のための方策を説明することができる。       3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し	医皮基基去类淀羽	松光式能	
テーマ 医歯学教育・医療者教育学  1. 医歯学教育・医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 医歯学教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 医歯学教育、医療者教育における教育プロジェクトの理論背景を説明し、解析・評価方法を説明することができる。  1. 医歯学教育、医療者教育研究で必要な文献を検索し、批判的に読み、利用することができる。 2. 自らの教育業務における問題点を、教育理論、エビデンスに基づいて解析し、改善のための方策を説明することができる。 3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し	达原有教育子演習		
1. 医歯学教育、医療者教育研究の最新の動向を理解し、説明できる。 2. 医歯学教育、医療者教育における教育プロジェクトの理論背景を説明し、解析・評価方法を説明することができる。 1. 医歯学教育、医療者教育研究で必要な文献を検索し、批判的に読み、利用することができる。 2. 自らの教育業務における問題点を、教育理論、エビデンスに基づいて解析し、改善のための方策を説明することができる。 3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し			
学習目標   2. 医歯学教育、医療者教育における教育プロジェクトの理論背景を説明し、解析・評価方法を説明することができる。		アーマ	
を説明することができる。  1. 医歯学教育、医療者教育研究で必要な文献を検索し、批判的に読み、利用することができる。 2. 自らの教育業務における問題点を、教育理論、エビデンスに基づいて解析し、改善のための方策を説明することができる。 3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し		W zer - twe	
1. 医歯学教育、医療者教育研究で必要な文献を検索し、批判的に読み、利用することができる。 2. 自らの教育業務における問題点を、教育理論、エビデンスに基づいて解析し、改善のための方策を説明することができる。 3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し		学習目標	
2. 自らの教育業務における問題点を、教育理論、エビデンスに基づいて解析し、改善のため の方策を説明することができる。 3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し			
到達目標 の方策を説明することができる。 3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し			
3. 自らの教育業務における新たなプロジェクトを計画し、必要な資源を収集あるいは作成し		Zot sale to true	
		到達目標	7.11 - 11-11
(、教具成本を哲子的に詳価する方法を説明できる。			
			し、

4 一 1. 专门行日()建原	(X-17-17-X)	
授業科目名		講義等の概要
医療者教育学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	横尾 英孝/ YOKOH Hidetaka
	テーマ	医学教育および医療者教育学研究
	学習目標	医歯学教育、医療者教育における研究の実践と論文作成を行うことができる。
	7 11 11 11	1. 教育研究を立案し、適切な解析手法を選択してデータの収集ができる。
		2. 研究の遂行において倫理的対応と教育の管理運営に配慮できる。
	到達目標	3. 学習者、教育機関、制度をふまえ、データの解析、解釈を行うことができる。
	27,217	4. 医療者教育の最新の動向をふまえた考察を行うことができる。
		15. 研究でえられた結果をまとめ、論文を作成することができる。
歯科医療行動科学演習	授業形態	演習
图	主担当教員	田口 則宏/ TAGUCHI Norihiro
	テーマ	医療におけるコミュニケーション行動に関する研究
	学習目標	医療におけるコミュニケーション行動を分析し、望ましい患者・医療者関係の構築法を説明で
	V 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	きる。
		1. 医療におけるコミュニケーションの特徴を説明できる。
	到達目標	2. 医療におけるコミュニケーション行動の科学的な分析方法を説明できる。
	21,211,11	3. 医療におけるコミュニケーション行動を科学的に分析できる。
		4. 分析より得られたデータから問題点を抽出し、改善策を立案することができる。
歯科医療行動科学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	田口 則宏/ TAGUCHI Norihiro
	テーマ	医療におけるコミュニケーション行動に関する研究
	24 2121 FIRE	望ましい患者・医療者関係を構築するために、医療におけるコミュニケーション行動に関する
	学習目標	研究を実施できる。
		1. 研究の必要性を理解し、リサーチクエスチョンを明確にすることができる。
		2. 研究計画を立案することができる。
	到達目標	3. 医療におけるコミュニケーション行動を科学的に分析できる。
		4. 分析より得られたデータにもとづき、他の研究者と討論することができる。
		5. 研究の重要性を認識し、学術論文として発表することができる。
微生物学演習	授業形態	演習
	主担当教員	西順一郎/NISHI Junichiro
	テーマ	細菌の病原因子と薬剤耐性
	学習目標	
	子百日保	感染症の成立に関わる微生物の病原性や薬剤耐性について理解する。
		1. 細菌感染症の成立に関わる病原因子について文献に基づき説明できる。
		2. 細菌の培養法や薬剤感受性検査について説明できる。
	到達目標	3. 細菌・真菌感染症の遺伝子診断法について説明できる。 4. 細菌の遺伝子型別法について説明できる。
		4. 和園の遺伝子堂が伝について説明できる。   5. 細菌のゲノム解析や系統解析について説明できる。
		6. 細菌の耐性遺伝子検出法を説明できる。
微生物学実験	授業形態	10. 桐園の町圧退囚「快田仏を成功 Cさる。   実 験
似生物子夫狀		20 00
	主担当教員	西順一郎/NISHI Junichiro
	テーマ	細菌の病原遺伝子・薬剤耐性遺伝子
	学習目標	感染症制御のために微生物学的観点から細菌の基礎的研究を実践し論文作成を行うことができる。
		1. 細菌の病原遺伝子に関する研究を立案し実践できる。
		2. 細菌の薬剤耐性遺伝子に関する研究を立案し実践できる。
	到達目標	3. 細菌学的培養法などの基本的手法を修得し、実験で生じた問題点を解決できる。
		4. 細菌の遺伝子型に基づいた系統解析を実践できる。
		5. 上記の研究結果をまとめ、論文を作成することができる。
免疫学演習	授業形態	演習
	主担当教員	原 博満/HARA Hiromitsu
	テーマ	免疫学研究に必要な解析方法を理解し、習得する。
	200 日 100	1. 免疫反応を分子レベルで理解できる。
	学習目標	2. 免疫系に関与する分子の測定ができる。
		1. 免疫に関与する受容体、サイトカイン、シグナル分子の役割を説明できる。
		2. KOマウスの作製、飼育管理、実験方法を習得する。
		3. サイトカインの測定方法を習得する。
		4. フローサイトメーター解析の方法を習得する。
	到達目標	5. 細胞培養の技術を習得する。
		6. ウェスタンブロッティングの方法を習得する。
		7. 定量的 RT-PCR 解析の方法を習得する。
		8. 免疫組織染色や免疫細胞染色の方法を習得する。
		9. 細胞への遺伝子導入やゲノム編集の技術を習得する。
免疫学実験	授業形態	実験
	主担当教員	原 博満/HARA Hiromitsu
	テーマ	免疫学の研究論文を発表する。
	学習目標	免疫学の実験研究を行い、データを元に学術雑誌に英語の論文を発表する。
	4 口口体	1. 免疫系による疾患制御機構の解明に関する研究を立案できる。
		2. 自身の研究の関連研究を文献で把握できる。
	】 到達目標	3. 研究を行う際の実験手技を習熟する。
	刈足口际	4. 実験結果を学会等で発表する。
		5. 実験データを元に英語論文を作成する。
	L	O・ AgA/ / C UIC A叫聞人CIFM Y OO

1 d (W) d 1 1		
授業科目名		講義等の概要
抗ウイルス療法学演習	授業形態	演習
	主担当教員	前田 賢次/ MAEDA Kenji
	テーマ	抗ウイルス化学療法学演習
		1. 抗ウイルス化学療法の基本原理について理解し説明できる。
	学習目標	2. 抗ウイルスワクチンの基本原理について理解し説明できる。
		1. 抗ウイルス化学療法の歴史と現況について理解し説明できる。
		2. 抗ウイルス化学療法の適用疾患について理解し説明できる。
		3. 各種の抗ウイルス薬の作用機序と特徴について説明できる。
	到達目標	4. 各種の抗ウイルス薬の副作用や薬剤耐性について説明できる。
		5. ウイルス感染に対する免疫応答について理解し説明できる。
		6. 各種の抗ウイルスワクチンの特徴や副作用について説明できる。
抗ウイルス療法学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	前田 賢次/ MAEDA Kenji
	テーマ	抗ウイルス化学療法学実験
	学習目標	抗ウイルス化学療法に関する実験と論文作成を行うことができる。
	于日口际	1. 各種ウイルスの感染実験を安全かつ正確に行うことができる。
		1. 合種ワイル人の恩衆夫駅を安全がつ正確に行りことができる。   2. 各種薬剤の抗ウイルス活性試験を行うことができる。
	到達目標	2. 合俚采用の抗ワイル人位任武駅を行うことができる。   3. ウイルス感染細胞を用いて分子生物学実験を行うことができる。
	判廷日保	3. ワイルへ応来和記を用いてカナ生初子美級を行うことができる。   4. 宿主因子のウイルス感染症に与える影響について調べることができる。
		15. ウイルス感染に対する免疫応答の解析を行うことができる。
ウイルス情報テクノロ	授業形態	3. クイルへ心未に対する元友心合の肝川で11 / ここが こさる。 演 習
ジュルス 情報 テクノロ   ジー演習	主担当教員	
✓ (界日		池田 正徳/IKEDA Masanori
	テーマ	ウイルス情報テクノロジー演習
	学習目標	1. レプリコンについて理解し説明できる。
	7 L L W.	2. リバースジェネティクスについて理解し説明できる。
		1. C型肝炎ウイルスの歴史と現況について理解し説明できる。
	到達目標	2. レプリコンと合成生物学の歴史と現況について理解し説明できる。
		3. レプリコンを用いた薬剤の評価について理解し説明できる。
ウイルス情報テクノロ	授業形態	実 験
ジー実験	主担当教員	池田 正徳/IKEDA Masanori
	テ ー マ	ウイルス情報テクノロジー
	学習目標	レプリコンを使用した実験と論文作成を行うことができる。
		1. レプリコンを使用した実験を行うことができる。
		2. 化合物を添加して抗ウイルス活性と細胞毒性の評価を行うことができる。
	到達目標	3. リバースジェネティックスによる遺伝子変異の導入を実施できる。
		4. レプリコンを用いて分子生物学的・生化学的実験を行うことができる。
		5. 上記の研究結果をまとめ、論文を作成することができる。
神経免疫学演習	授業形態	演習
	主担当教員	久保田 龍二/ KUBOTA Ryuji
	テーマ	神経免疫学、神経ウイルス学、神経病理学
	学習目標	神経免疫疾患およびウイルス性神経疾患の発症病態について分子機構、免疫機序を理解し説明できる。
	7日口派	1. ウイルス性神経疾患の病態を理解し説明できる。
		2. HAM の発症病態を理解し説明できる。
	到達目標	3. 神経免疫疾患の免疫病態を理解し説明できる。
		4. 神経免疫疾患の分子病態を理解し説明できる。
神経免疫学実験	授業形態	事 験
1〒/1年/山/久丁大樹木	主担当教員	久保田 龍二/ KUBOTA Ryuji
	テーマ	神経免疫学、神経ウイルス学、神経病理学実験
	学習目標	神経免疫疾患の発症病態解明および治療開発について実験と論文作成を行うことができる。
		1. 免疫学的実験法を理解しそれを応用することができる。
		2. 病理組織学的実験法を理解しそれを応用することができる。
	到達目標	3. ウイルス感染細胞を用いた実験を安全かつ正確に行うことができる。
		4. 実験における問題点を発見し、解決することができる。   5. 得られた実験データを解析し、まとめることができる。
		5. 侍られた美験アータを解析し、まとめることができる。   6. 得られた研究成果を英文論文にまとめることができる。
トランスレーショナル	[2] (1)	10. 侍られた柳先成未を央又禰又にまとめることができる。   演 習
トフンスレーンョナル   メディシン演習	授業形態	
クノイママ供自	主担当教員	近藤 智子/ KONDO Tomoko
	テーマ	アカデミア創薬を実現する
	W 757 1	大学の基礎研究や臨床で生まれた研究成果を社会に還元するためにはいくつかのハードルがあ
	学習目標	る。これらのハードルを超えて創薬シーズを実用化させるための手法(橋渡し研究)を体系的
		に学び、研究成果を社会実装するための能力を養う。
		1. 創薬を科学的に理解できる。
		2. 医薬品開発のプロセスを理解し、説明できる。
	到達目標	3. 橋渡し研究の基礎知識について理解し、説明できる。
	W	4. 研究成果を社会実装する過程を説明できる。
		5. 医薬品開発における知的財産の意義を理解できる
		6. 治験から承認までの流れを説明できる

4 1. 专门行口(庭原	(113 (3-24)	
授業科目名		講義等の概要
トランスレーショナル	授業形態	実 験
1		2.4 %:
メディシン実験	主担当教員	近藤 智子/ KONDO Tomoko
	テーマ	創薬におけるサイエンスの重要性を学ぶ
İ		社会実装を意識して自らの研究を進め、発表するとともに、研究成果を社会に還元するための
	学習目標	
		計画・立案ができる。
		1. 創薬・育薬研究を理解し、実験プロトコルを作成し、実践できる。
	and the last last	2. Target Product Profile (TPP) を設定して研究を進めることができる。
	到達目標	3. 他の研究者のプロジェクトを俯瞰し、適切に進めるための手法を説明できる。
		4. 研究成果についてプレゼンテーションし、英文での論文作成ができる。
HTLV-1 / ATL 病態制	授業形態	演習
御学演習	主担当教員	中畑 新吾/NAKAHATA Shingo
	テーマ	ATL 分子病態研究
	学習目標	成人 T 細胞白血病リンパ腫 (ATL) の病態を学ぶ。
		1. ATL の問題点とその解決策を考案できる。
		2. 分子生物学の基礎知識を習得する。
	到達目標	3. 論文読解力を身につける。
		4. プレゼンテーションスキルを習得する。
HTLV-1 / ATL 病態制	授業形態	実 験
御学実験	主担当教員	中畑 新吾/NAKAHATA Shingo
	テーマ	ATL 分子病態研究
	学習目標	ATL の基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 本研究分野を用いて、基本的実験手法(分子生物学・生化学実験など)を習得する。
	到達目標	2. 本研究分野を用いて、統計処理の仕方を習得する。
		3. 本研究分野を用いて、研究計画・デザインの立案力を習得する。
		4. 本研究分野を用いて、科学論文の書き方を習得する。
分子病態生化学演習	授業形態	演習
7	主担当教員	岸田 昭世/ KISHIDA Shosei
	テーマ	代謝異常疾患の病態発症機構の把握、病因解析法の理解、診断・治療法の考案
	W == 1=	1. 代謝異常疾患に関する研究の方法論を理解し、説明できる。
	学習目標	2. シグナル伝達の異常による病態発症機構を分子レベルで理解し、説明できる。
		1. 病因解析法の原理を理解し、説明できる。
		2. 病因・病態解析法の情報を収集し、有効な手法を選択・利用できる。
	到達目標	3. ヒトの代謝や遺伝子発現の制御機構を理解し、他の生物と比較しながら説明できる。
		4. 代謝変動と病態発症機構を理解し、説明できる。
		5. 疾患の発症機序に基づいて、診断および治療法を考案できる。
C 그 는 M I. II. W 라 EA	145 개시 개시 245	
分子病態生化学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	岸田 昭世/KISHIDA Shosei
		シグナル伝達や代謝の異常による疾患の病因解明、病態発症機構の解析、診断・治療・予防法
	テ ー マ	の開発
	W == 1=	1.47
	学習目標	シグナル伝達や代謝に関する研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 生体内のシグナル伝達機構について説明できる。
		2. シグナル伝達の異常、破綻による疾患の病態生理を説明できる。
		3. シグナル伝達系を制御する新規分子の検索とその生理的な機能の解析ができる。
		4. 原因不明疾患の病因解明に関する研究を立案し、実践できる。
	到達目標	5. 代謝異常疾患の病態発症に関わる遺伝要因解明の研究を立案し、実践できる。
		6. 病態発症に関わる遺伝・環境要因の相互作用についての研究を立案し、実践できる。
		7. 従来の治療法について、その適正・妥当性を評価し、新規治療法を開発できる。
		8. 実験で得られた結果を評価し、考察を深め研究成果をまとめ、学会発表し、論文を作成す
at at at the same of	٠٠٠	ることができる。
生殖病態生理学演習	授業形態	演習
	主担当教員	小林 裕明/KOBAYASHI Hiroaki
		111 1111 1111 1111 1111
	テーマ	婦人科各種疾患の病態演習
	学習目標	婦人科各種疾患を内分泌学的や分子生物学的側面から理解する。
		1. 出生前遺伝子診断、着床前遺伝子診断について理解し、説明できる。
		2. 出生前遺伝子診断、胎児遺伝子診断について理解し、説明できる。
		3. 思春期発来のメカニズムとその異常学について理解し、説明できる。
		4. 子宮内膜症の発生と遺伝子多型について理解し、説明できる。
		5. 多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) と遺伝子異常について理解し、説明できる。
		6. 不妊症・排卵障害の診断と治療について理解し、説明できる。
	到達日媽	7. 体外受精・胚移植 (IVF – ET)、assisted reproductive technology について理解し、説明できる。
	到達目標	1
		8. 骨塩量と遺伝子多型について理解し、説明できる。
		9. 骨塩量治療薬に対する骨の反応と遺伝子多型について理解し、説明できる。
		10. 体脂肪分布異常とエストロゲン遺伝子多型について理解し、説明できる。
		11. 子宮頸癌の発生と遺伝子異常について理解し、説明できる。
		12. 子宮体癌の発生と遺伝子・内分泌異常について理解し、説明できる。
		13. 卵巣癌と遺伝子異常について理解し、説明できる。
		10. 夘米畑に退山丁共市にフいて壁所し、説明てきる。

4-1. 専門科目(健康	171子号以)	
授業科目名		講義等の概要
生殖病態生理学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	小林 裕明/ KOBAYASHI Hiroaki
	テーマ	婦人科各種疾患の基礎的実験
	学習目標	産婦人科領域の研究を実践し、論文作成を行う。
		1. 基礎研究を立案作成し、実施する。
		2. 臨床研究を立案作成し、実施する。 3. 動物疾患モデルを作成する。
	到達目標	3. 動物疾患モアルを作成する。   4. 実験モデルを用いて、機序と病態について研究する。
	判廷日保	5. 臨床材料を用いてその成因・病態を研究する。
		6. 研究結果について考察を加える。
		7. 研究成果をまとめ、論文を作成する。
小児科学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	岡本 康裕/OKAMOTO Yasuhiro
	テーマ	小児医療学
		1. 胎児期から思春期までの正常な生育・発達状態を説明できる。
	学習目標	2. 胎児、周産期、新生児、乳幼児期、児童期、思春期の病態を理論的に解析できる。
		1. 小児期の感染症について特徴を述べ、診断、治療および予防について説明する。
		2. 先天性心疾患の発生に関与する胎内環境の情報収集、分子生物学的な解析をする。
		3. 先天性心疾患の症状、病態について分類して説明する。
		4. 川崎病の病因・病態について記述する。
	到達目標	5. 胎児期以降の造血組織環境の変化を述べ、その特徴を具体的に説明する。
		6. 新生児期から乳幼児期に発症する小児がんについて説明する。
		7. 小児がん、小児膠原病などの患児におけるサイトカイン動態について説明する。
		8. 小児膠原病におけるサイトカインの病因・病態への関与について解析する。
1 10 41 W 4 FA	Les Mr. mr. dats	9. 造血細胞移植の概念を説明する。
小児科学実験	授業形態	実験
	主担当教員	岡本 康裕/OKAMOTO Yasuhiro
	テーマ	小児医療学
	学習目標	小児科学の実験と論文作成を行うことができる。
		1. 小児疾患病態実験研究について立案作成して実践する。
	and take the first	2. 実験研究における問題点について具体的な対策を講じる。
	到達目標	3. 実験データの統計学的解析を実践し、その結果について説明する。
		4. 実験研究で得られた結果について考察を組み立てる。 5. 実験研究で得られた結果をまとめ、論文を作成し投稿する。
<b>西如佛本八才山梅兴安亚</b>	1公 平 T/ 台L	
硬組織の分子生物学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	松口徹也/MATSUGUCHI Tetsuya
	テーマ	硬組織の機能解析に用いる分子生物学的手法を学ぶ。
	学習目標	1. 硬組織の研究のための方法論を理解し説明できる。
		2. 分子生物学的手法を用いた硬組織研究論文を読み、評価することができる。
		1. 組み換えDNA技術を用いた実験方法を理解し、説明することができる。
		2. 骨基質中に存在するサイトカインの抽出精製法の特殊性を理解し、説明することができる。 3. ハイドロキシアパタイトの構造を理解し、石灰化理論を説明することができる。
		4. 生体内の石灰化各組織の類似点、相違点を理解し、説明することができる。
	到達目標	5. 骨形成に異常が認められるKOマウスについて、そのメカニズムを説明することができる。
	刘廷山林	6. 骨芽細胞及び破骨細胞分化に関わる細胞内情報伝達系を理解し説明することができる。
		7. カルシウム代謝に関わる細胞内情報伝達系について理解し説明することができる。
		8. メカニカルストレスの骨芽細胞への作用機作について理解し、説明することができる。
		9. 4~8に関する個々の論文を客観的に評価することができる。
硬組織の分子生物学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	松口 徹也/MATSUGUCHI Tetsuya
	テ ー マ	硬組織の機能解析を分子生物学的アプローチで実践する。
	学習目標	分子生物学的手法を用いた硬組織の研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 分子生物学的手法を用いた硬組織研究の立案作製をし、実践できる。
		2. 硬組織研究において分子生物学的手法の問題点を検討し、実験計画を立てることができる。
	到達目標	3. 骨芽細胞の分化・増殖における様々な生理活性物質の影響を実験し、その結果を説明できる。
	判廷日保	4. 硬組織由来の生理活性物質が他の組織の細胞に及ぼす影響を実験し、その結果を説明できる。
		5. 硬組織の分子生物学的研究で得られた結果について考察を深めることができる。
		6. 硬組織の分子生物学的研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
口腔細菌学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	中田 匡宣/NAKATA Masanobu
	テーマ	口腔細菌学の解析に用いる研究手法を学ぶ。
	<b>少羽口</b> 描	1. 口腔細菌の研究のための方法論を理解し説明できる。
	学習目標	2. 分子生物学的手法を用いた口腔細菌研究論文を読解し、評価することができる。
		1. 口腔細菌と遺伝子組換え技術を用いる実験方法を理解し、説明することができる。
		2. 口腔細菌が産生する病原因子の発現量を解析する方法を説明することができる。
		3. 口腔細菌が産生する病原因子の機能を解析する方法を説明することができる。
	到達目標	4. 口腔細菌間の相互作用を解析する手法を説明することができる。
	277年日1年	5. 口腔細菌間と宿主細胞の相互作用を解析する手法を説明することができる。
		6. 口腔細菌に関する学術情報を収集することができる。
		7. 口腔細菌に関する研究で得られる結果を解釈し、説明することができる。
		8. 口腔細菌に関する研究の課題を説明することができる。

<b>运要到日夕</b>		
授業科目名	上位 地 エンムバ	講義等の概要
口腔細菌学実験	授業形態	実験
	主担当教員	中田 匡宣/NAKATA Masanobu
	テーマ	細菌研究の実践と論文作成
	学習目標	分子生物学的解析を用いる細菌の研究と論文作成を行うことができる。
		1. 分子生物学的手法を用いる細菌研究を立案し、実践することができる。
		2. 細菌の研究における分子生物学的手法の問題点を検討し、対策を講じることができる。
		3. 環境変化や宿主成分がおよぼす細菌の遺伝子発現とタンパク質産生への影響を解析し、結
	到達目標	果を説明することができる。
	判注日保	4. 細菌の感染が宿主細胞に与える影響を解析し、結果を説明することができる。
		5. 口腔細菌の研究で得られた結果について、考察を深めることができる。
		6. 口腔細菌研究で得られた得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
<b>一時但每米米米</b>	おの一件・サイカビ	
口腔保健推進学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	玉木 直文/ TAMAKI Naofumi
	テーマ	歯科疾患の予防による全身の健康増進
	学習目標	1. 歯科疾患および関連する全身疾患の罹患像と病因病態を理解する。
	子白日际	2. 口腔および全身の保健要因の解析方法を修得する。
		1. 口腔細菌叢の構成を説明できる。
		2. 口腔環境の特徴を説明できる。
	到達目標	3. 口腔細菌の病原因子について説明できる(1)歯科疾患に関して。
	21/2 H.W	4. 口腔細菌の病原因子について説明できる(2)全身疾患に関して。
		5. 口腔環境と全身の健康状態との関連性についての研究方法を理解する。
口腔保健推進学実験	授業形態	実験
口压体医泄医于天歌		7.7 ".
	主担当教員	玉木 直文/ TAMAKI Naofumi
	テーマ	歯科疾患の予防による全身の健康増進
	学習目標	口腔保健推進学の実験と論文作成を行うことができる。
		1. 歯科疾患および関連する全身疾患の病因解明についての計画立案をする。
		2. 手順を踏んで実験を行い、問題点について具体的な対策を講じる。
	到達目標	3. 実験データの解析を行う。
		4. 得られた結果について考察を行う。
		5. 実験で得られた結果をまとめ、論文を作成する。
顎顔面咬合育成学演習	授業形態	演習
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	主担当教員	宮脇 正一/ MIYAWAKI Shouichi
	テーマ	咬合育成論
	) — v	
	学習目標	顎・顔面・咬合異常および顎口腔機能障害について、病因の解明や治療計画の立案に関する臨
	V 11 - 11	床と研究を行う方法を理解し、修得する。
		1. 診査・検査を説明し、実施できる。
		2. 問題点を列挙し、病因を考察することができる。
		3. 他の口腔疾患との関わりについて列記し、考察することができる。
	到達目標	4. 全身疾患との関わりについて列記し、考察することができる。
	NÆ IW	5. 形態異常と機能障害を対比し、関係づけることができる。
		6. 治療法を選択して実施できる。
		7. 治療経過と結果を評価できる。
		8. 高度先進的治療法を列記し、応用することができる。
顎顔面咬合育成学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	宮脇 正一/MIYAWAKI Shouichi
	テーマ	咬合育成論
	学習目標	
	丁日日(示	1. 倫理的配慮や個人情報保護などの研究者としての心構えを理解できる。
		2. 顎顔面咬合育成学研究で取り上げるべきテーマを認識できる。
		3. 研究に必要な文献の検索や収集を実践できる。インターネットを使用した情報交換。
		4. 文献を抄読し、説明できる。
		5. 収集した文献や資料に基づいて文献的考察を行い、説明できる。
		6. 共同研究者とともに、研究に関する討論を実践できる。
	701 Nds 17 Jan	7. 共同研究者とともに、研究計画書を作成できる。
	到達目標	8. 共同研究者とともに、研究計画書に基づき研究を実践できる。
		9. 研究の経過について、定期的に共同研究者に報告できる。
		10. 研究データの統計学的解析を実践し、その結果を説明できる。
		11. 研究結果の図や表を作成し、説明できる。
		12. 研究結果に対して考察を深め、説明できる。
		13. 研究結果を発表原稿にまとめ、発表できる。
		14. 発表への質問に対して説明できる。
		15. 研究結果をまとめて論文を作成できる。
小児歯科学演習	授業形態	演習
	主担当教員	山座 治義/YAMAZA Haruyoshi
	テーマ	小児期の口腔形態と機能の発達
	学習目標	小児の口腔の形態と機能の発育を理解し、説明できる。
	1 D D W	1. 口腔の一般的成長・発達について説明できる。
	到達目標	2. 口腔機能、咀嚼、構音機能の発達を説明できる。    2. 口腔の機能的疾患(応入・咀嚼障害・顎関節症・呼吸・機 辛陪宝など)の原因とその対応
		3. 口腔の機能的疾患(咬合・咀嚼障害、顎関節症、呼吸・構音障害など)の原因とその対応 はも細胞せて
		法を理解する。

授業科目名		講義等の概要
小児歯科学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	山座 治義/YAMAZA Haruyoshi
	テーマ	口腔機能評価システム構築と計測および解析
	学習目標	口腔機能評価システム構築と計測結果の評価を通して、顎口腔機能研究の概要を理解する。
		1. 目的とする口腔機能評価のためのシステムを構築する。
	到達目標	2. 口腔機能の計測を行う。
		3. 計測結果に対する評価と討論を行い、論文を作成する。
地域医療学演習	授業形態	演習
	主担当教員	大脇 哲洋/OWAKI Tetsuhiro
	テ ー マ	地域医療における問題点の抽出
	学習目標	日本・鹿児島県の地域医療における問題点や臨床研究の基礎について学習する。
		1. 日本および鹿児島県の医療問題を説明できる。
	到達目標	2. 臨床研究における倫理的問題点を説明できる。
	21.2.11	3. 地域における精神疾患の問題点を説明できる。
Id. LA IS IS W. ch VIII	1-55 Alls 107 4-515	4. 臨床研究に繋がる地域医療の問題点を探索できる。
地域医療学実習	授業形態	実習
	主担当教員	大脇 哲洋 / OWAKI Tetsuhiro
	テーマ	地域医療における臨床研究
	学習目標	地域医療における研究データを用いた解析と論文作成を行う。
		1. 研究の必要性を理解し、研究計画を立案できる。
		2. ヒトを対象にデータの収集、検体の採取ができる。
	到達目標	3. 要因の解析と交絡因子の調整、相互作用の解析ができる。   4. ヒト材料を用いた場合の倫理的問題を対象者に説明できる。
		4. と下材料を用いた場合の個理的问題を対象者に説明できる。
		6. 研究の重要性を理解し、医学論文としてまとめることができる。

4-2. 専門科目(先進	<b>冶漿科子等以</b> )	with Mr. Mr This cope
授業科目名	) vii)	講義等の概要
機能形態学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	柴田 昌宏/SHIBATA Masahiro
	テーマ	脊椎動物の形態と機能
	学習目標	脊椎動物の形態と形成機構を理解し、説明できる。
		1. 脊椎動物の構造を理解し、説明できる。
	到達目標	2. 脊椎動物の発生様式を理解し、説明できる。
		3. 各組織、各細胞の特徴を理解し、説明できる。
機能形態学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	柴田 昌宏/SHIBATA Masahiro
	テーマ	脊椎動物の形態と機能
	学習目標	研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 研究をデザインし、説明できる。
		2. 研究の問題点を理解し、解決策を見つけられる。
	到達目標	3. 正しい手法を用いて実験できる。
		4. 研究で得られた結果について説明し、考察できる。
		5. 研究で得られた結果をまとめて、論文を作成することができる。
神経筋生理学演習	授業形態	演習
	主担当教員	田川 義晃/TAGAWA Yoshiaki
	テーマ	脳神経と筋の生理学
		1. 神経や筋の機能、動作原理を理解する。
	学習目標	2. 神経や筋の機能に対する分子・細胞・回路・個体レベルの研究手法を理解する。
ŀ		1. 脳神経系と筋組織の機能と動作機序について説明できる。
	到達目標	2. 脳神経系の発生・発達について説明できる。
	~ 1VT H JW	3. イオンチャネル等の機能分子のはたらきや疾患について説明できる。
神経筋生理学実験	授業形態	実験
11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	主担当教員	田川 義晃/ TAGAWA Yoshiaki
	<u> </u>	脳神経と筋の生理学
		神経や筋の機能、動作原理に関する研究を実践し、論文を作成することができる。
	子百日保	
		1. 脳神経系や筋の研究に関する実験を立案し、実践できる。 2. 脳神経系や筋の研究における問題点について具体的な対策を講じることができる。
	到達目標	2. 脳神経系や筋の研究におりる問題点について具体的な対策を講じることができる。   3. 脳神経系や筋の実験で得られた結果を解析し、考察することができる。
		4. 脳神経系や筋の実験結果をまとめて論文を作成することができる。
神経疾患学・老年病学	授業形態	演習
演習	主担当教員	高嶋 博/ Takashima Hiroshi
供日		
	テーマ	神経疾患学・老年病学
	学習目標	1. 神経疾患ならびに各種老年病について、その研究方法に関して理解し、説明できる。
		2. 神経疾患ならびに各種老年病の研究結果をもとにその病態機序を説明できる。
		1. 神経・老年病疾患の臨床疫学研究のデザインについて理解し、説明できる。
		2. 神経・老年病疾患の臨床治療研究のデザインについて理解し、説明できる。 3. 遺伝性神経疾患の遺伝子異常の研究法について理解し、説明できる。
		4. 免疫性神経疾患の免疫学的研究方法について理解し、説明できる。
	到達目標	5. 神経変性疾患の病態・治療研究課題について理解し、説明できる。
	刘廷古林	6. 感染性神経疾患の病態・治療研究課題について理解し、説明できる。
		7. 代謝性神経疾患の病態・治療研究課題について理解し、説明できる。
		8. 機能性、中毒性神経疾患の病態・治療研究課題について理解し、説明できる。
		9. 各種老年病について理解し、説明できる。
神経疾患学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	高嶋 博/ Takashima Hiroshi
	テーマ	神経疾患学・老年病学
1	学習目標	神経疾患ならびに各種老年病の臨床・基礎研究の実践と論文作成を行うことができる。
}	4 H H W	1. 神経疾患ならびに各種老年病の臨床・基礎研究を立案し、実践できる。
		2. 研究方法の問題点について討議し、具体的な対策を講じることができる。
	조리 나는 다 보다	3. 研究結果の解析について理解し、説明できる。
	到達目標	4. 研究の結果について考察を深めることができる。
		5. 研究の結果を論文としてまとめることができる。
		6. 研究の結果を関連する神経疾患の病態解明に応用することができる。
脳神経外科学演習	授業形態	演習
	主担当教員	花谷 亮典/HANAYA Ryosuke
	テーマ	脳腫瘍学
	学習目標	脳腫瘍の病態を理解し、その治療について説明することができる。
		1. 脳腫瘍の治療法について、その意義を理解する。
	到達目標	2. 分子生物学的な脳腫瘍の研究を理解し、分子生物学的治療法について考察できる。
脳神経外科学実験	授業形態	実験
	主担当教員	花谷 亮典 / HANAYA Ryosuke
}	テーマ	版腫瘍の最新治療
}		脳神経疾患研究の実践と論文作成を行うことができる。
}	于日日际	
		1. 脳神経疾患研究の立案を作成し、実践できる。
		2. 脳神経疾患研究における問題点について検討していくことができる。 3. 脳神経疾患研究に必要な分子生物学的手法を行うことができる。
	到達目標	4. 脳神経疾患研究に必要な遺伝子学的手法を行うことができる。
		4. 脳神経疾患研究に必要な退伍丁子的子伝を行うことができる。   5. 脳神経疾患研究の結果をもとに論文作成をすることができる。
		6. 脳神経疾患研究の結果の臨床応用を検討していくことができる。
I		

授業科目名		講義等の概要
	Los alle met dale	
顎顔面に係わる神経の	授業形態	演習
機能形態学演習	主担当教員	後藤 哲哉/GOTO Tetsuya
	テーマ	具体的テーマを学生ごとに設定する
	-	文献の精読や実験手技の習得を通じて、顎顔面領域に係わる神経系を形態レベルと機能レベル
	学習目標	で理解する。
		1. 文献抄読、セミナーによって最新の知識を修得する。
	到達目標	2. 顎顔面領域の神経系の分布を理解する。
	>1/2 II IV.	3. 顎顔面領域の神経系の機能を理解する。
		4. 顎顔面領域の神経の研究方法について理解し、基礎的な実験方法を修得する。
顎顔面に係わる神経の	授業形態	実験
機能形態学実験	主担当教員	後藤 哲哉/GOTO Tetsuva
	テーマ	具体的テーマを学生ごとに設定する
	, ,	下位脳幹の運動神経核の解析、内臓感覚・味覚・嗅覚・頭顔部に係わる中枢神経の神経回路解
	学習目標	
		析を通じて、神経解剖学の研究手法を習得する。
	and take the free	主に神経解剖学的な領域について神経回路学的解析を中心とした実験を通して研究指導を行
	到達目標	い、その成果をもとに学会発表や論文作成を行える能力を習得する。
		味覚や痛覚の神経伝達に関わる特定の分子またはその受容体について解析を行う。
顎顔面口腔領域の肉眼	授業形態	演習
解剖学演習	主担当教員	田松 裕一/ TAMATSU Yuichi
	テーマ	歯科口腔領域の診断・治療に必要な形態学を学び臨床との関連性を考察する。
	子百日悰	口腔および顎顔面領域の諸構造と臨床上の意義を理解する。
		1. 口腔および頭頸部の標本を用いて構造を説明できる。
	到達目標	2. 所見を記述方法、記録写真の撮影方法を説明できる。
	かた ロ 1年	3. 発生学的な解釈をするための考察手段を知っている。
		4. 論文を作成方法と学術雑誌への投稿方法を知っている。
顎顔面口腔領域の肉眼	授業形態	実 験
解剖学実験	主担当教員	田松 裕一/ TAMATSU Yuichi
	テーマ	歯科口腔領域の診断・治療に必要な形態学を学び臨床との関連性を考察する。
	学習目標	口腔および顎顔面領域の諸構造と臨床上の意義を理解する。
	子自日保	
		1. 口腔および頭頸部の実験的剖出を実践できる。
	到達目標	2. 剖出結果の所見を記述し、写真撮影、スケッチで記録できる。
		3. 結果について、発生学的な解釈も踏まえて考察できる。
		4. 論文を作成し、学術雑誌へ投稿することができる。
法医歯科学の理論と実	授業形態	演習
践演習	主担当教員	田松 裕一/ TAMATSU Yuichi
	テーマ	歯科的個人識別方法を学ぶ
	学習目標	大規模災害時における身元確認業務の一方法として歯科的個人識別の重要性と方法を理解する。
		1. 歯科的個人識別について説明できる。
	到達目標	2. 歯科的個人識別に必要な情報を収集することができる。
法医歯科学の理論と実	授業形態	実験
践実験		7 - "
以天冰	主担当教員	田松 裕一/ TAMATSU Yuichi
	テーマ	歯科的個人識別方法を学ぶ
	学習目標	大規模災害時における身元確認業務の一方法として歯科的個人識別の重要性と方法を理解する。
	到達目標	1. 歯科的個人識別について説明できる。
	かた 口 1 不	2. 歯科的個人識別に必要な情報を収集することができる。
眼科病態学演習	授業形態	演習
	主担当教員	坂本 泰二/ SAKAMOTO Taiji
	テーマ	眼科病態研究の理解・解析
		1. 眼科病態研究の方法論を理解し、説明できる。
	学習目標	2. 眼科病態研究実験を実行し、結果の説明ができる。
		1. 眼科病態研究の方法論について理解し、説明できる。
		1. 眼性病態研究の方法論について理解し、説明できる。   2. 眼科病態研究の実験について理解し、説明できる。
	四十五 四十五	2. 眼性病態研究の実験について理解し、説明できる。
	到達目標	
		4. 眼科病態研究の実験結果について理解し、基本的な解析を行うことができる。
111 - 151 , John St. Alexandr	Lot Mr. wet the	5. 眼科病態研究の実験の問題点について解釈し、説明できる。
眼科病態学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	坂本 泰二/ SAKAMOTO Taiji
	テーマ	眼科病態研究および治療の理解・解析
	学習目標	眼科病態研究および治療の理解・解析の実践と論文作成を行うことができる。
		眼科病態研究や治療法研究の方法論について最新論文、主用論文を読み議論を行う。さらに必
		要な実験を行う。主なテーマは以下の通り
		1) 視覚器の組織化学実験
		1 ) 祝見品の免疫組織化学実験
	到達目標	3   視覚器の分子生物学的研究実験
	27年日本	4   視覚器の分子遺伝学的研究実験
		5   視覚器の遺伝子治療実験
		6) 視覚器のドラッグデリバリー研究実験
		7) 視覚器の電気生理実験
		- / POS

授業科目名	4点 3単 m/ ≥M	講義等の概要
皮膚病態解析学演習	授業形態	演習
_	主担当教員	江川 形平/ EGAWA Gyohei
_	テーマ	皮膚疾患の病態を解析するための実験方法を習得する。
	学習目標	皮膚疾患の病態研究の基礎となる、皮膚の生理的構造と機能を解析するための実験的方法を理解し、説明できる。
	到達目標	皮膚の病理組織学的実験、培養実験、生化学的実験、分子生物学的実験及び動物を用いた実験 の基礎と実際を理解し、説明できる。
皮膚病態解析学実験	授業形態	実験
	主担当教員	江川 形平/EGAWA Gyohei
	テーマ	皮膚疾患の病態を解析するための実験方法を実施する。
	学習目標	実験的手法を用いて皮膚疾患の病態を解析し、新しい治療法を研究する方法を理解し、説明できる。
	到達目標	皮膚疾患の原因となっている異常を、分子生物学的、生化学的および形態学的方法を駆使して 解析し、治療法を研究するための基礎的方法を理解し、説明できる。
上気道病態学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	山下 勝/ YAMASHITA Masaru
	テーマ	上気道病変の病態解明ならびに治療
		1. 上気道疾患の病態研究についての方法論を理解し、説明できる。
	学習目標	2. 上気道疾患治療に関する研究についての方法論を理解し、説明できる。
		1. 上気道傷害ならびに炎症の病態を概括できる。
		2. 上気道疾患例から採取された、検体を正確に処理できる。
	and take the first	3. 上気道から採取された標本の免疫組織化学的検討方法を理解し実践できる。
	到達目標	4. 上気道から採取された標本の免疫学的・分子生物学的検討方法を理解し実践できる。
		5. 炎症再生ならびに粘膜免疫システムについて概括できる。   6. 上気道疾患治療について概括できる。
		7. 動物実験による上気道研究について理解し実践できる。
上気道病態学実験	授業形態	実験
上	主担当教員	山下 勝/ YAMASHITA Masaru
-	<u>エ担ヨ教員</u> テ ー マ	上気道病変の病態解明ならびに治療
-		
	子白日际	1. 上気道における傷害に対する生体応答ついて理解し、説明できる。
	到達目標	2. 上気道組織の再生修復機転について考察を行う。 3. 上気道における粘膜免疫ならびにアレルギー炎症について理解し、説明できる。 4. 上気道組織からの細胞の分離・培養についての手技を理解し、実践できる。 5. 上気道疾患の病態解析に必要な分子生物学的実験法を理解し、実践できる。 6. 実験によって得られた結果について考察し、それに基づいた建設的な実験計画を作成できる。 7. 実験結果をまとめ、論文を作成することができる。
遺伝子治療・再生医学	授業形態	演習
演習	主担当教員	小戝 健一郎/KOSAI Kenichiro
-	テーマ	遺伝子治療・再生医学演習
	学習目標	遺伝子治療と発生・再生医学の基礎的研究手法を理解し、説明できる。
	1 H H W	1. 細胞生物学の基本事項を理解し、説明できる。 2. 遺伝子工学の基本技術を理解し、説明できる。 3. 遺伝子導入ベクターについて理解し、説明できる。 4. 遺伝子発現メカニズムについて理解し、説明できる。
	到達目標	5. 幹細胞の生物学的特性と再生医学への応用について理解し、説明できる。 6. 疾患動物モデルと治療研究について理解し、説明できる。 7. 器官形成や発生学について理解し、説明できる。 8. 組織形態学の基本事項を理解し、組織学的評価ができる。 9. 臨床応用化までの過程を理解し、説明できる。
<b></b>	授業形態	実験
遺伝子治療・再生医学 実験		74 - 04
<b>夫</b> .映	<u>主担当教員</u> テーマ	小戝 健一郎/KOSAI Kenichiro
	学習目標	遺伝子治療・再生医学実験 分子生物学、細胞培養、形態学の基本的実験から、遺伝子治療のベクター調整や ES 細胞の基本的実験手技まで習得し、遺伝子治療と再生医学の研究を行うことができる。
	到達目標	1. 細胞株で細胞培養の手技を実践できる。 2. 大腸菌での遺伝子組換えなど主要な分子生物学実験が実践できる。 3. 遺伝子導入法を理解し、遺伝子導入ベクターを調整できる。 4. 組織標本を作製し、各種の染色、形態の観察と評価ができる。 5. 基本的な生化学的実験の手技が実践できる。 6. 動物での治療実験が実践できる。 7. ES 細胞の調整と分化誘導の実験ができる。 8. ES 細胞から分化した目的細胞をセルソーターで単離できる。 9. 実験結果を考察し論文作製ができる。

4-2. 専門科目(先進	治療科字専攻)	
授業科目名		講義等の概要
感覚運動機能疾患制御	授業形態	演習
学演習	主担当教員	谷口 昇/ TANIGUCHI Noboru
	テーマ	骨・関節・筋・神経疾患のサイエンスと治療
	学習目標	1. 四肢・脊椎における骨、軟骨、神経(脊髄、末梢神経)、筋の機能疾患の病因・病態を理解し、 説明できる。
		2. これらの疾患の先進的治療開発のための基礎研究手法を理解し、説明できる。
	到達目標	1. 骨、関節、筋、神経(脊髄、末梢神経)に関する解剖を理解し、説明できる。 2. 骨、関節、筋、神経(脊髄、末梢神経)に関する生理を理解し、説明できる。 3. 骨、関節、筋、神経(脊髄、末梢神経)における生化学を理解し、説明できる。 4. 骨、関節、筋、神経(脊髄、末梢神経)における分子生薬学を理解し、説明できる。 5. 骨、関節、筋、神経(脊髄、末梢神経)に関する分子薬理学を理解し、説明できる。 6. 骨、関節、筋、関節に関するバイオメカニクスを理解し、説明できる。 7. 骨、関節、筋、神経(脊髄、末梢神経)の機能疾患の遺伝子治療を理解し、説明できる。
感覚運動機能疾患制御	授業形態	実験
学実験	主担当教員	谷口 昇/ TANIGUCHI Noboru
	テーマ	骨・関節・筋・神経疾患のサイエンスと治療
	学習目標	骨、関節、筋、神経(脊髄、末梢神経)を構成する細胞機能の研究の基本となる手技を収得し、 論文作成を行うことができる。
	到達目標	画 2 作成を11 りことができる。  1. 細胞培養の手技を実践できる。 2. 分子生物学的手法を実践できる。 3. 標本を作製し、各種染色法を実践できる。 4. 電顕、共焦点顕微鏡を使用できる。 5. ベクターの取り扱い、遺伝子導入法を理解し、説明できる。 6. 実験より得られた結果について説明できる。 7. 実験より得られた結果について考察を深めることができる。
		8. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
リハビリテーション医	授業形態	演習
学演習	主担当教員	下堂薗 恵/SHIMODOUZONO Megumi
	テ ー マ	機能障害の評価と治療
	学習目標	障害を階層的に捉え、評価法、治療法、研究法を理解し、説明できる。 障害の新たな評価法や治療法について研究法を理解し、説明できる。
	到達目標	障害の階層性について理解し、評価法について説明できる。 中枢神経障害への評価法と治療法について理解し、その問題点について説明できる。 骨関節障害への評価法と治療法について理解し、今後の課題について説明できる。 心肺機能障害への評価法と治療法について理解し、今後の課題について説明できる。 心肺機能障害への評価法と治療法について理解し、具体的な手技、薬物療法について説明できる。 神経因性膀胱の評価法と治療法について理解し、具体的な手技、薬物療法について説明できる。 コンピュータを用いた新たな評価訓練用機器や非侵襲的脳神経機能測定法の基本原理を理解 し、測定結果の意味とその臨床応用について説明できる。 脳の可塑性について理解し、可塑性を高めて機能回復させる手法について説明できる。
リハビリテーション医	授業形態	実 験
学実験	主担当教員	下堂薗 恵/SHIMODOUZONO Megumi
	テーマ	研究に用いる評価法と実験手技
	学習目標	高次脳機能(言語、認知、記憶、心理)や運動機能の評価、障害モデル動物を用いた実験を 実際の機材を用いてできる。
	到達目標	高次脳機能(言語、認知、記憶、心理)について、テストバッテリーを用いて実際に測定できる。 運動機能(片麻痺、歩行、日常生活動作)について、片麻痺機能評価訓練装置、筋力測定器、 歩行解析装置、動作解析装置を用いて、実際に測定できる。 非侵襲的脳神経機能測定機器を用いた実験課題を作成し実際に測定できる。 実験動物を用いた脳脊髄損傷の作製、免疫染色、マイクロダイアリシス、膀胱内圧測定等の手 技ができる。 臨床例や実験動物から得られたデータを理論的に解析し、得られた結果について考察できる。
do hit 15, 261 alades to the second	1位 地 ポノント	臨床的・基礎的実験で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
血管代謝病態解析学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	橋口 照人/ HASHIGUCHI Teruto
	テーマ	血管代謝異常の分子病態学的解析
	学習目標	血管を臓器として捉え、血管機能の異常機構を分子病態学的に理解する。
	到達目標	1. 血液凝固系と線溶系の活性化の機序を分子病態学的に理解する。 2. 血小板の持つ生理活性物質の特性を分子病態学的に理解する。 3. 血栓形成の機序を血管内皮細胞、血液凝固系・線溶系・血小板系を相互に関連付けて理解する。 4. 代表的血栓症治療薬の作用機序を分子生化学的に理解する。
		5. 血管における炎症・免疫・循環の制御機構とその破綻の分子病態を理解する。
血管代謝病態解析学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	橋口 照人/HASHIGUCHI Teruto
	テーマ	血管代謝異常の分子病態学的解析
	学習目標	血管生物学の分野における実験・研究を行い論文を作成する。
	到達目標	1. ヒト臍帯静脈血管内皮細胞(HUVEC)を含め目的の細胞を分離培養できる。 2. 種々の生理活性物質における細胞の応答を細胞生物学的に解析できる。 3. 細胞応答における細胞内シグナルトランスダクションを理解し解析できる。 4. 目的の蛋白質の細胞における発現を分子生物学的に解析できる。 5. 細胞同士の相互作用を解析できる。 6. 血管生物学における最先端の論文を理解し自らの実験に応用できる。
		7. 実験結果をまとめ論文を作成する。

	<b>≛治療科字専攻)</b> □	
授業科目名	1.4.1011.11	講義等の概要
循環器疾患学演習	授業形態	演習
	主担当教員	大石 充/OHISHI Mitsuru
	テーマ	心臓・血管疾患の演習
	学習目標	循環器学の疾患を理解し、説明できる。
	7 11 11 11	1. 心臓疾患の原因・病態を理解し、説明できる。
		2. 血管疾患の原因・病態を理解し、説明できる。
	到達目標	3. 心臓疾患の治療を理解し、説明できる。
		4. 血管疾患の治療を理解し、説明できる。
循環器疾患学実験	授業形態	実験
阳绿矿大芯于天歌		77 77
	主担当教員	大石 充/OHISHI Mitsuru
	テーマ	循環器病の基礎及び臨床研究
	学習目標	研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 研究の立案を作成し、実践できる。
		2. 研究における問題点について具体的な対策を講じることができる。
	到達目標	3. 統計学的解析を実践し、その結果について説明できる。
		4. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。
		5. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
呼吸器病学演習	授業形態	演習
	主担当教員	井上 博雅 / INOUE Hiromasa
	テーマ	呼吸器病学の基礎・臨床研究
		1. 呼吸器疾患の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。
	学習目標	1. 呼吸益疾患の病囚、病患、診断法、治療法を連べることができる。   2. 呼吸器疾患の研究結果をもとにその病態機序を説明できる。
		1. 呼吸器疾患の病因を理解し、説明できる。
	701 NA: 111 AM	2. 呼吸器疾患を理解し、説明できる。
	到達目標	3. 呼吸器疾患の診断法を理解し、説明できる。
		4. 呼吸器疾患治療法を理解し、説明できる。
	1.4.10	5. 呼吸器疾患の予防研究の意義を述べることができる。
呼吸器病学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	井上 博雅/ INOUE Hiromasa
	テーマ	呼吸器疾患の病態に関する研究
	777 AN LI 1985	呼吸器疾患、腫瘍性疾患、感染症の基礎・臨床研究を行い、医学論文としてまとめることがで
	学習目標	きる。
		1. 呼吸器疾患の臨床・基礎研究を立案し、実践できる。
		2. 研究方法の問題点について討議し、具体的な対策を講じることができる。
	and take the free	3. 研究結果の解析について理解し、説明できる。
	到達目標	4. 研究の結果について考察を深めることができる。
		5. 研究の結果を論文としてまとめることができる。
		6. 研究の結果を関連する呼吸器疾患の病態解明に応用することができる。
統合分子生理学演習	授業形態	演 習
7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	主担当教員	田川 義晃/TAGAWA Yoshiaki
	テーマ	自律神経及びホルモンによる生体制御の分子機構
	学習目標	ホメオスタシスならびにホメオダイナミクスの分子基盤を理解する。
	Total and the	1. ホメオスタシスならびにホメオダイナミクスに関する既知の分子基盤を説明できる。
	到達目標	2. ホメオスタシスならびにホメオダイナミクスが関与する病態について説明できる。
	1 10 1 1	3. ホメオスタシスならびにホメオダイナミクスの研究方法を説明できる。
統合分子生理学実験	授業形態	実験
	主担当教員	田川 義晃/ TAGAWA Yoshiaki
	テーマ	自律神経及びホルモンによる生体制御の分子機構
	₩ 2121 E1 ±##	ホメオスタシスならびにホメオダイナミクスの分子基盤の研究を実践し、学会発表ならびに論
	学習目標	文作成ができる。
		1. ホメオスタシスならびにホメオダイナミクスの分子基盤に関する実験研究を立案し、実践
		できる。
	到達目標	2. 研究の過程で生じた問題点について具体的な対策を講じることができる。
		3. 実験結果を統計学的に解析し、考察することができる。
		4. 研究成果をまとめて学会発表ならびに論文作成ができる。
分子神経生物学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	奥野 浩行/OKUNO Hiroyuki
	テーマ	文献の読解を通して最新の分子神経生物学研究を理解する
	<u> </u>	最新の分子神経生物学関連の論文を読んで理解する
	学習目標	
	到達目標	1. 神経科学関連の論文内容を説明することができる
		2. 論文で用いられている技術や方法を説明することができる
分子神経生物学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	奥野 浩行/OKUNO Hiroyuki
	テーマ	実験を通して分子神経生物学研究を理解する
	学習目標	最新の分子神経生物学の実験を自立的に行う
		1. 最新の神経科学関連の論文の実験を追試することができる
	到達目標	2. 自身で行った実験結果をまとめ、統計処理を行い、解釈することができる
1		4. ロカトロンに大阪加不とよらめ、肌目だ性で打せ、肝肌りるしてからさる

		SH Me for an interest
授業科目名	tors after one e date	講義等の概要
生体情報薬理学演習	授業形態	演習
	主担当教員	佐藤 達雄/SATO Tatsuo
	テーマ	生体内情報伝達解析に基づいた薬理学研究
	学習目標	1. 分子レベルから個体レベルまでの薬物作用機序を統合的に理解し、説明できる。 2. 作用機序解析のための生化学的手法、生理学的手法、分子生物学的手法を理解し、説明できる。
	到達目標	1. 生体内情報伝達について理解し、説明できる。 2. 生体内情報伝達に基づいた薬理作用機序について理解し、説明できる。 3. 生体内情報伝達の薬理学的アプローチについて理解し、説明できる。 4. 生体内情報伝達解析の分子生物学的手法を理解し、基本的解析を行うことができる。 5. 生体内情報伝達解析の生化学的手法を理解し、基本的な解析を行うことができる。 6. 生体内情報伝達解析の生理学的学的手法を理解し、基本的解析を行うことができる。 7. 実験動物を用いた行動薬理学的手法を理解し、基本的な解析を行うことができる。 8. 解析結果について解釈し、薬物の作用発現の分子メカニズムを説明できる。
生体情報薬理学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	佐藤 達雄/SATO Tatsuo
	テーマ	生体内情報伝達解析に基づいた薬理学研究
	学習目標	生体内情報伝達解析に基づいた薬理学研究の実践と論文作成を行うことができる。
	到達目標	1. 生体内情報伝達を基盤とした薬理学研究を立案作成し、実践できる。 2. 薬理学研究における新規薬物候補分子の探索などの創薬研究の意義を理解し、説明できる。 3. 分子生物学的及び生化学的手法を用いた作用機序解析を実践し、その結果について説明できる。 4. 病態モデルを用いた行動薬理学的解析を実践し、その結果について説明できる。 5. 薬理学研究で得られた結果について分子から個体まで統合的に考察を深めることができる。 6. 薬理学研究で得られた結果をまとめて論文を作成することができる。
生体機能学演習	授業形態	演習
	主担当教員	垣花 泰之/KAKIHANA Yasuyuki
	テーマ	周術期の侵襲と痛み
	学習目標	1. 侵襲が生体に及ぼす影響を理解し、それに対する麻酔・薬剤の役割を説明できる。 2. 侵襲と生体機能に関する解析方法を理解し、説明できる。
	到達目標	1. 手術侵襲が生体に及ぼす影響を理解し、説明できる。 2. 麻酔薬・呼吸循環作動薬の薬理について理解し、説明できる。 3. 麻酔・ショックが血管平滑筋に及ぼす作用について理解し、説明できる。 4. 麻酔薬の肝臓腎臓機能について及ぼす影響について理解し、説明できる。 5. 麻酔薬の代謝とその代謝産物の作用について理解し、説明できる。 6. ショックの病態と治療について理解し、説明できる。 7. ショック時の臓器機能のモニターについて理解し、説明できる。 8. 侵襲としての痛みの発現機序とその治療を理解し、説明できる。 9. 癌性疼痛の発生機序とその治療について理解し、説明できる。
生体機能学実験	授業形態	実験
	主担当教員	垣花 泰之/ KAKIHANA Yasuyuki
		·
	テーマ	侵襲と麻酔薬と痛みに関する研究
	学習目標	周術期の侵襲に関する研究の実践と論文作成を行うことができる。
	到達目標	1. 生体が侵襲から受ける影響についての研究を立案作成し、実践できる。 2. 麻酔薬が生体に及ぼす影響についての研究を立案作成し、実践できる。 3. 麻酔薬の代謝に関する研究を立案作成し、実践できる。 4. 痛みの発現機序に関する研究を立案作成し、実践できる。 5. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。 6. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。 7. 研究で得られた結果を、臨床に応用することを検討できる。
救急集中治療医学演習	授業形態	演習
	主担当教員	垣花 泰之/KAKIHANA Yasuyuki
	テーマ	急性期病態における侵襲制御と臓器保護
	学習目標	救急集中治療領域の急性期重症病態における生体侵襲、侵襲制御、臓器保護を理解する。
	到達目標	取ぶ乗中信療領域の急性期単症病態における生体侵襲、侵襲前側、臓症床液を埋解する。   1. 救急集中治療領域の急性期の重症病態における生体侵襲を説明できる。   2. 救急集中治療領域の急性期の重症病態における侵襲制御を説明できる。   3. 救急集中治療領域の急性期の重症病態における臓器保護を説明できる。
救急集中治療医学実験	授業形態	実験
	主担当教員	垣花 泰之/KAKIHANA Yasuyuki
	テーマ	急性期病態における侵襲制御と臓器保護
	学習目標	救急集中治療領域の急性期重症病態に対する生体侵襲、侵襲制御、臓器保護に関する研究を行い、 学会発表ならびに論文作成ができる。
	到達目標	1. 救急集中治療領域の急性期重症病態に対する生体侵襲、侵襲制御、臓器保護に関する仮説を立て、実験研究を立案し、実践できる。 2. 研究の過程で生じた問題点について具体的な対策を講じることができる。 3. 実験結果を統計学的に解析し、考察することができる。 4. 研究成果をまとめて学会発表ならびに論文作成ができる。

4-2. 専門科目(先進	, LIMITI (3.20)	講義等の概要
授業科目名 薬物動態制御学演習	松类形能	
条物	授業形態 主担当教員	演 習 寺薗 英之/TERAZONO Hideyuki
	土担当教員 テーマ	東物の相互作用と体内動態に関する研究
	, , ,	1. 薬物の生体内動態の変化を考慮した、安全で効果的な薬物療法を行うことができる。
	学習目標	2. 薬物の作用点および作用機序を学び、生体内薬物相互作用を理解できる。
		1. 薬物体内動態の制御機構を理解し、その変化を理論的に予測できる。
		2. 薬物動態学的要因に基づく薬効変化を理解し、説明できる。
		3. 薬物の吸収に関する制御機構を理解し、説明できる。
	2025日福	4. 薬物代謝・排泄に関わる生体制御機構を理解し、各種薬物の代謝・排泄機構を予測できる。
	到達目標 	5. 薬物相互作用について理解し、説明できる。   6. 薬物-生体内蛋白質相互作用について理解し、説明できる。
		7. 病態薬物動態について理解し、説明できる。
		8. 小児薬物動態について理解し、説明できる。
		9. 加齢薬物動態について理解し、説明できる。
薬物動態制御学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	寺薗 英之/ TERAZONO Hideyuki
	テーマ	薬物の相互作用と体内動態に関する研究
	学習目標	薬物の作用機序・作用点を考慮した薬物相互作用と生理機能との関係を理解できる。
		1. 薬物の作用機序・作用点としての伝達物質・受容体・細胞内情報伝達系を探るための実験
		を行う。
	到達目標	2. 薬効発現あるいは相互作用等の要因となる吸収、代謝、分布、排泄のうち、特に大きな影響を及ぼす薬物トランスポーター、薬物代謝酵素遺伝子多型、蛋白結合に関する実験を行う。
		3. 実験結果をもとに、てんかんや感染症などの病態時や骨髄・腎臓等の移植時における薬物
		血中濃度の測定を行い、臨床での再現性や応用を試みる実習を行う。
記憶成立と記憶障害の	授業形態	演習
薬理学演習	主担当教員	佐藤 友昭/SATO Tomoaki
	テーマ	記憶成立と記憶障害の薬理学の研究デザイン・方法論
	学習目標	1. 記憶に関する神経化学物質、情報伝達機構等の基礎的事項を理解し、説明できる。
	于日口际	2. 記憶障害に関する研究に関して基本的研究デザインや方法を理解し、説明できる。
		1. 記憶に関与する神経化学伝達物質とその受容体の役割、及びそれら受容体に繋がる情報伝
		達機構について理解し、説明できる。
		2. 記憶に関与する神経化学物質の受容体の相互作用について理解し、説明できる。 3. 記憶促進物質並びに障害(抑制)物質の作用の機作について考察し、説明できる。
	到達目標	4. 記憶障害の薬物療法の現状を把握する。
		5. 記憶に関する学術的情報の収集ができる。
		6. 記憶障害研究の基本的デザインの仕様を理解し、実行できる。
		7. 記憶に関する一般的な研究手法を理解し、説明できる。
記憶成立と記憶障害の	授業形態	実 験
薬理学実験	主担当教員	佐藤 友昭 / SATO Tomoaki
	テーマ	記憶成立と記憶障害の薬理学
	学習目標	薬理学的研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 研究を立案・作成できる。 2. 実験を実践し、生じた問題点に対して対策を講じることができる。
	- transfer to a first	3. 薬理学的、生化学的、組織学的、分子生物学的、手法を理解し、説明できる。
	到達目標	4. 薬理学的、生化学的、組織学的、分子生物学的、手法を実践でき、結果について説明できる。
		5. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。
		6. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
口腔生理学演習	授業形態	演習
	主担当教員	齋藤 充/ SAITO Mitsuru
	テーマ	口腔生理学的研究のデザイン、方法論、結果の解釈
	学習目標	1. 口腔生理学的研究のデザイン、方法論を理解し、説明できる。
		2. 実験結果を理解し、結果の説明ができる。   1. 研究のデザインについて理解し、説明できる。
		1. 研究のデザインについて理解し、説明できる。   2. 研究に必要な情報の収集について理解し、説明できる。
		3. 研究における問題点について理解し、説明できる。
	   到達目標	4. 研究における実験手法について理解し、基本的な解析を行うことができる。
	判廷日保	5. 口腔生理学的実験方法で得られた結果について解釈し、説明できる。
		6. 研究の課題について理解し、説明できる。
		7. 口腔生理学的研究課題について理解し、説明できる。   8. 口腔の機能に関する研究の課題について理解し、説明できる。
口腔生理学実験	松光式能	
	授業形態 主担当教員	実験
口腔生性子类駅		
口腔生柱子夫線		口時生理学的研究の実践と論文作品
口匠生坯子夫歌	テーマ	口腔生理学的研究の実践と論文作成
口庇生柱子夫歌		口腔生理学的研究の実践と論文作成を行うことができる。
口庇生柱子夫歌	テーマ	口腔生理学的研究の実践と論文作成を行うことができる。 1. 研究を立案作成し、実践できる。
口庇生母子夫歌	テーマ	口腔生理学的研究の実践と論文作成を行うことができる。
口庇生母子夫歌	テーマ	口腔生理学的研究の実践と論文作成を行うことができる。 1. 研究を立案作成し、実践できる。 2. 研究における問題点について具体的な対策を講じることができる。
口庇生母子夫歌	テーマ学習目標	口腔生理学的研究の実践と論文作成を行うことができる。  1. 研究を立案作成し、実践できる。 2. 研究における問題点について具体的な対策を講じることができる。 3. 神経生理学・行動生理学・組織学・分子生物学的方法について理解し、説明できる。 4. 神経生理学・行動生理学・組織学・分子生物学的方法を用いて研究を実践し、その結果について説明できる。
口庇生母子夫敬	テーマ学習目標	口腔生理学的研究の実践と論文作成を行うことができる。  1. 研究を立案作成し、実践できる。 2. 研究における問題点について具体的な対策を講じることができる。 3. 神経生理学・行動生理学・組織学・分子生物学的方法について理解し、説明できる。 4. 神経生理学・行動生理学・組織学・分子生物学的方法を用いて研究を実践し、その結果に

授業科目名		講義等の概要
	1-05 Alls m/ 4-95	
歯科生体材料学演習	授業形態	演習
	主担当教員	菊地 聖史/KIKUCHI Masafumi
	テーマ	最新の歯科生体材料の性質と加工法
	学習目標	最新の歯科生体材料とその加工法に関する知識を習得する。
	1 1 1 1 1	1. 歯科生体材料に求められる性質とその評価方法を理解し、説明できる。
	本小寺 口 挿	
	到達目標	2. 歯科生体材料の種類と特徴を理解し、説明できる。
		3. 歯科生体材料の加工法について原理と特徴を理解し、説明できる。
歯科生体材料学実験	授業形態	実験
	主担当教員	菊地 聖史/ KIKUCHI Masafumi
	テーマ	歯科生体材料や歯科用機器に関する実験
	学習目標	歯科生体材料や歯科医療機器に関する研究を実践することができる。
		1. 関連する文献を収集、精読し、要約を作成することができる。
		2. 課題を検討し、研究計画を立案することができる。
		3. 研究計画に基づいて実験を行うことができる。
	到達目標	4. 研究過程で生じた問題について原因究明と対処ができる。
	27,201	5. 実験データの整理と解析を行い、説明することができる。
		6. 得られた結果について考察することができる。
		7. 研究内容をまとめ、論文を作成することができる。
固定性歯科補綴治療学	授業形態	演習
演習	主担当教員	南 弘之/MINAMI Hiroyuki
	テーマ	歯科接着システムを用いた固定性歯科補綴治療
	学習目標	固定性補綴治療における接着性補綴装置を説明できる。
		1. 接着性補綴装置の種類と用いられる歯科材料の特徴について説明できる。
	型小学 口 抽	2. 接着性補綴装置に用いられる歯科接着材料の物性について説明できる。
	到達目標	3. 接着性補綴装置の予後に関与する因子について説明できる。
		4. 症例に応じた接着性補綴装置を設計することができる。
田克林华利特网公库兴	+∞ -Ψ- T/. 台ધ	
固定性歯科補綴治療学	授業形態	実 験
実験	主担当教員	南 弘之/MINAMI Hiroyuki
	テーマ	接着性歯科補綴装置の力学的解析
	学習目標	固定性歯科補綴治療における接着性補綴装置の研究を実践できる。
	于日口际	
		1. 接着性補綴装置に用いる歯科材料の力学的性質の測定法や解析法を説明できる
		2. 接着性補綴装置の問題点を解決するための研究課題を提案できる
	到達目標	3. 研究計画を作成して実験を行うことができる。
		4. 実験で得られた結果をポスターや口頭で発表することができる。
		5. 研究内容をまとめて論文を作成することができる。
口腔顎顔面形態・機能	授業形態	演 習
再建学演習	主担当教員	
行建于饭日		後藤 哲哉/ GOTO Tetsuya
	テーマ	全部・部分無歯顎と顎顔面欠損の病因・病態ならびにその治療法
	쓰기 다 1표	1. 全部・部分無歯顎と顎顔面欠損の病因・病態の研究課題について理解し、説明できる。
	学習目標	2. 全部・部分無歯顎と顎顔面欠損の治療法と治療成績の研究課題について理解し、説明できる。
		1. 種々の手段による診断と治療成績評価に関する研究の課題と方法を理解し、説明できる。
		1. 性べの子状による診断と石原成績計画に関する研究の課題と方法を理解し、説明できる。  2. 口腔顎顔面の組織の性状、病態および治療法に関する研究の課題と方法を理解し、説明で
	and take the first	きる。   ************************************
	到達目標	3. 口腔顎顔面の機能と審美性の障害の診査・診断、治療法、治療成績評価および高齢義歯患
		者の QOL の評価法に関する研究の課題と方法を理解し、説明できる。
		4. 可撤性義歯による補綴治療の材料、治療方針(義歯の設計)に関する研究の課題と方法を
		理解し、説明できる。
口腔顎顔面形態・機能	授業形態	実 験
再建学実験		
口足丁大树	主担当教員	後藤 哲哉/ GOTO Tetsuya
	テーマ	口腔顎顔面補綴に関する各種基礎的実験・臨床的研究
	学習目標	口腔顎顔面補綴に関する研究を実施し、その成果を論文としてまとめることができる。
		1. 口腔顎顔面補綴に関する研究を立案し、実践できる。
		2. シミュレーション実験、動物実験および臨床実験を実践し、その結果について説明できる。
		2. ク、エレーフョン矢線、動物矢線のより 幅が矢線で矢成し、その桁末について説明できる。  3. 臨床データ分析あるいは治療成績評価を実践し、その結果について説明できる。
	701 Nds 171 486	
	到達目標	4. 使用材料についての基礎的・臨床的試験を実施し、その結果について説明できる。
		5. 学際的あるいは他領域の高度専門知識が必要な研究課題に取り組む対策を講じることがで
		きる。
		6. 口腔顎顔面補綴に関する研究結果について考察し、論文にまとめることができる。
歯科保存学演習	授業形態	演 習
四百八八十二十四日	主担当教員	西谷 佳浩 / NISHIT ANI Yoshihiro
		1 11 1 11 11
	テーマ	歯科保存学領域における研究
		1. 保存系歯科疾患に関する諸問題を理解する。
	学習目標	2. 保存系歯科疾患の病因・病態の解明や診断・治療法の開発について、実際の臨床を理解す
		るとともに研究計画を立案する。
		1. 保存系歯科疾患の臨床における知識・手技と研究の進め方を理解し説明する。
		2. 文献検索を行う。
	到達目標	3. 医学統計手法を理解する。
		4. 解明すべき問題点を抽出する。
		5. 臨床的視点から研究計画の妥当性について説明する。
		1

4-2. 専門科目(先進	<b>冶療科子等以</b> )	
授業科目名		講義等の概要
歯科保存学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	西谷 佳浩/NISHITANI Yoshihiro
	ナーマ	歯科保存学領域における研究
	学習目標	保存系歯科疾患の病因・病態の解明、診断・治療法の開発に関する研究を実践することができる。 1. 実験計画における解明すべき問題点を説明する。 2. 必要な実験手技を会得する。
	到達目標	3. データを解釈し、具体的な対策を講じる。 4. 得られた結果が今後の臨床の発展に結びつくかどうか論理的に考察する。 5. 得られた結論を論文にまとめ発表する。
歯周疾患分子病態学、	授業形態	演習
分子遺伝解析学および	主担当教員	野口 和行/NOGUCHI Kazuyuki
口腔硬組織再生学演習	テーマ	歯周疾患あるいは口腔硬組織再生に関する基礎的・臨床的及び疫学的研究
	学習目標	1. 歯周疾患の病因を理解し、説明できる。 2. 歯周疾患に対する効果的な治療法の開発に携わる能力を修得する。
	到達目標	1. 歯周組織の構造と機能の特殊性を理解し、説明できる。 2. 歯周炎症局所での細胞間ネットワークの細胞生物学的特徴を理解し、説明できる。 3. 歯周炎症局所での細胞間ネットワークの分子生物学的特徴を理解し、説明できる。 4. 炎症や咬合性外傷による歯周組織破壊の分子機構について理解し、説明できる。 5. 全身疾患に及ぼす歯周病の影響について理解し、説明できる。 6. 歯周疾患の病因における遺伝子多型の関連について理解し、説明できる。 7. 歯周組織再生のメカニズムについて理解し、説明できる。 8. 細胞増殖因子を用いた歯周組織再生について理解し、説明できる。 9. 組織工学(Tissue Engineering)的手法を用いた硬組織再生について理解し、説明できる。
歯周疾患分子病態学、	松光工公台	
	授業形態	実験
分子遺伝解析学および	主担当教員	野口 和行/NOGUCHI Kazuyuki
口腔硬組織再生学実験	テーマ	歯周疾患あるいは口腔硬組織再生に関する基礎的実験・臨床的及び疫学的研究
	学習目標	歯周疾患の病因と治療法に関する研究を実践し、論文作成を行うことができる。
	到達目標	<ol> <li>歯周疾患の病因と治療法に関する研究を立案作成し、実践することができる。</li> <li>歯周疾患の病因と治療法の研究における問題点について、具体的な対策を講じることができる。</li> <li>歯周組織破壊の生物学的メカニズムについて検討し、説明できる。</li> <li>歯周組織再生について歴史的背景や今後の可能性を理解し、メカニズムの探究ができる。</li> <li>歯周疾患に関する研究で得られた結果について考察を深めることができる。</li> </ol>
		6. 歯周疾患に関する研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
顎顔面腫瘍発生病態	授業形態	演習
解析学演習	主担当教員	奥井 達雄/ OKUI Tatsuo
	テーマ	口腔腫瘍ならびに口腔扁平上皮癌の病態解析・診断・治療方針の立案 腫瘍患者に対する治療方針の実践
	学習目標	口腔がん、口腔腫瘍の臨床病態を画像診断・病理診断・臨床診断を統合することにより理解し、 全身状態や社会的環境を統合し、治療計画を立案する。
	到達目標	1. 口腔がん・口腔腫瘍の発生病理について理解し、説明できる。 2. 口腔がん・口腔腫瘍の生物学的特性について理解し、説明できる。 3. 口腔がん・口腔腫瘍の臨床的特徴と治療法について理解し、説明できる。 4. 口腔扁平上皮癌の浸潤増殖機構について理解し、説明できる。 5. 口腔扁平上皮癌の所属リンパ節への転移機構について理解し、説明できる。 6. 口腔扁平上皮癌の臨床病態の特徴と治療法について理解し、説明できる。 7. 画像診断・病理診断の統合的理解ができる。 8. 全身状態・社会的背景を考慮した治療方針が立案できる。
顎顔面腫瘍発生病態	授業形態	実 験
解析学実験	主担当教員	奥井 達雄/OKUI Tatsuo
	テーマ	実験的口腔扁平上皮癌の病態解析 臨床検体を用いた口腔がんの病態病因解析 口腔がんの早期発見方法の開発 顎顔面口腔疾患に関する臨床的研究
	学習目標	1. 実験的口腔扁平上皮癌の動物モデルを作成し病理組織学的検索及び遺伝子解析を中心に湿潤転移機構を解析する。 2. 臨床検体を用いた口腔がんの病態病因の解析を遺伝子解析を中心に行う。 3. 臨床検体を用いた口腔がんの早期発見方法を開発する。 4. 顎顔面口腔疾患に関する臨床的研究を行う。 5. 解析結果について論文作成を行う。
	到達目標	1. 実験的口腔扁平上皮癌の動物モデルを作成し病理組織学的検索及び遺伝子解析を中心に湿潤転移機構を解析することができる。 2. 臨床検体を用いた口腔がんの病態病因の解析を遺伝子解析を中心に行うことができる。 3. 臨床検体を用いた口腔がんの早期発見方法を開発することができる。 4. 顎顔面口腔疾患に関する臨床的研究を行うことができる。 5. 解析結果について論文作成を行うことができる。

授業科目名		講義等の概要
口腔顎顔面外科学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	西條 英人/ Saijo Hideto
	テーマ	口腔外科臨床に直結するテーマを学生ごとに選択し与える
	W. VIVI I-1 Line	1. 口腔外科疾患に由来する口腔顎顔面の機能的障害・形態的障害とその治療法を理解する。
	学習目標	2. 口腔外科に関する臨床的研究を行う上で必要な検査方法・解析方法を理解し説明できる。
		1. 口腔外科患者を対象として診断・治療の演習を行い、口腔外科疾患に関する診断治療技術を学ぶ。
	到達目標	2. 言語障害・哺乳障害・咀嚼障害などの口腔機能障害を測定分析する方法を理解し習得する。 3. 唇裂患者・顎変形症患者などの顎顔面形態を測定分析する方法を理解し習得する。 4. 現在の口腔外科学が当面する課題ならびに、口腔外科臨床の進歩・発達に有効な治療法・
		手術手技・検査法を検討し分析できる能力をつける。
口腔顎顔面外科学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	西條 英人/Saijo Hideto
	テーマ	口腔外科臨床に直結するテーマを学生ごとに選択し与える
	学習目標	口腔顎顔面外科学領域の機能障害・形態障害の原因分析・診断方法ならびに治療法の開発に必要な研究を行い、成果を論文に纏めることができる。
	到達目標	1. 自らが選んだあるいは与えられた研究課題の意義を説明できる。 2. 研究方法を立案し実施できる。 3. 得られた結果を分析し評価できる。 4. 研究結果をまとめ、学会発表すると共に論文に纏めることができる。
歯科全身機能管理制御	授業形態	演習
学演習	主担当教員	杉村 光隆/SUGIMURA Mitsutaka
	テーマ	歯科領域の全身管理に関するテーマを学生ごとに選択し与える。
	233日毎	1. 歯科治療時の全身機能管理の方法論を理解し、説明できる。
	学習目標	2. 全身的偶発症と救急処置の方法について理解し、説明できる。
	到達目標	1. 歯科治療時の全身的偶発症について理解し、説明できる。 2. 歯科用局所麻酔薬の種類と特徴について理解し、説明できる。 3. 血管収縮薬の種類と特徴について理解し、説明できる。 4. 笑気吸入鎮静法の実施方法について理解し、説明できる。 5. 静脈内鎮静法の使用薬剤と実施方法について理解し、説明できる。
		6. 歯科治療時の救命救急蘇生法について理解し、説明できる。 7. 口腔外科手術時の全身麻酔法について理解し、説明できる。 8. 歯科領域における外来全身麻酔法について理解し、説明できる。 9. 在宅高齢歯科治療の全身的問題点について理解し、説明できる。
歯科全身機能管理制御	授業形態	実験
学実験	主担当教員	杉村 光隆 / SUGIMURA Mitsutaka
	<u>テーマ</u> 学習目標	歯科領域の全身管理に関するテーマを学生ごとに選択し与える。   歯科治療および口腔外科手術時の全身機能管理と制御についての実践と論文作成を行うことが
	子日口际	できる。   1. 歯科診療や口腔外科手術時に伴う精神的・身体的ストレスについて、ストレスホルモンの
	到達目標	測定研究を通して、ストレスと身体的変化の関係について実習する。 2. 歯科用局所麻酔薬が生体の呼吸・循環動態に及ぼす生理的影響について実習する。 3. 笑気吸入鎮静法と静脈内鎮静法を実施し、生体情報監視装置を使用して心機能・循環動態変動および中枢神経機能を持続的かつ非侵襲的に解析する。 4. 心機能変化、循環動態変動、中枢神経機能評価などのテーマを選択して、教員の指導のもとに実験を行い、研究成果を論文にまとめる。
腫瘍病態病理学演習	授業形態	演習
	主担当教員	谷本 昭英/TANIMOTO Hideaki
	テーマ	腫瘍の発生と病理組織像
	学習目標	ヒト癌の病態、病理組織像及び生物学的特性について理解し説明できる。
	到達目標	1. 動物実験の基本手技について理解し、説明できる。 2. ヒト良性腫瘍及び境界病変について理解し、説明できる。 3. ヒト癌の増殖と進展に関わる癌遺伝・癌抑制遺伝子などについて理解し、説明できる。 4. ヒト癌の病理組織像について理解し、説明できる。 5. ヒト癌における予後予測因子について理解し、説明できる。
		6. 分子病理学的手法について理解し、説明できる。
腫瘍病態病理学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	谷本 昭英/ TANIMOTO Hideaki
	テーマ	実験病理
	学習目標	細胞増殖や細胞死あるいは血管増殖などの腫瘍の発生と進展に深く関わる基礎的細胞現象の解析に必要な実験をおもに培養細胞を用いて行うことができる。
	到達目標	<ol> <li>培養細胞、蛋白、DNA、RNA、大腸菌に応じた試料処理ができる。</li> <li>培養細胞、蛋白、DNA、RNA、大腸菌に応じた試薬調整ができる。</li> <li>細胞培養の基本手技ができる。</li> <li>Western blotting による蛋白発現の解析ができる。</li> <li>Northern blotting による RNA 発現の解析ができる。</li> <li>RT-PCR による RNA 発現の解析ができる。</li> <li>Molecular cloning ができる。</li> <li>Luciferase assay による遺伝子転写活性の測定ができる。</li> <li>細胞の形態学的観察ができる。</li> <li>乗文文献を検索し内容を理解できる。</li> </ol>

授業科目名		講義等の概要
放射線診断治療学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	吉浦 敬/ YOSHIURA Takashi
	テーマ	各種画像診断および放射線治療に関する演習
	学習目標	1. 各種放射線関連画像診断法の原理と特徴を理解し、説明できる。
	7日口体	2. 各種放射線関連治療法の原理と特徴を理解し、説明できる。
		1. 一般 X 線診断法の原理と特徴を理解し、説明できる。
		2. CT診断法の原理と特徴を理解し、説明できる。
		3. MRI 診断法の原理と特徴を理解し、説明できる。 4. 血管造影診断法の原理と特徴を理解し、説明できる。
	到達目標	5. 核医学診断と治療の原理と特徴を理解し、説明できる。
	77.Z.I.W.	6. 放射線外照射療法の原理と特徴を理解し、説明できる。
		7. 放射線内療法の原理と特徴を理解し、説明できる。
		8. IVR の原理と特徴を理解し、説明できる。
	1.4.101.51	9. 温熱療法の原理と特徴を理解し、説明できる。
放射線診断治療学実験	授業形態	実験
	主担当教員	吉浦 敬/YOSHIURA Takashi
	テーマ	各種画像診断および放射線治療に関する実験
	学習目標	放射線診断治療学の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 放射線診断治療学の中から研究テーマを立案作成することができる。
	到漆日锤	2. 研究テーマを実践し、データを整理できる。   3. 関連文献を収集し、整理できる。
	到達目標	3.
		5. 研究結果をまとめ、論文を作成できる。
必尿器系腫瘍学演習	授業形態	演習
o will have so to be to	主担当教員	榎田 英樹/ ENOKIDA Hideki
	テーマ	泌尿器系腫瘍の生物学的特性
		1. 泌尿器系腫瘍の生物学的特性を理解し、説明できる。
	学習目標	2. 泌尿器系腫瘍の生物学的特性を明らかにするための実験方法を理解し、結果の説明がで
		きる。
		1. 腎細胞癌の生物学的特性を理解し、説明できる。
		2. 膀胱癌の生物学的特性を理解し、説明できる。
		3. 前立腺癌の生物学的特性を理解し、説明できる。
	到達目標	4. 精巣腫瘍の生物学的特性を理解し、説明できる。 5. 腫瘍血管新生機構について理解し、説明できる。
		6. マイクロ RNA の役割について理解し、説明できる。
		7. 泌尿器系腫瘍の分子診断について理解し、説明できる。
		8. 泌尿器系腫瘍の治療について理解し、説明できる。
必尿器系腫瘍学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	榎田 英樹/ ENOKIDA Hideki
	テーマ	泌尿器系腫瘍の生物学的特性
	学習目標	泌尿器系腫瘍の生物学的特性に関わる分子の機能を明らかにし、論文を作成できる。
		1. 泌尿器系腫瘍の生物学的特性に関わる実験系を企画・立案できる。
		2. 上記の研究に関して分子生物学的実験方法を学習・取得する。
	到達目標	3. 上記実験法を実施する。
		4. 得られた実験結果について説明ができる。 5. 得られた実験結果について解析・討論ができる。
		5.   待りれた美嶽和木に ラグ・C呼が、前禰かてさる。   6. 上記実験について論文をまとめることができる。
分子腫瘍学演習	授業形態	演習
12111	主担当教員	河原 康一/KAWAHARA Kohichi
	テーマ	悪性腫瘍の生物学的特性と治療法の分子生物学的解析論
	学習目標	悪性腫瘍の分子レベルでの生物学的特性と、新しい治療の試みに関して学習する。
	7 11 11 11	1. 発がんの分子機構について説明できる。
		2. 癌遺伝子、癌抑制遺伝子について説明できる。
	到達目標	3. 増殖因子、細胞周期、細胞死、細胞老化について、癌との関連を説明できる。
	7月月日保	4. 腫瘍免疫、腫瘍微小環境について説明できる。
		5. 抗癌剤の種類、作用機構、副作用、耐性について説明できる。
フドウングで	上の一歩・エノート	6. がんの生物学的特性の理解に必要な技術と理論について理解し説明できる。
<b>分子腫瘍学実験</b>	授業形態	実験
	主担当教員	河原康一/KAWAHARA Kohichi
	テーマ	悪性腫瘍の分子的変化の同定と治療標的分子の探索
	学習目標	がん研究に関する実践と英文論文作成を行うことができる。
		1. 腫瘍生物学に関する研究を計画できる。
	到读日絤	2. Bioinformatics の知識と技術を修得し、データベースから適切な情報を収集できる。 3. 遺伝子工学、生化学、分子生物学の技術を修得し、新たな腫瘍治療の研究を実践できる。
	到達目標	3. 遺伝十工字、生化字、分十生初字の技術を修得し、新たな腫瘍治療の研究を美践できる。   4. 実験の問題点を思考と討論、それを実証するための実験により解決できる。
		5. 実験で得られた結果をまとめて英文論文を作成することができる。

	7 H M T T T T T T T T T T T T T T T T T T	all Webberg, the sec
授業科目名	1 4 - 10 1 4 1 1	講義等の概要
口腔腫瘍発生論演習	授業形態	演習
	主担当教員	笹平 智則/SASAHIRA Tomonori
	テーマ	口腔腫瘍の発生
		1. 発癌機序と口腔癌の特異性を理解し、説明できる。
	学習目標	2. 発癌機序に関連する遺伝子解析法を理解し、結果の説明ができる。
		1. 腫瘍の組織形態学的特徴を理解し、説明できる。
		2. 腫瘍の発生機序に関連する遺伝子発現・調節機構について理解し、説明できる。
		3. 化学発癌に関連する発癌機序について理解し、説明できる。
		4. 口腔扁平上皮癌と前癌病変の組織形態学的特徴を理解し、説明できる。
	到達目標	5. 歯原性腫瘍と唾液腺腫瘍の組織形態学的特徴を理解し、説明できる。
		6. 形態形成に関連する分子機構と発癌機序の関連について理解し、説明できる。
		7. 発癌に関連する遺伝子の遺伝疫学的解析法を理解し、説明できる。
		8. 発癌に関連する遺伝子変異と調節異常に関する解析結果を解釈し、説明できる。
日間に定び止みから	1点 光 エノ むじ	
口腔腫瘍発生論実験	授業形態	実験
	主担当教員	笹平 智則/SASAHIRA Tomonori
	テーマ	口腔腫瘍の発生
	学習目標	口腔腫瘍の発生機序に関連する研究の実践と論文作成ができる。
	7 1 1 1 1 1 1	1. 口腔癌動物モデルを用いた発癌感受性遺伝子の解析実験計画が立案できる。
		1. 口
	到達目標	3. 発癌感受性に関する分子遺伝学的解析結果を説明し、考察できる。
		4. 口腔腫瘍の発生に関する遺伝子転写調節機構の解析結果を説明し、考察できる。
		5. 口腔腫瘍の病理形態学的特徴について説明し、臨床的対応を説明できる。
		6. 実験結果に関する考察を深め、論文を作成することができる。
口腔腫瘍治療学・診断	授業形態	演習
学演習	主担当教員	田中 達朗/ TANAKA Tatsurou
	テーマ	顎顔面領域における放射線診断学・治療学
	学習目標	類顔面領域における放射線診断及び治療の研究法について理解する。
	子百日倧	
		1. 口腔腫瘍についての診断力を身につける。
	到達目標	2. 口腔及び顎顔面領域における放射線の作用と細胞影響について理解し、説明できる。
		3. 口腔腫瘍治療学について理解する。
口腔腫瘍治療学・診断	授業形態	実験
学実験	主担当教員	田中 達朗/ TANAKA Tatsurou
, , , ,	テーマ	
		顎顔面領域における口腔腫瘍治療学・診断学研究の実践
	学習目標	口腔腫瘍治療学・診断学研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 口腔腫瘍治療学・診断学研究を立案作成し、実践できる。
	到達目標	2. 口腔腫瘍治療学・診断学研究における問題点について具体的な対策を講じることができる。
	判廷日保	3. 口腔腫瘍治療学・診断学研究で得られた結果について考察を深めることができる。
		4. 口腔腫瘍治療学・診断学研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
小児外科学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	家入 里志/IEIRI Satoshi
	テーマ	小児外科疾患の病態解明と治療方法の開発
	学習目標	1. 小児外科疾患研究のデザイン、方法論を理解する。
	1 口口()水	2. 実験結果、臨床研究の結果の解析方法を理解する。
		1. 研究のデザインについて理解し、説明できる。
		2. 研究に必要な情報、資料の収集を行う。
	지나수 다 ##	3. 臓器の発生機序・疾患発生の時期および病態について説明できる。
	到達目標	4. 新生児消化管疾患の病態と腸管再生について説明できる。
		5. 栄養管理法及びその実際について説明できる。
		6. 呼吸器・横隔膜疾患の発生機序・時期及び病態について説明できる。
小児外科学実験	授業形態	事 験
1 / 1 / 1   十大柳八		20 00
	主担当教員	家入里志/IEIRI Satoshi
	テーマ	小児外科における基礎・臨床研究
	学習目標	小児外科領域の研究を実践し、論文作成を行う。
		1. 基礎研究を立案作成し、実施する。
		2. 臨床研究を立案作成し、実施する。
		3. 動物疾患モデル (新生児消化器疾患、横隔膜ヘルニア、胆道閉鎖など)を作成する。
	到達目標	4. 実験モデルを用いて、病態解明の方法について研究する。
	かた口が	5. 臨床材料を用いてその成因・病態を研究する。
		6. 研究結果について考察を加える。
		7. 研究成果をまとめ、論文を作成する。
2 職 -	極要が始	
心臓血管外科学演習	授業形態	演習
	主担当教員	曽我 欣治/SOGA Yoshiharu
	テ ー マ	心臓血管疾患における病態の解析と治療法の開発
		循環器疾患に於ける外科的治療学の病態・生理について理解し、現行の問題点について把握す
	学習目標	る。最先端の治療についても理解し、今後の解決すべき対策を目標に演習する。
		1. 心臓血管外科学の各論としての構造・機能について理解し、説明できる。
	will take the fine	2. 各疾患の病態生理を理解し、手術療法と問題点について理解し、説明できる。
	到達目標	3. 虚血再灌流の病態を理解し、虚血再灌流障害について理解し、説明できる。
		4. 心臓血管外科学の最先端治療について理解し、説明できる。
		5. 心臓血管外科学の将来の治療の進むべき方向性について議論できる。

4-2. 専門科目(先進	<b>造治療科学専攻)</b>	
授業科目名		講義等の概要
心臓血管外科学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	曽我 欣治/SOGA Yoshiharu
	テーマ	心臓血管疾患における病態の解析と治療法の開発
	学習目標	心臓血管外科学における研究と実験を行い、論文作成を行うことができる。
		心臓血管外科学の現状の問題点を理解し、研究を立案、遂行する。得られた結果の考察から論
	到達目標	文作成を行う。
呼吸器外科学演習	授業形態	演習
	主担当教員	上田 和弘/UEDA Kazuhiro
	テーマ	呼吸器疾患における先進治療体系
	7 - 4	呼吸器疾患に於ける外科的治療学の病態・生理について理解し、現行の問題点について把握する。
	学習目標	最先端の治療についても理解し、今後の解決すべき対策を目標に演習する。
	到達目標	1. 呼吸器外科学の各論としての構造・機能について理解し、説明できる。 2. 各疾患の病態生理を理解し、手術療法と問題点について理解し、説明できる。 3. 肺癌の遺伝子異常とその病態を理解し、説明できる。 4. 肺機能の温存と改善を踏まえた治療法を理解し、説明できる。 5. 呼吸器外科学の最先端治療について理解し、説明できる。
	t or after many date	6. 呼吸器外科学の将来の治療の進むべき方向性について議論できる。
呼吸器外科学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	上田 和弘/ UEDA Kazuhiro
	テーマ	呼吸器疾患における先進治療体系
	学習目標	呼吸器疾患の病態と診断、治療について総括的に習得する。
		1. 研究の立案を作成し、実践できる。
		2. 研究における問題点について具体的な対策を講じることができる。
	到達目標	3. 統計学的解析を実践し、その結果について説明できる。
		4. 研究で得られた結果について考察を深めることができる。
		5. 研究で得られた結果をまとめ、論文を作成することができる。
腫瘍制御学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	大塚 隆生/OHTSUKA Takao
	テーマ	消化器癌に対する外科の役割と基礎研究の架け橋
	学習目標	腫瘍に対する集学的治療の中での外科治療の役割を理解し、とくに先端的外科治療法について
	于日口标	は遅滞なくその内容と問題点を学ぶ。
	到達目標	<ul> <li>2. 機能温存と根治性の相反、両者の適応選択について説明できる。</li> <li>3. 鏡視下手術やロボテック・サージェリー、センチネルノードナビゲーションサージェリーの意義と適応を説明できる。</li> <li>4. 手術時の腫瘍細胞の播種・遊離癌細胞の血中移行の危険性と防止策を説明できる。</li> <li>5. 外科治療の役割、限界、合併症、患者・家族へのインフォームド・コンセントについて説明できる。</li> </ul>
腫瘍制御学実験	授業形態	実験
	主担当教員	大塚 隆生/OHTSUKA Takao
	テーマ	癌に対する手術操作の演習と分子生物学的研究
	学習目標	テーマ研究の遂行と論文作成ができる。
	于日日标	1. 専門医療人の育成を目的として低侵襲性手術操作の演習を行う。
	到達目標	1. 号   日本
乳腺甲状腺外科学演習	授業形態	演習
	主担当教員	中条 哲浩/NAKAJO Akihiro
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
乳腺甲状腺外科学実験	授業形態	実験
AUNC WINCHIT TOWN	主担当教員	中条 哲浩 / NAKAJO Akihiro
	テーマ	未定
		111
	学習目標	未定
	到達目標	未定
再生・移植学演習	授業形態	演習
(開講未定)	主担当教員	未 定
	テーマ	癌・再生医療
	学習目標	1. 癌医療の現状を理解し説明できる。   2. 癌・再生医学を理解し説明できる。
	到達目標	1. 再生医学を必要とする癌医療の現状を理解し、説明できる。 2. 癌・再生医療に伴う情報を解析し、説明できる。 3. 難治性癌について理解し、説明できる。 4. 癌と幹細胞の関連性について理解し、説明できる。 5. 癌幹細胞の研究と応用について理解し、説明できる。 6. 癌転移モデルの作成と転移に関する研究について理解し、説明できる。
		6. 癌転移モデルの作成と転移に関する研究について理解し、説明できる。 7. 癌の生物学について理解し説明できる。

授業科目名		講義等の概要
	+∞ #F π/ 台L	
再生・移植学実験	授業形態	実 験
(開講未定)	主担当教員	未 定
		癌・再生医療
	学習目標	癌・再生医学に関する研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 実験のプロトコールを作成し、実践できる。
		2. 人道的条件下で動物実験を実施できる。
	到達目標	3. 実験中に生じるバイオハザードなどの問題点を説明でき、対応できる。
	月足口你	4. 実験で得られた成績を解析し、説明できる。
		5. 実験で得られた成績について考察ができる。
		6. 実験で得られた成績をまとめ論文作成ができる。
異種移植外科免疫学演習	授業形態	演習
	主担当教員	佐原 寿史/SAHARA Hisashi
	テーマ	異種移植研究と臨床移植への応用
	学習目標	臓器移植とは何かを理解し、現在の移植の問題点を把握したうえで、臓器置換における有用な 先端戦略である異種移植に関する基礎医学知識を理解し最先端研究成果を把握する。
		1. 移植とは何かを理解し、移植の適応・臨床成績・現在の問題点を説明できること。
	到達目標	2. 移植免疫の観点から、拒絶反応の機序を説明できること。
	到连日保	3. 異種移植とは何かを理解し、臨床応用への障壁を説明できること。
		4. 異種移植のこれまでの研究成果を把握し、更に最先端研究戦略を理解し説明できること。
異種移植外科免疫学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	佐原 寿史/SAHARA Hisashi
	テーマ	異種移植研究と臨床移植への応用
		前臨床大動物移植モデルを用いた様々な移植関連手技の実践と免疫学アッセイの修得、および
	学習目標	英語による学会発表や論文作成技術の修得
		1. 論文に記載される実験方法を理解し、自ら実験プロトコールを作成し、実践できること。
		2. 移植免疫学を理解し、細胞・液性的免疫アッセイを実践できること。
		3. 移植外科手術の流れを理解し、実験計画書に則り大動物移植実験に参加すること。
	到達目標	4. 実験で得られた結果を解析し、考察を含めた結果の説明ができること。
		5. 4でまとめた結果を英語によりプレゼンテーションし、さらに英文レポートとして報告が
		できること。
		6. 論文作成の手順を理解し、実際に英文での論文作成ができるようになること。
再生・再建移植学演習	授業形態	演習
(開講未定)	主担当教員	未 定
	テーマ	幹細胞とその再生医療への応用
		1. 幹細胞とは何か、それがどのようにして単離され、あるいは誘導されるかについて理解し、
	学習目標	説明できる。
	1 1 1 1 1	2. 幹細胞の分化誘導に伴う分化型細胞の取得について理解し、それがいかに再生医療分野 へ貢献されているかを説明できる。
		1. 幹細胞とは何かを理解し、説明できる。
		2. 様々な種類の幹細胞がどのように発見され、単離されるかを理解し、説明できる。
	and take the first	3. 幹細胞の中でも特に胚性幹細胞は発生工学領域に重要な道具となっていることを理解し、
	到達目標	説明できる。
		4. 幹細胞から様々なタイプの分化型細胞が生じる機構について理解し、説明できる。
		5. 幹細胞研究が現在難治とされる疾患(例えば、心筋梗塞、脊椎損傷、パーキンソン氏病等)   の復元(再生医療)にどのように利用されているかを理解し、説明できる。
五	極要形能	
再生・再建移植学実験 (開講未定)	授業形態	実験
(四两个儿)	主担当教員	未定
	テーマ	幹細胞とその再生医療への応用
	学習目標	幹細胞、特に胚性幹細胞を発生工学的に誘導する研究の実践と論文作成を行うことができる。
		1. 論文に記載される方法を理解し、実験プロトコールを作成し、実践できる。
		2. 組換え DNA 実験指針に基づき、適正な遺伝子組換え実験を遂行できる。
	到達目標	3. 人道的条件下で動物実験を遂行できる。   4. 実験で得られた成績を解析し、説明できる。
		4. 実験で得られた成績を解析し、説明できる。   5. 実験で得られた成績について考察できる。
		5. 美駅で待られた成績について考察できる。   6. 実験で得られた成績をまとめ、対外発表(学会発表、論文発表)ができる。
高度がん医療学実習	授業形態	り、 大歌(行うれた成績とよどめ、州介h社及(子式光及、 画文光衣)が くさる。 実 習
回及が心区原子天白		77 -
	主担当教員	鈴木 紳介/SUZUKI Shinsuke
	テーマ	ゲノム医療とそれに基づいた薬物療法を中心に学ぶ実習コース
	学習目標	ゲノム関連の実習をしながら、ゲノム医療とそれに基づいた薬物療法を学ぶ
吃 -	到達目標	臨床データとがんゲノムデータを解析し、論文にまとめる(論文作成)
臨床情報医工学演習	授業形態	演 習
	主担当教員	松下 茂人 / MATSUSHITA Shigeto
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
臨床情報医工学実験	授業形態	実 験
	主担当教員	松下 茂人 / MATSUSHITA Shigeto
	テーマ	未定
	学習目標	未定
	到達目標	未定
	~ 1~ II IV	

	: Z .
テーマ 造血器腫瘍を中心とした血液内科学 学習目標 造血器腫瘍患者の適切な治療の実践のため、臨床病態・診断方法および治 1. 造血器腫瘍について種類や特徴について説明する。 3. 各疾患の病因・病態について説明する。 3. 各疾患の現在までの治療成績や今後の治療法について説明する。 4. 産血器腫瘍を中心とした血液内科学 学習目標 造血器腫瘍を中心とした血液内科学 学習目標 造血器腫瘍の診断・病態解析・治療における臨床的解析と論文作成ができ 1. 造血器腫瘍患者の正確な診断を行う。 2. 疾患の臨床病態を解析する。 3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。 4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実 5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。 がん診療医学演習 授業形態 演 習 主担当教員 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	: Z .
学習目標 造血器腫瘍患者の適切な治療の実践のため、臨床病態・診断方法および治 1. 造血器腫瘍について種類や特徴について説明する。 2. 各疾患の病因・病態について説明する。 3. 各疾患の現在までの治療成績や今後の治療法について説明する。 1. 音血器腫瘍を中心とした血液内科学 学習目標 造血器腫瘍の診断・病態解析・治療における臨床的解析と論文作成ができ 1. 造血器腫瘍患者の正確な診断を行う。 2. 疾患の臨床病態を解析する。 3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。 4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実 5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。がん診療医学演習 授業形態 演 習 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	: Z o
学習目標 造血器腫瘍患者の適切な治療の実践のため、臨床病態・診断方法および治 1. 造血器腫瘍について種類や特徴について説明する。 2. 各疾患の病因・病態について説明する。 3. 各疾患の現在までの治療成績や今後の治療法について説明する。 1. 音血器腫瘍を中心とした血液内科学 学習目標 造血器腫瘍の診断・病態解析・治療における臨床的解析と論文作成ができ 1. 造血器腫瘍患者の正確な診断を行う。 2. 疾患の臨床病態を解析する。 3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。 4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実 5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。がん診療医学演習 授業形態 演 習 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	: Z₀
1. 造血器腫瘍について種類や特徴について説明する。 2. 各疾患の病因・病態について説明する。 3. 各疾患の現在までの治療成績や今後の治療法について説明する。 (開講未定) 授業形態 実験 (理工当教員 伊藤 能清/ITO Yoshikiyo	: Z₀
2. 各疾患の病因・病態について説明する。 3. 各疾患の現在までの治療成績や今後の治療法について説明する。 性業形態 実験 (開講未定)	
3. 各疾患の現在までの治療成績や今後の治療法について説明する。 性液腫瘍学実験 (開講未定) 接業形態 実験	
無液腫瘍学実験 (開講未定) 接業形態 実験 (開講未定) 生担当教員 伊藤 能清/ITO Yoshikiyo テーマ 造血器腫瘍を中心とした血液内科学 学習目標 造血器腫瘍の診断・病態解析・治療における臨床的解析と論文作成ができ 1. 造血器腫瘍患者の正確な診断を行う。 2. 疾患の臨床病態を解析する。 3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。 4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実 5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。がん診療医学演習 授業形態 演習 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	
主担当教員         伊藤 能清/ITO Yoshikiyo           テーマ         造血器腫瘍を中心とした血液内科学           学習目標         造血器腫瘍の診断・病態解析・治療における臨床的解析と論文作成ができ           1. 造血器腫瘍患者の正確な診断を行う。         2. 疾患の臨床病態を解析する。           3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。         4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実           5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。           がん診療医学演習         授業形態           主担当教員         上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	
テーマ 造血器腫瘍を中心とした血液内科学 学習目標 造血器腫瘍の診断・病態解析・治療における臨床的解析と論文作成ができ  1. 造血器腫瘍患者の正確な診断を行う。 2. 疾患の臨床病態を解析する。 到達目標 3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。 4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実 5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。 がん診療医学演習 授業形態 演 習 主担当教員 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	
テーマ 造血器腫瘍を中心とした血液内科学 学習目標 造血器腫瘍の診断・病態解析・治療における臨床的解析と論文作成ができ 1. 造血器腫瘍患者の正確な診断を行う。 2. 疾患の臨床病態を解析する。 3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。 4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実 5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。	
学習目標 造血器腫瘍の診断・病態解析・治療における臨床的解析と論文作成ができる。 1. 造血器腫瘍患者の正確な診断を行う。 2. 疾患の臨床病態を解析する。 3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。 4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実 5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。 がん診療医学演習 授業形態 演 習 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	
1. 造血器腫瘍患者の正確な診断を行う。 2. 疾患の臨床病態を解析する。 3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。 4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実 5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。 がん診療医学演習 授業形態 演 習 主担当教員 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	
2. 疾患の臨床病態を解析する。         3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。         4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実         5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。         がん診療医学演習       漢 習         主担当教員       上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	
到達目標   3. 造血器腫瘍患者の治療方針を立て、治療の実践を行う。	
4. 造血細胞移植の必要な患者においては十分な説明のもと同意を得て実 5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。 がん診療医学演習 授業形態 演 習 主担当教員 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	ann à a
5. 治療成績を含む臨床的解析を行い、結果をまとめ、論文を作成する。       がん診療医学演習     授業形態     演習       主担当教員     上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	
がん診療医学演習     授業形態     演習       主担当教員     上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	.践する。
主担当教員 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	
主担当教員 上之園 芳一/ UENOSONO Yoshikazu	
学習目標 消化器癌の疾患ごとの診断および病態、進行度に応じた治療方針の選択につ	
到 食道癌、胃癌、大腸癌を中心に、臓器ごとの取扱い規約および治療ガイト	・ラインや臨床試験
到達目標果を理解し、病態把握、治療方針の決定ができる。	
がん診療医学実験 授業形態 実験	
テーマ 消化器癌に対する薬物治療	
学習目標 分子標的マーカー等の情報を基に、最新の適切な化学療法の選択が可能に	なる。
疾患に応じた抗癌剤の選択が理解できる。	
分子標的マーカーに応じた分子標的治療薬の選択が理解できる。	
到達目標 免疫チェックポイント阻害剤による治療が理解できる。	
薬物治療による効果判定が理解できる。	
化学療法における副作用マネージメントが理解できる。	
総合救命救急医学 I 演習 演 習 演 習	
主担当教員   濱崎 順一郎/HAMASAKI Junichiro	
テーマ 救急・集中治療領域における重症患者の病態と治療戦略	
<b>歩</b> 台・作由込成医学に関わる幅度い知識と宣産の専門技術な羽進せると出	こと 日党の重症出
学習目標管理から臨床的課題を見出し、これを研究、解明する能力を身に付ける。	
1. 本邦の救急医療システムの現状と問題点を説明できる。	71.1 - 12 2 - 2
2. 救急患者の重症度と緊急度を的確に判断し、トリアージを含めた初期	
到達目標 3. 救急・集中治療医学における様々な病態を理解し、治療法を説明でき	
4. 侵襲子の基礎と臨床について理解し、侵襲に対する生体反応について	
5. 多臓器不全に伴う DIC や ARDS の病態を理解し、最新の治療法を説	
6. 重症患者管理の中から臨床的研究課題を見出し、解明に結びつく研究	fを立案できる。
総合救命救急医学 I 実習   授業形態   実 習	
主担当教員 濱崎 順一郎/HAMASAKI Junichiro	
テーマ 救急・集中治療領域における重症患者の病態に関する研究	
対急・集中治療領域における基礎・臨床研究を立案、実施し、適切な情報	この収集とデータの
<sup>デロロ</sup> で  析を行って医学論文としてまとめることができる。	
1. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる知識を習得す	·る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。	
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。 3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を翌得す	`る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。 3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す	<sup>-</sup> る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。 3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す 4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。	-る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。 3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す 4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。 5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。	-る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。 3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す 4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。 5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。 6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。	~る。 
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。 3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す 4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。 5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。 6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。 新生児病学演習 授業形態 演 習	-る。 
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。 3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す 4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。 5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。 6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。	- る。 
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。         3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す         4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。         5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。         6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。         新生児病学演習       漢 習         主担当教員       上塘 正人/ KAMITOMO Masato	- る。 
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。         3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す         4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。         5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。         6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。         新生児病学演習       漢 習         主担当教員       上塘 正人/ KAMITOMO Masato         テ ー マ       新生児疾患の臨床と基礎	- る。 
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。         3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す         4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。         5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。         6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。         新生児病学演習         接業形態         主担当教員         上塘 正人/ KAMITOMO Masato         テーマ         新生児疾患の臨床と基礎         学習目標         新生児疾患の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。	- Z .
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。         3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す         4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。         5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。         6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。         新生児病学演習         接業形態         主担当教員         上塘 正人/ KAMITOMO Masato         テーマ         新生児疾患の臨床と基礎         学習目標         新生児疾患の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。         1. 新生児疾患の特性を理解し、説明できる。	-る。 -
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。         3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す         4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。         5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。         6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。         董里当教員       上塘 正人/ KAMITOMO Masato         テーマ       新生児疾患の臨床と基礎         学習目標       新生児疾患の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。         1. 新生児疾患の特性を理解し、説明できる。       2. 新生児の呼吸障害について理解し、説明できる。	-る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す	-る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す	-る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す	- Z .
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す  4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。  5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。  6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。  演 習	- Z .
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す	-る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す	- る。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。         3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す         4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。         5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。         6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。         万 マ 新生児疾患の臨床と基礎         学習目標       新生児疾患の臨床と基礎         学習目標       新生児疾患の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。         1. 新生児疾患の所性を理解し、説明できる。       2. 新生児の呼吸障害について理解し、説明できる。         3. 新生児の循環障害について理解し、説明できる。       4. 新生児の循環障害について理解し、説明できる。         5. 新生児の代謝異常・血液異常について理解し、説明できる。       5. 新生児の代謝異常について理解し、説明できる。         新生児病学実習       技業形態       実習         主担当教員       上塘 正人/ KAMITOMO Masato         ア マ Neonatal Disease       Neonatal Disease	
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す  4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。  5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。  6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。  演 習	
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。         3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す         4. 研究計画に基づいた臨床研究が実施できる。         5. 研究結果を正しく分析解釈し、考察できる。         6. 研究結果を国内外の学会で発表し、論旨をもって論文を作成できる。         新生児病学演習       演習         上塘 正人/ KAMITOMO Masato         テーマ 新生児疾患の臨床と基礎         学習目標 新生児疾患の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。         1. 新生児疾患の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。         2. 新生児の呼吸障害について理解し、説明できる。         3. 新生児の循環障害について理解し、説明できる。         4. 新生児の循環障害について理解し、説明できる。         5. 新生児の代謝異常・血液異常について理解し、説明できる。         7. マ Neonatal Disease	
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す	<b>べきる</b> 。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す	できる。
2. 救急・集中治療分野における臨床研究を立案できる。  3. 救急・集中治療医学に関する研究において必要とされる技術を習得す	『できる。 理解し、実践できる 『きる。

4-2. 导门村日(元進		all V. M
授業科目名		講義等の概要
総合がん診療医学I演習	授業形態	演習
	主担当教員	堀 剛/ HORI Takeshi
	テーマ	がんの疫学、病態、診断、治療に関する臨床研究
	学習目標	がんの疫学、病態、診断、治療について理解し、高度ながん診療の実践に必要な知識を修得する。
	到達目標	1. 消化器がんを中心にがんの疫学について理解し、説明できる。 2. 消化器がんを中心にがんの発生や進展などの病態について理解し、説明できる。 3. 消化器がんを中心にがんの診断法について理解し、説明できる。 4. がんの薬物療法、放射線療法について理解し、説明できる。
総合がん診療医学I実習	授業形態	実 習
	主担当教員	堀 剛/ HORI Takeshi
	テーマ	がんの疫学、病態、診断、治療に関する臨床研究
	学習目標	がんの疫学、病態、診断、治療に関する臨床研究を行い、医学論文としてまとめることができる。
	到達目標	1. がんの発生につながる要因や病態について理解し、説明できる。 2. 消化器・肝胆膵がんの前がん病変について理解し、説明できる。 3. 消化器・肝胆膵がんの進展や転移の機序を理解し、説明できる。 4. 消化器・肝胆膵がんの(早期)診断法について理解し、説明できる。 5. 消化器・肝胆膵がんの病期分類と治療について理解し、実践できる。 6. がんの薬物療法について有用性・副作用を理解し、臨床で応用できる。 7. がんの放射線治療について理解し、実践できる。 8. 消化器・肝胆膵がんの最適な治療法の選択ができる。
総合診療医学における	授業形態	演習
循環器病学演習	主担当教員	桶谷 直也/OKETANI Naoya
	テーマ	総合診療における循環器疾患の臨床研究
	学習目標	循環器疾患の病因、病態、診断法、治療法を述べることができる。
	到達目標	1. 循環器疾患の病因を理解し、説明できる。     2. 循環器疾患の病態を理解し、説明できる。     3. 循環器疾患の診断法を理解し、説明できる。     4. 循環器疾患の治療法を理解し、説明できる。     5. 虚血性心疾患の予防医学の意義を述べることができる。
総合診療医学における	授業形態	実 習
循環器病学実習	主担当教員	桶谷 直也/OKETANI Naoya
	テーマ	総合診療における循環器疾患の臨床研究
	学習目標	総合診療における循環器疾患の基礎・臨床研究を行い、医学論文としてまとめることができる。
	到達目標	1. 循環器領域における基本的な分子生物学的手法を理解し、実践できる。 2. 統計解析手法を理解し、実践できる。 3. 循環器疾患に関する実験や臨床研究を通し、論文を作成することができる。